	ビジネスコミュニケーション学	
	専攻(ビジネスコニュニケーシ	平成29年度 (2017年度)
	コン学コーフ)	 

学科到達目標

準学士課程のビジネスコミュニケーション学科で習得した社会学系知識の応用力を育み、さらに専門性を深める科目を履修する。くわえて、工学系とビジネス系のシナジー効果を期待できる科目を履修することにより、工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材の育成をめざす。また、復興人材育成特別プログラムをはじめとするカリキュラムにより、社会の持続可能性に配慮しながら地域社会の発展に貢献するとともに、たしかなコミュニケーション能力と国際感覚をもち、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍する人材を育成する。

														7	
						1	週当授業	美時数		T				4	
科目分	区	  授業科目	科目番号	単位種 別	単位数	専1年				専2年				担当教員	履修上の区分
TT			5	万川		前	100	後	1.0	前	100	後	140	貝 	の区分
亩	强			学修単		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	<u>」</u> □佐藤 正	
専門	選 択	放射線工学	0027	位	2			2						知	
専門	必修	特別研究 I	0028	学修単 位	5	2.5		2.5						原田正光,湯川崇	
専門	必修	新事業開発	0029	学修単 位	2	2								西口 美津子	
専門	必修	生産管理論	0030	学修単 位	2	2								が 武	
専門	必修	モノづくり概論	0031	学修単 位	2	2								鈴木 茂 和,芥 川 一則	
専門	必修	経営管理論	0032	学修単 位	2			2						湯川崇	
専門	必修	データベース論	0033	学修単 位	2			2						湯川崇	
専門	必修	経営学演習	0034	学修単 位	2	6								湯川崇	
専門	必修	システムデザイン演習	0035	学修単位	2	1		1						鄭小瑞鈴晴植規田尾慎川齊充西美若晃耀出康木彦英車研形緑猛藤弘口津林央陽	
専門	必修	インターンシップA	0036	学修単 位	2	集中講	義							原田正光,湯川崇	
専門	選 択	財務諸表論	0037	学修単 位	2	2								安部 智博	
専門	選択	環境保全工学	0038	学修単 位	2	2								押手 茂克,原田 正光	
専門	選択	広告メディア論	0039	学修単 位	2			2						山口泰博	

専門	選 択	再生可能エネルギー工学	0040	学修単 位	2	2	徐 艶濱
専門	選択	インターンシップB	0041	学修単 位	2	集中講義	原田 正 光,湯 川 崇
専門	選 択	原子力安全工学	0001	学修単 位	2	2	實川 資朗
専門	選択	応用防災通信	0002	学修単 位	2	2	霜田 宜久
専門	選 択	都市経済学	0003	学修単 位	2	2	芥川 一 則
専門	必修	特別研究 II	0004	学修単 位	7	3.5 3.5	湯川 崇
専門	必修	グローバル経営論	0005	学修単 位	2	2	_1Δ7- t ")
専門	必修	産業安全工学総論	0006	学修単位	2		實別,正豐 別,正豐 病電下 病電 原 大正豐 明 大正豐 明 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐 大正豐
専門	選択	数理意思決定論	0007	学修単 位	2	2	杉山 武史
専門	選択	経済産業論	8000	学修単 位	2	2	芥川 一 則
専門	選択	減災工学	0009	学修単 位	2	2	金澤伸
専門	選 択	経営分析論	0010	学修単 位	2		安部 智博
専門	選択	インターンシップC	0011	学修単 位	2	集中講義	原田 正 光,湯 川 崇

ったっ		空 古 田 学 -	· 明華左原	棄 収代20年度 /2	0017年度)	拉茶扒口	th fills file 下 峃	
		等専門学	対	度 │平成29年度 (2	<u>/UI/平皮)</u>	授業科目	放射線工学	
科目基础	定  育報				Talene ()		le.	
科目番号		0027	\		科目区分	専門/選		
授業形態		講義・ ビジネ			単位の種別と単位		: 2	
開設学科		コニュ 後期	.ニケーション学コ	<b>-</b> ス)	刈象于牛	専1		
<u>開設期</u> 教科書/教	7++	型 15 期 配布資	Z WN		週時間数	2		
教科音/多 担当教員	(1/2)	佐藤 正						
	<b>====</b>	江豚 1	드게					
到達目板 原子核の 物の管理・	- 速変に係	 わる過程が社 設計を進める		動や社会の安全や地球 役立つ基礎学力を身に	 環境の形成等に深く つける	(関わっているこ	とを学ぶ原子:	
<u> </u>		DELL'EST	7工での文工権がに	及立り生成了方で方に	20, 0.			
<u>/レーフ :</u>	ノッン		T田相がナングいき	1 ベルの日空	煙淮的かぶはまし べ	山の日字	土列達しベル	 の日安
-				シングルの目安 シ内容を理解し、応用	標準的な到達レベータを受験である。		未到達レベル	<u>の日安</u> 内容を理解していな
評価項目:			合授業項目の できる。	)内容を理解し、応用 	合投業項目の内容 。	を理解している	合投業項目の い。	内容を理解していな 
評価項目2							+	
評価項目:		### C ! -						
		票項目との	関係					
学習・教		目標 (B)						
教育方法	去等							
概要		天然の れるai く低漏	)放射性物質を含む 線やβ線、γ線とその 化、放射線の遮へ	物質の由来, 地球環境 の特性, 放射線と物質の い, 核燃料サイクル,	の形成過程における の相互作用, 放射線 放射性廃棄物の処分	うつラン鉱床の形の計測, 自然放り の計測, 自然放り など長期安全確保	成,放射性核種の 射線による内部被 について学ぶ	の原子核から放出さ 皮ばく評価, 外部被ば
	めた。ち	<b>I</b>	י בייל בייאוננגענו לחוא	V 1 12/11/12 1 2/0/ !				
授業の進								
	<i>,,,,,,,</i>	白学自		 ポートで確認する				
授業の進		白学自	習の確認方法 : レ:  -トの成績を60%,	ポートで確認する 小テストの成績を40%	6として総合的に評(	価し, 60点以上 <sup>;</sup>	を合格とする	
注意点		自学自レポー	- トの成績を60%,	ポートで確認する 小テストの成績を40%				
注意点		自学自レポー	- トの成績を60%, 授業内容	ポートで確認する 小テストの成績を40%	ji	周ごとの到達目標		4-1
注意点		自学自 レポー 週 1週	<ul><li>・トの成績を60%,</li><li>授業内容</li><li>元素の生成</li></ul>	小テストの成績を40%	ો t	周ごとの到達目標 ビックバン, 星の		成
注意点		自学自 レポー 週 1週 2週	<ul><li>・トの成績を60%,</li><li>授業内容</li><li>元素の生成</li><li>光合成と地球環</li></ul>	小テストの成績を40%	〕 と フ	周ごとの到達目標 ビックバン, 星の 大気成分の変化	票 D形成, 元素の形	
注意点		自学自 週 1週 2週 3週	<ul><li>・トの成績を60%,</li><li>授業内容</li><li>元素の生成</li><li>光合成と地球環</li><li>鉄鉱床,ウラン</li></ul>	小テストの成績を40%	มี t ว	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度	票 D形成,元素の形 g増加に伴う鉱床	
注意点		自学自 レポー 週 1週 2週 3週 4週	<ul><li>・トの成績を60%,</li><li>授業内容</li><li>元素の生成</li><li>光合成と地球環</li><li>鉄鉱床,ウラン</li><li>原子核の壊変</li></ul>	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成	มี t ว่ ว	週ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 1崩壊,β崩壊,γ	票 D形成,元素の形 医増加に伴う鉱床 線の放出	形成
注意点	<b>1</b>	直 り 1週 2週 3週 4週 5週	<ul><li>・トの成績を60%,</li><li>授業内容</li><li>元素の生成</li><li>光合成と地球環</li><li>鉄鉱床, ウラン原子核の壊変</li><li>自然界の放射能</li></ul>	小テストの成績を40% 境の形成 鉱床の形成	มี E ว่ a	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 i崩壊,β崩壊,γ フランとトリウム	票 D形成,元素の形 度増加に伴う鉱床 線の放出 aおよびK-40とC	形成
注意点	<b>1</b>	自学自 レポー 1週 2週 3週 4週 5週 6週	<ul><li>・トの成績を60%,</li><li>授業内容</li><li>元素の生成</li><li>光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン</li><li>原子核の壊変</li><li>自然界の放射能 放射線を測る/</li></ul>	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器	道 た プ つ c で	周ごとの到達目標 ビックバン, 星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 前壊, β崩壊, γ フランとトリウム GM管, 比例計数	票 D形成,元素の形 度増加に伴う鉱床 線の放出 ムおよびK-40とC 管他	形成
注意点	<b>1</b>	自学自 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	- トの成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床, ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器(	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1)	道 た オ カ ロ で ら	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊,β崩壊,γ フランとトリウム GM管,比例計数 、ンド構造,電流	票 D形成, 元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 なおよびK-40とC 管他 記に変換, MCA	形成
注意点授業計區	<b>1</b>	題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	大の成績を60%,   授業内容   元素の生成   光合成と地球環   鉄鉱床, ウラン原子核の壊変   自然界の放射能   放射線を測る/   半導体検出器 ( 半導体検出器 (	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2)	ジ と ラ す G リ	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊,γ ウランとトリウム GM管,比例計数 、バンド構造,電流 エネルギー校正と	票 D形成,元素の形 E増加に伴う鉱床 線の放出 AおよびK-40とC 管他 記に変換,MCA :幾何学的校正	·形成 14
注意点	<b>1</b>	題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	大の成績を60%,	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1)	道 と 対 の で で り フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ	週ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊,β崩壊,γ ウランとトリウム GM管,比例計数 ベンド構造,電流 にスルギー校正と 線の非弾性散乱	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 ムおよびK-40とC 管他 能に変換,MCA -幾何学的校正 (コンプトン散起	·形成 14
注意点授業計區	<b>1</b>	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	- トの成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 物質と放射線の	小テストの成績を409 場の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2)	近 た プ の ご で ひ フ ア フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 前壊,β崩壊,γ フランとトリウム GM管,比例計数 バンド構造,電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 なおよびK-40とC 管他 低に変換,MCA 二幾何学的校正 (コンプトン散記 二月失過程	形成 E-14 fL)
注意点	<b>1</b>	国 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 半導体検出器( 物質と放射線の 大然K-40による	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 た プ つ C C ノ フ フ C C	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 前壊,β崩壊,γ フランとトリウム GM管,比例計数 ベンド構造,電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 な射線のエネルキ 本内4000BqのK・	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 およびK-40とC 管他 記に変換,MCA 二幾何学的校正 (コンプトン散記 二月失過程 -40と線量当量評	形成 E-14 fL)
	<b>1</b>	は 調 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床, ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 物質と放射線の 天然K-40による 放射線の遮へい	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 た プ の で ら ひ ソ カ ス な な た た く く く く く く く く く く く く く く く く	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊,β崩壊,γ フランとトリウム GM管,比例計数 ベンド構造,電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK- 線の減衰の過程	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 およびK-40とC 管他 配に変換,MCA 二幾何学的校正 (コンプトン散記 二月失過程 -40と線量当量評 と遮へい	形成 C-14 乱)
注意点授業計區	到 3rdQ	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 大然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 日 フ フ ロ ロ ロ ロ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 前壊,β崩壊,γ フランとトリウム GM管,比例計数 バンド構造,電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルギ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 再処理と廃棄物の	票 D形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 AおよびK-40とC 管他 に変換,MCA 送例学的校正 (コンプトン散記 一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取	形成 C-14 乱)
注意点授業計區	到 3rdQ	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 半導体検出器( 物質と放射線の 大然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル 放射性廃棄物の	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 日 フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	関の形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 いまよびK-40とC 管他 に変換,MCA た幾何学的校正 (コンプトン散記 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい の発生,各国の取 の基本的な過程	形成 E-14 乱) 型価
注意点	到 3rdQ	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 大然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 日 フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	票 D形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 AおよびK-40とC 管他 に変換,MCA 送例学的校正 (コンプトン散記 一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取	形成 E-14 乱) 型価
注意点 授業計區	3rdQ	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 大然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル 放射性廃棄物の まとめと議論	小テストの成績を409 場の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 日 フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ フ	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	関の形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 いまよびK-40とC 管他 に変換,MCA た幾何学的校正 (コンプトン散記 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい の発生,各国の取 の基本的な過程	形成 E-14 乱) 型価
注意点 授業計區	3rdQ	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床, ウ壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 天然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル 放射性廃棄物の まとめと議論	ボデストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 を放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 日 フ フ ロ 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	関の形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 いまよびK-40とC 管他 に変換,MCA た幾何学的校正 (コンプトン散記 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい の発生,各国の取 の基本的な過程	形成 E-14 乱) 型価
注意点 授業計画 後期	3rdQ	周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床,ウラン 原子核の壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 天然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル 放射性廃棄物の まとめと議論	ボデストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 を放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく	近 日 フ フ ロ 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 およびK-40とC 管他 に変換,MCA 送傾学的校正 (コンプトン散起 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取 D基本的な過程 様々な切り口で意	形成 E-14 乱) 型価
注意点授業計画	国 3rdQ 4thQ	周 回 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	下の成績を60%, 授業内容 元素の生成 光合成と地球環 鉄鉱床, ウ壊変 自然界の放射能 放射線を測る/ 半導体検出器( 物質と放射線の 天然K-40による 放射線の遮へい 核燃料サイクル 放射性廃棄物の まとめと議論	ボデストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 を放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく 管理	近 日 フ フ ロ 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 およびK-40とC 管他 に変換,MCA 送傾学的校正 (コンプトン散起 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取 D基本的な過程 様々な切り口で意	形成 C-14 乱) 配価 じ組み
注意点授業計画	国 3rdQ 4thQ	周 回 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週	下の成績を60%,	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 3内部被ばく 管理	ジ と フ フ マ の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ カランとトリウム が、ンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線の工ネルキ 本内4000BqのK・ 線の減衰の過程 現処理と廃棄確保の 放射線について材	関 D形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 なおよびK-40とC 管他 に変換,MCA た幾何学的校正 (コンプトン散記 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取 D基本的な過程 様々な切り口で意	形成 (-14 記) で価 り組み 見交換
注意点 授業計 順 一 デカ 一 で類 個 割 に 1 1 1 2 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3	国 3rdQ 4thQ	周 国 国 国 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	下の成績を60%,	ボデストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 を放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく 管理	ジ と フ フ ロ ご で び イ ソ カ カ イ マ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	周ごとの到達目標 ビックバン、星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊、β崩壊、γ ウランとトリウム GM管、比例計数 バンド構造、電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK 線の減衰の過程 現処理と廃棄物の 習長期安全確保の	関 D形成,元素の形 を増加に伴う鉱床 線の放出 なおよびK-40とC 管他 に変換,MCA た幾何学的校正 (コンプトン散記 ご一損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取 D基本的な過程 様々な切り口で意	形成 (-14 (記) (記) (記) (記) (記) (記) (記) (記) (記) (記)
注意点 授業計 が 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 一 二 一 二 一 二	国 3rdQ 4thQ	自学に   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週   15週   16週   Jキューケ   分型   試験   60	大の成績を60%,   授業内容   元素の生成   光音成と 地 ラン 原	ボーストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 と放射線 気体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく 管理   達目標   学習内容の到達目が   相互評価   0	が と フラ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ ロ	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 前壊,β崩壊,γ フランとトリウム GM管,比例計数 ベンド構造,電流 エネルギー校正と 線の非弾性散乱 放射線のエネルキ 本内4000BqのK- 線の減衰の過程 再処理と廃棄物の 翌長期安全確保の 放射線について樹	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 およびK-40とC 管他 配に変換,MCA 送機何学的校正 (コンプトン散起 三損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取 D基本的な過程 長々な切り口で意	形成 E-14 EL) EL) EL) EL) EL) EL) EL) EL)
注意点 授業計 順 一 デカ 一 で類 個 割 に 1 1 1 2 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3	国 3rdQ 4thQ	周 国 国 国 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	下の成績を60%,	小テストの成績を409 境の形成 鉱床の形成 会体検出器 1) 2) 相互作用(1) 相互作用(2) 5内部被ばく 管理  達目標  学習内容の到達目を	ジュージョン (A)	周ごとの到達目標 ビックバン,星の 大気成分の変化 大気中の酸素濃度 崩壊,β崩壊,γ フランと上例計数 バンド構造,電流 エネルギー校で は外線のエネルキ 本内4000BqのK- 線の減衰の過程 再処理と全確保の 投射線について相 ポートフォリオ の	票 D形成,元素の形 理増加に伴う鉱床 線の放出 およびK-40とC 管他 配で変換,MCA 二幾何学的校正 (コンプトン散記 二損失過程 -40と線量当量評 と遮へい D発生,各国の取 D基本的な過程 様々な切り口で意	形成 (-14 (EL)) (EL) (EL) (EL) (EL) (EL) (EL) (EL

カロド	<b>与</b> 丁安宁空	声明学坊	問 課 任 百	亚弗20年度(2	0017年度)		₩≠₽₩¥₽₩
	島工業高等 	<del>可</del> ]]子仪	開講年度	平成29年度 (2	(U1/ 午皮)	授業科目	特別研究 I
科目基礎		0030			初日区八	市田 / ^/	l/2
科目番号 授業形態		0028  実験・実習	<b>3</b>		料目区分単位の種別と単位数	専門 / 必       対 学修単位	
開設学科		ビジネスコ			対象学年	専1	: 5
開設期		通年	, , , , , , , ,	<u> </u>	週時間数	2.5	
教科書/教	 教材				1	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
担当教員	1	原田 正光,	湯川 崇				
到達目	 標						
<ul><li>③実験テ</li><li>④研究成</li></ul>	-ータの整埋・ え果を報告書や	分析等を行い 論文にまとめ	. \ i的tリナご始れたこ 」	「八老祭するカを身」	た計画を自ら立案で を身につける。 につける。 ディスカッションや		ィョン能力を身につける。
ルーブ	リック						
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レベル	レの目安	未到達レベルの目安
評価項目	1		到達目標の内容	を実践で理解し、	到達目標の内容を到	実践で理解して	
評価項目	-		応用できる。 		いる。		いない。
評価項目					1		
		ロレの門/			L		1
	到達目標項		-	· \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			
		₹ (ロ) 子省・	孜月到莲没日偿 (b	:) 学習・教育到達度	支 日 (Γ )		
教育方法	<u> </u>	115.55.4.	~ 1 <del></del>	1+T# 605% 4 \			(=VIII. ) = 1880 (
概要		指導教員の 解決能力, 強く計画を	D指導のもと,専門 研究能力,デザイ E遂行する能力を育	1 <del>基</del> 礎知識を活用して イン能力, プレゼン T成する。	(目ら設定した課題 テーション能力, チ 	について, さら ームワークやし 	に深い専門能力の進展を図り, 課題 ーダーシップを発揮する能力, 根気
授業の進	もの方・方法	②っうお政3①②や情、践4①②リ用研た。よがテ内、報計力テ内サに究のででででででででいる。	地域経経のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	を課題をそのアロージャーのアプロージャーを表示する。 では、対象へのアプロージャーを表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	ーチを経済学的方法: こつからに対している。 まする。 研究はでは、 でのでは、 でいるでは、	から行う。 に を行う場合に に に に に に に に に に に に に に	おける地域、世界における国々といい的には定量的分析と理論的分析を行定量的分析を用いる。データの収集で定式化して解を求める。企業や行いでででである。企業や行いででである。などの知識がある様々な問題を解決するためのはまからのビジネスに必要な総合的な実統計学など)、オペレーションズ・にでする手法について学習し、その応
		1717132133	070, 靴口音3070	、ブレゼンテーショ			fに望む。 )点以上を合格とする。
	画		,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
	画	週 扌	受業内容	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的		)点以上を合格とする。
	画	週 月 1週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
	画	週 月 1週 2週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
	画	週 月 1週 2週 3週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
	画 1stQ	週 1週 2週 3週 4週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
		週 月 1週 2週 3週 4週 5週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
		週 月 1週 2週 3週 4週 5週 6週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
		週 月 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
注意点 授業計	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。
授業計	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	,	、ブレゼンテーショ	1ン20%として総合的	りに評価し、60	)点以上を合格とする。

					-				
		1週							
		2週							
		3週							
		4週							
	3rdQ	5週							
		6週							
		7週							
l		8週							
後期		9週							
		10週							
		11週							
		12週							
	4thQ	13週							
		14週							
		15週							
		16週							
エデリー	 1フカロ-		 学習内容と到達		I				
	17.77.7-				<del></del>				a. 1   FEARLY FE
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	<b></b>			到達レ^	ジル 授業週
評価割合	<u> </u>				_				
	取	組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他		合計
総合評価害	1合 50	)	30	20	0	0	0		100
基礎的能力	50	)	30	20	0	0	0		100
専門的能力	0		0	0	0	0	0		0
分野横断的	的能力 0		0	0	0	0	0		0

↑毎5	島工業高	等専門学校	開講年月	度 平成29年度(2	2017年度)	授業科目	新事業開発	
科目基礎	礎情報							
科目番号	-	0029			科目区分	専門 / 必	修	
授業形態		講義・流	寅習		単位の種別と単	位数 学修単位:	2	
開設学科		ビジネン コニュニ	スコミュニケーシ ニケーション学コ	ョン学専攻(ビジネス ース)	対象学年	専1		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教	数材	配布資料	4					
旦当教員		西口 美	津子					
到達目	標							
①新事業		]セス ②調	査企画の作り方 ンバーによる問題	③情報収集のやり方と の解決方法	まとめ方			
ルーブ	リック		<del>-</del>					
			理想的な到達	をレベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの	D目安
評価項目	1		各授業項目のできる。	)内容を理解し、応用	各授業項目の内 。	容を理解している	各授業項目の内	内容を理解していた
評価項目								
評価項目								
学科の	到達目標	項目との	関係					
学習・教	育到達度目	目標 (B) 学習	・教育到達度目標	Ę (C)				
教育方法	法等							
概要		市場二- 上で、 <del>:</del>	— −ズをどう見出し チームによりアイ		させ、事業化、商	品化していくか。	その手法とプロセ	2スについて学んだ
受業の進	め方・方法	£ .						
注意点		自学自	習の確認方法:授	業の予習或いは復習な	どの課題プリント	を配布し、定期的	に提出を求める。	/T
注意点 	<u>画</u>	格とする	3.	携で行う。 業の予習或いは復習な %、課題を30%(チ-	どの課題プリント -ムによる成果も記			価し、60点以上を
	画	格とする	授業内容		どの課題プリント - ムによる成果も記	週ごとの到達目標		価し、60点以上を
	画	格とする     週   1週	る。 授業内容 イントロダクシ	ョン	どの課題プリント -ムによる成果もi	週ごとの到達目標 新事業開発とは		価し、60点以上を
	画	格とする   週   1週   2週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発とは	·ョン :何か	どの課題プリント -ムによる成果もi	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは	E T	
	由	週 1週 2週 3週	<ul><li>授業内容</li><li>イントロダクシ</li><li>新事業開発とは</li><li>新事業開発のフ</li></ul>	ィヨン :・何か <sup>'</sup> ロセス	どの課題プリント - ムによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため	ののフレームワーク	
	由 1stQ	超 1週 2週 3週 4週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発とは 新事業開発のプ 新事業開発のプ	rョン i何か iロセス iロセス	どの課題プリント-ムによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方	た。 ののフレームワーク が法	
		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発とは 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ	rョン 何か ロセス ロセス ロセス	どの課題プリント-ムによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方	で ののフレームワーク 5法 5法	
		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発とは 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ	rョン 何か ロセス ロセス ロセス ロセス	どの課題プリント-ムによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のた 事業機会評価のた	に ののフレームワーク が法 が法 O作成方法	
受業計		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発とは 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ	rョン ri何か プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス	どの課題プリントームによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方	でのフレームワーク	
受業計		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週	短業内容 イントロダクシ 新事業開発とは 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ	ョン 何か ロセス ロセス ロセス ロセス ロセス	どの課題プリントームによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のが 事業機会評価のだ ビジネスプランの 新規事業の財務戦	でのフレームワーク 方法 方法 方法 か作成方法 戦略 その方法	
受業計		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週	短業内容 イントロダクシ 新事業開発とは 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立案とリサ	ィョン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	どの課題プリントームによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のが 事業機会評価のが ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ	でのフレームワーク 方法 方法 の作成方法 以略 その方法	ל
受業計		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立案とリサ	rョン :何か ロセス ロセス ロセス ロセス ロセス ・ロセス ・ーチ ・ーチ	どの課題プリントームによる成果も記	週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ	でのフレームワーク 万法 万法 万法 0作成方法 戦略 その方法 その方法 青報収集とまとめ	<b>ウ</b>
授業計	1stQ	格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週	が が が が が が が が が が が が が が	rョン - 何か つセス つセス つセス つセス つセス つセス ・ ロセス	どの課題プリントームによる成果も言	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 定性的アプローチ 実習の進め方、情	でのフレームワーク 万法 万法 万法 0作成方法 戦略 その方法 その方法 青報収集とまとめ	<b>ウ</b>
受業計		格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立案とリサ 開発立案とリサ 開発テーマ探索 開発テーマ探索	rョン ri何か ロセス ロセス ロセス ロセス ロセス ロセス ・ロセス ・ーチ ・ーチ	どの課題プリントームによる成果も記	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 定性的アプローチ 実習の進め方、情	でのフレームワーク が法 が法 がは が作成方法 は略 その方法 その方法 手報収集とまとめる 情報収集とまとめる	<b>ウ</b>
受業計	1stQ	格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のブ 新事業開発のブ 新事業開発のブ 新事業開発のブ 新事業開発のブ 開発立案とリサ 開発テーマ探索 開発テーマ探索 開発デーマ発表	rョン riのか riのセス riのセス riのセス riのセス riのセス riのセス riのセス riのセス riのセス riの・チャーチ rin・ディーチ rin・ディー rin・ディ	どの課題プリントームによる成果も記	週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情	でのフレームワーク	<b>ウ</b>
受業計	1stQ	格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週	を表している。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 開発立案とリサ 開発テーマ探索 開発テーマ探索 開発デーマ探索 開発デーマで表表	rョン ri何か riロセス riロセス riロセス riロセス riロセス riロセス riーチ riーチ riーチ riーチ ry探索 ア探索	どの課題プリントームによる成果も言	週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のだ 事業機会評価のだ ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情	でのフレームワーク	ク 方 方
受業計	1stQ	格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立案とリサ 開発テーマ探索 開発テーマ探索 開発デーマで探索 開発デーマで探索 開発デーマで表表 新事業アイディ	rョン ri何か riロセス riロセス riロセス riロセス riロセス riロセス riーチ riーチ riーチ riーチ ry探索 ア探索	どの課題プリントームによる成果も言	週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のだ 事業機会評価のだ ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情	でのフレームワーク 方法 方法 方法 か作成方法 戦略 その方法 音報収集とまとめて 言報収集とまとめて 方法 言報収集とまとめて 方法	ク 方 方
受業計	1stQ 2ndQ	格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立案とリサ 開発テーマ探索 開発テーマ探索 開発デーマで探索 開発デーマで探索 開発デーマで表表 新事業アイディ	/ヨン :何か プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス ア探索 ア探索 ア探索 ア大楽素	どの課題プリントームによる成果も言	週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のだ 事業機会評価のだ ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情	でのフレームワーク 方法 方法 方法 か作成方法 戦略 その方法 音報収集とまとめて 言報収集とまとめて 方法 言報収集とまとめて 方法	ク 方 方
受業計	1stQ 2ndQ	格とする   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週	を できる。	タラン で何か プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス マーチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のだ 事業機会評価のだ ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情	ののフレームワーク	ク 方 方
受業計	1stQ 2ndQ	格とする   週	る。 授業内容 イントロダクシ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 新事業開発のプ 開発立案とリサ 開発テーマ探索 開発テーマ探索 開発デーマ探索 開発デーマ探索 開発デーマで探索 開発デーマで表表 新事業アイディ ビジネスコンセ	タラン で何か プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス マーチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索のだ 事業機会評価のだ ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情	ののフレームワーク	方方
受業計	1stQ 2ndQ コアカレ	格とする   週	を できる。	タリング (何か) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロセス) (ロチャーチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	標	週ごとの到達目標新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務戦 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情 アイディア創出方 アイディア創出方 別末試験解答用組	ののフレームワーク 方法 方法 方法 の方法 その方法 情報収集とまとめて 方法 活法 で返却・解説、経 到達	方方方
受業計	1stQ 2ndQ	格とする	る。  授業内容 イントロダクシ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立まとリサ 開発テーママスで 開発デーママスで 開発デアイディ ビジネスコンセ の学習内容とと 課題	/ヨン · 何か プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス アレス アチャーチ ・・チ・・・チ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	標態度	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務単 定量的アプローラ 実習の進め方、情 実習の進め方、情 アイディア創出方 アイディア創出方 期末試験解答用組	でのフレームワーク 方法 方法 方法 か作成方法 影略 その方法 情報収集とまとめて 方法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記	ク 方 方 方 方 合 音 レベル 授業週 合計
授業計画 ガラ ガラ ガラ ガラ ガラ かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい	1stQ 2ndQ コアカリ	格とする   週	<ul> <li>授業内容</li> <li>イントロダクシ</li> <li>新事業開発のフ新事業開発のフ新事業開発のフ囲発を立案とリサ開発テーマで表別</li> <li>開発デーママスで表別</li> <li>新事業アイディビジネスコンセク学習内容</li> <li>課題</li> <li>30</li> </ul>	/ヨン · 何か ロセス ロセス ロセス ロセス ロセス アセス ア探索 ア探索 ア探索 ア探索 ア探索 プト素案発表   達目標    学習内容の到達目    相互評価    0	標態度	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事等の財務制 定量的アプローチ 実習の進め方、情 実習の進め方、情 アイディア創出方 アイディア創出方 期末試験解答用組 ポートフォリオ 0	ののフレームワーク 方法 方法 方法 か作成方法 性略 その方法 情報収集とまとめつ 方法 「法 「法 「法 「法 「の返却・解説、系 到達 その他 0	ク 方 方 方 方 合 記 一 合 計 100
授業計	1stQ 2ndQ コアカレ 合	格とする   週	る。  授業内容 イントロダクシ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 新事業開発のフ 開発立まとリサ 開発テーママスで 開発デーママスで 開発デアイディ ビジネスコンセ の学習内容とと 課題	/ヨン · 何か プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス プロセス アレス アチャーチ ・・チ・・・チ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	標態度	週ごとの到達目標 新事業開発とは 新事業開発のため 市場機会探索の方 事業機会評価の方 ビジネスプランの 新規事業の財務単 定量的アプローラ 実習の進め方、情 実習の進め方、情 アイディア創出方 アイディア創出方 期末試験解答用組	でのフレームワーク 方法 方法 方法 か作成方法 影略 その方法 情報収集とまとめて 方法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記法 「記	ク 方 方 方 方 合 音

選邦総									
日本学   1930	福島	工業高等	専門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	生産管理	論
日本学   1930	科目基礎						•		
選邦総	<u>- 1                                   </u>	LIIJIK	0030			科目区分	専門 / 必	 修	
設	授業形態			 캠					
記期			ビジネス	コミュニケーショ	 ン学専攻(ビジネス				
野瀬貝   村山 武史   地名山 武史   地名   地名   地名   地名   地名   地名   地名   地				<u>ケーション学コー</u>	ス)				
野田		++		北京! +ン! >		週时间数	2		
達目標		1/3							
			杉田 武史	-					
理想的な到達レベルの目安   標準的な到達レベルの目安   未到達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達しベルの目安   表別達 レベルの目安   表別達 レベルの目安   表別達 レベルの目安   表別達 レベルの目安   表別達 レベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目を   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 レベルの目安   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの   表別達 ロベルの目安   表別達 ロベルの   表別を用意   表別を用意   まのま ロベルの   表別を用意   まのま ロベルの   表別を開意   まのま ロベルの   表別を用意   まのま ロベルの   表別を開意   まのま ロベルの   表別を用意   表別を用意   表別を用意   まのま ロベルの   表別を用意   表別を用意   まのま ロベルの   表別を用意   表別を用意   表別を用意   表別を一定 コレーション ログロ   まのま ログログロ   表別を用意   表別を一定 コレーション ログログログログログログログログログログログログログログログログログログログ		•		要・構成機能・業		課題について、その		 る。 <sub>.</sub>	
理想的な到達レベルの目安   標準的な到達レベルの目安   未到達レベルの目安   表到達レベルの目安   表別達しベルの目安   表別達レベルの目安   表別達レベルの目安   表別達しベルの目安   表別達しベルの目安   表別達しベルの目安   表別達しベルの目安   表別達しべルの目安   表別達しべルの目安   表別達しでいる   表別達項目の内容を理解している   表別業項目の内容を理解している   表別業項目標   単選乗産化 (1)   生産計画の人を合格とする。   表別を内容を対する   表別を自力で開業   表別を自力で表示 (2)   表別を同題   表別業項目標   サブライチェイン (2)   生産計画 (1)   生産計画 (1)   生産計画 (2)   表別等同題   サブライチェイン (2)   生産計画 (2)   表別等同題   カットワーク理論 (4)   ネットワークフロー問題   オットワークフロー問題   オットワークフロー問題   オットワークフロー問題   表別を同題   表別を同題   表別を可能   表別を	計算が行え	える。	E産管理に関	わる各種管理手法 	や実施方式について 	、特徴と一般的な	適用ケースを説明 	でき、論理	を理解した上で基本的 
福項目	ルーブリ	<u> </u>							
できる。				理想的な到達し	/ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レ	バルの目安
個項目3	評価項目1				P容を理解し、応用	各授業項目の内容	字を理解している		目の内容を理解してい
	平価項目2	ı		0000					
### Part									
2			日との問			1			
接音方法等   接の進め方・方法				• •	E)				
接の進め方・方法   問題を自力で解き、概念の理解に努めること。 定期試験70%、課題30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。   2業計画   週			〒(C) 子首・	<u> </u>	<u></u>				
議の進め方・方法   問題を自力で解き、概念の理解に努めること。		5寺	// <del>***</del> ********************************		DT 4 14 54				
問題を自力で解き、概念の理解に努めること。 定期試験70%、課題30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。   選挙計画			生産管理	の目的・概要・課	題を学ぶ				
定期試験70%、課題30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。   選挙計画	受業の進め	か方・方法							
選挙計画   週 授業内容   週ごとの到達目標   1	注意点		問題を目  定期試験	力で解き、概念の 70% 理題30%/	埋解に努めること。 トルナ総会的に証価し	. 60占以上を合格	タレすス		
週   授業内容   週ごとの到達目標	四类計画	 īi		7070、 <b>(</b>		<u> </u>	<u>пС 9 Ø</u> 8		
1週 数理最適化(1)	又未可匹	<u> </u>	\FI	松光中交			田プレの列寺口板		
1stQ   数理最適化(2)						-			
1stQ   3週 数理最適化 (3)								<u>16</u>	
Ail   数理最適化(4)						-		°→°.,	
Table   1stQ								リスム	
Mag		1stQ			( )				
7週 ネットワーク理論 (1) ネットワークとグラフ   最短路問題   ネットワーク理論 (2)   最短路問題   9週   ネットワーク理論 (3)   ネットワークフロー問題   10週   ネットワーク理論 (4)   ネットワークフロー問題   11週   スケジューリング   スケジューリング   12週   シミュレーション (1)   シミュレーション (1)   13週   シミュレーション (2)   14週   シミュレーション (3)   モンデカルロシミュレーション   15週   総合演習   期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習   16週   対野   学習内容   学習内容の到達目標   対策   分野   学習内容の到達目標   対策   対策   対策   対策   対策   対策   対策   対									
おり								··-	
P   9週 ネットワーク理論(3)   ネットワークフロー問題   10週 ネットワーク理論(4)   ネットワークフロー問題   11週 スケジューリング   スケジューリング   12週 シミュレーション(1)   13週 シミュレーション(2)   14週 シミュレーション(3)   モンテカルロシミュレーション   15週 総合演習   期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習   16週								<i>'</i> ラフ	
2ndQ   10週   ネットワーク理論(3)   ネットワークフロー問題	前期								
2ndQ       11週 スケジューリング       スケジューリング         12週 シミュレーション(1)       シミュレーション         13週 シミュレーション(2)       乱数とシミュレーション         15週 総合演習       期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習         16週       期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習         三デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標       学習内容の到達目標         「類       分野 学習内容       学習内容の到達目標         平価割合       試験       課題       相互評価       態度       ポートフォリオ       その他       合計         合評価割合       70       30       0       0       0       0       100									
2ndQ       12週       シミュレーション (1)       シミュレーション         13週       シミュレーション (2)       乱数とシミュレーション         15週       総合演習       期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習         Eデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標       学習内容の到達目標       到達レベル 授業運         評価割合       試験       課題       相互評価       態度       ポートフォリオ その他       合計         合評価割合       70       30       0       0       0       0       100									
2ndQ       13週       シミュレーション(2)       乱数とシミュレーション         14週       シミュレーション(3)       モンテカルロシミュレーション         15週       総合演習       期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習         16週       労野       学習内容と到達目標         対類       分野       学習内容の到達目標         呼価割合       試験       課題       相互評価       態度       ポートフォリオ       その他       合計         合評価割合       70       30       0       0       0       0       100									
13週   シミュレーション (2)		2ndΩ							
15週   総合演習			13週	シミュレーション	(2)		乱数とシミュレー	ション	
16週     16週					(3)		モンテカルロシミ	ニュレーショ	ョン
デルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 類 分野 学習内容 学習内容の到達目標			15週	総合演習			期末試験解答用組	の返却・解	q説、総合復習
対野   学習内容   学習内容の到達目標   到達レベル   授業退   P価割合   試験   課題   相互評価   態度   ポートフォリオ   その他   合計   合評価割合   70   30   0   0   0   100			16週						
対野   学習内容   学習内容の到達目標   到達レベル   授業退   P価割合   試験   課題   相互評価   態度   ポートフォリオ   その他   合計   合評価割合   70   30   0   0   0   100	モデルニ	1アカリキ	ニュラムの	学習内容と到近	<u></u> 主目標				
評価割合     試験     課題     相互評価     態度     ポートフォリオ     その他     合計       合評価割合     70     30     0     0     0     0     100	<del></del> 分類					 標			到達レベル 授業週
試験     課題     相互評価     態度     ポートフォリオ     その他     合計       合評価割合     70     30     0     0     0     0     100		<u> </u>	Į	1					
合評価割合 70 30 0 0 0 0 100			<del></del>	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
	総合評価書								<u> </u>
SWEDTERN IN IN IN III IIII	基礎的能力			30	0	0	0	0	100

 専門的能力
 0

 分野横断的能力
 0

福島	引工業高	等専門学校	開講年月	度 平成29年度(2	2017年度)	授	業科目	モノづくり	概論
科目基础	<b>楚情報</b>								
科目番号		0031			科目区分		専門 / 必修	<u> </u>	
受業形態		実験・実			単位の種別と	単位数	学修単位:	2	
開設学科		ビジネス	コミュニケーシ ケーション学コ	ョン学専攻(ビジネス ース)	対象学年		専1		
開設期		前期			週時間数		2		
教科書/教	树	配付資料							
旦当教員		鈴木 茂和	],芥川 一則						
到達目	慓								
②完成品 3 C A D	を作成する 操作の基本	を理解する。 る。 を習得する。 具現化する方法	を習得する。						
レーブ!	リック								
			理想的な到達	達レベルの目安	標準的な到達	レベルの	]安	未到達レベル	ルの目安
評価項目	1		各授業項目のできる。	D内容を理解し、応用	各授業項目の	内容を理	解している	各授業項目の い。	の内容を理解していた
評価項目:	2								
評価項目:	3								
学科の	到達目標	項目との関	係						
学習・教	育到達度目	目標 (E)							
<b>教育方</b> え	法等								
既要		ものづく する。	りの実際に体験	し、習得した知識の確	認を行う。また	、CAD	操作の基本を	を理解し、イン	メージの具現化を体験
受業の進	め方・方法	Ė							
	め方・方法	工作実習:	を行うので安全	管理には充分注意する	こと。完全に動	作するま	で作品を完成	<b></b>	
主意点		工作実習:	を行うので安全 80%、制作態度	管理には充分注意する [20%として総合的に]	こと。完全に動 平価し、60点以_	作するま 上を合格。	で作品を完成とする。	<b></b> なさせること。	
注意点		工作実習課題作品	80%、制作態度	管理には充分注意する [20%として総合的に影	こと。完全に動 平価し、60点以_	上を合格	とする。	<b></b> なさせること。	
注意点		工作実習課題作品	80%、制作態度 授業内容	[20%として総合的に <u>]</u>	こと。完全に動 平価し、60点以 <u>.</u>	過ごと	とする。 Cの到達目標		
注意点		工作実習課題作品	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの	[20%として総合的に] のづくり倫理	こと。完全に動 平価し、60点以_	過ごと モノコ	とする。 <u>この到達目標</u> ぶくりに対す <sup>。</sup>	る心構えと倫	理及び安全教育
注意点		工作実習 課題作品 週 1週 2週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ	[20%として総合的に] のづくり倫理 ジオ (1)	こと。完全に動 平価し、60点以_	上を合格。 週ごと モノコ 回路図	とする。 での到達目標 がくりに対する の読み方及で	る心構えと倫 び組み立て	理及び安全教育
注意点		工作実習 課題作品 週 1週 2週 3週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 回路作成:ラジ	[20%として総合的に] のづくり倫理 ジオ(1) ジオ(2)	こと。完全に動 平価し、60点以_	上を合格。 週ごと モノコ 回路図 組み立	とする。 この到達目標 がくりに対する この読み方及で こて及び半田	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方	理及び安全教育
注意点		工作実習 課題作品 週 1週 2週 3週 4週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成: ラジ 回路作成: ラジ 化学反応: 石け	[20%として総合的に言 のづくり倫理 ジオ (1) ジオ (2) ・ん (1)	こと。完全に動 平価し、60点以	上を合格。 週ごと モノニ 回路図 組み立 化学反	とする。 の到達目標 がくりに対する の読み方及で で及び半田 でなと材料の	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方	理及び安全教育
注意点	画	工作実習 課題作品 週 1週 2週 3週 4週 5週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石け	[20%として総合的に] Dづくり倫理 Fオ (1) Fオ (2) HA (1)	ごと。完全に動 平価し、60点以 <u>.</u>	上を合格。 週ごと モノコ 回路図 組み立 化学屋	とする。 この到達目標 がくりに対す。 この読み方及で こて及び半田 に応と材料の この製造	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 说明	理及び安全教育
注意点	画	工作実習 課題作品 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成: ラジ 回路作成: ラジ 化学反応: 石け 化学反応: 石け 工作実習: 自由	(20%として総合的に言 のづくり倫理 (3才(1) (3才(2) (1) (7大(2) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	ごと。完全に動 平価し、60点以 <u></u>	上を合格。 週ごと モノニ 回路図 組み立 化学反 石けん 課題の	とする。 の到達目標 がくりに対す。 の読み方及で で及び半田 でと材料の の製造 の製造 の設定と作成。	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認	理及び安全教育
注意点	画	工作実習 課題作品	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成: ラジ 回路作成: ラジ 化学反応: 石け 化学反応: 石け 工作実習: 自由 工作実習: 自由	(20%として総合的に言 がオ (1) がオ (2) がん (1) がん (2) は課題 (1) は課題 (2)	こと。完全に動 平価し、60点以_	上を合格。 週ごと モノニ 回路型 組み立 化学反 石けん 課題の 課題の	とする。 この到達目標 ぶくりに対する こで及び半田 に応と材料の いの製造 い設定と作成。 に成及動作確	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認	理及び安全教育
受業計	画	工作実習 課題作品 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石け 工作実習:自由 共成 で表替	(20%として総合的に言いている)でくり倫理 (2) (1) (2) (4) (2) (4) (2) (4) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	ごと。完全に動 平価し、60点以	上を合格。 週ごと モノニ 回路図 組み立 化学及 石けん 課題の 機械動	とする。 の到達目標 がくりに対す。 の読み方及で て及び半田: なと材料の の製造 の製造 の設定と作成。 に成及動作確 関の基礎お。	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素	理及び安全教育
主意点 受業計[	画	工作実習 課題作品 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石け 工作実習:自由 工作実習:自由 機械設計法と機 CAD/CAM	(20%として総合的に言いている) でくり倫理 (2) (1) (2) (1) (2) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	こと。完全に動平価し、60点以	上を合格。 週ごと モノン 回路はみず 化守けん 課題便 機械妻 2次万	とする。 の到達目標 びくりに対する の読み方及で て及び半田 に応と材料の の製造 の製造 の設定と作成。 は及動作確 と図の基礎お。 にくるDと3)	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素 欠元CADの	理及び安全教育 の簡略図示 違い
主意点 受業計[	画	工作実習 課題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石け 工作実習:自由 機械設計法と機 CAD/CAM CADの基本操	(20%として総合的に言いている) でくり倫理 (2) たん (1) たん (2) は課題 (1) は課題 (2) は概要素 (の概要 を作	ごと。完全に動 平価し、60点以	上を合格。 週ごとこの 一型のは 一型のは 一型のは 一型のは 一型のは 一型のは 一型のは 一型の	とする。 の到達目標 がくりに対する の読み方及で て及び半田 がと材料の の製造 の製造 の製造 の製造 の製造 の製産と作成。 に成及動作確 に図の基礎お のこころ	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素の 欠元 C A Dの テムの操作方	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する
主意点 受業計[	画	工作実習 課題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 回路作成:石け 化学反応:石け 工作実習:自由 工作実習:自由 機械設計法と機 CADクにAM CADによる部	(20%として総合的に言うがくり倫理 (ジオ (1)) (ジオ (2)) (サん (1)) (サん (2)) (訓課題 (1)) (訓課題 (2)) (純要素 (日の概要 (特) (日の概要)	ごと。完全に動 平価し、60点以	上を合格 週ごと 回ごと 回路み立 化学けん 課題類 機械妻 2次元 3次元 パッキ	とする。 の到達目標 がくりに対す。 の読み方及で で及び半田 でと材料の の製定と作成。 成及動作確 製図の基礎お。 にCADと3 こCADシス	る心構えと倫理 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素 欠元 C A D の テムの操作方 立体図の作成	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する
主意点 受業計[	画	工作実習 課題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 心学反応:石け 化学反応:石は 工作実習:自由 機械設計法と機 CAD/CAM CADの基本操 CADによる部	(20%として総合的に言いている)では、(1)では、(2)では、(1)では、(2)では、(1)では、(2)に誤題(1)に誤題(2)に対理を表して、(2)に対理を表して、(2)に対して、(3)に対して、(1)に対して、(1)に対して、(1)に対して、(2)に対して、	ごと。完全に動 平価し、60点以 <u></u>	上を合格 週できる 一週の 一回組み立 化学は のは 課題観機械 ので、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	とする。 の到達目標 がくりに対す。 の読み方及で で及び半田。 にたと材料の。 の設定と作成。 成及動作確認 以の基礎お。 にCADシス ここが形固定軸。	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素 欠元 C A D の テムの操作方 立体図の作成 継手の部品図	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成
主意点 受業計[	画 1stQ	工作実習 課題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 33週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 心学反応:石け 化学反応:石は 工作実習:自由 機械設計法と機 CAD/CAM CADの基本操 CADによる部 3D自由課題作	(20%として総合的に言いている。) でくり倫理 でオ (1) でオ (2) でん (1) でん (2) では、(1) では、(2) では、(1) では、(2) では、(2) では、(3品図作成(1) の には、(1) では、(1) では	こと。完全に動平価し、60点以	上を合格。 週ごと 回路ンプ (回組みず (石けん) 課題械 2次プ (ファーラン) 現題に ファーラン は、アーラン に、アーラ に、アーラ に、アーラン に、アーラ に、アー に、アー に、アー に、アー に、アー に、アー に、アー に、アー	とする。 の到達目標 がくりに対する。 の読み方及で て及び半田 でと材料の の製造 の製造と作成。 に及動作確 と区ADシス にCADシス ・ジ形固定軸が にごびいたがし	る心構えと倫理 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 なび機械要素の 欠元 C A Dの テムの操作方 立体図の作成 継手の部品図の ープ毎の意匠	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計
主意点 受業計[	画 1stQ	工作集習 課題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 30 40 100 100 110 110 110 110 110 110 110	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 化学反応:石け 工作実習:自由 機械設計法と機 CADの基よる部 CADによる部 3D自由課題作	(20%として総合的に記述すくり倫理 (27) (1) (27) (1) (40) (2) (41) (2) (41) (42) (41) (43) (43) (43) (43) (43) (43) (43) (43	こと。完全に動平価し、60点以	上を合格 週ごと 回路 ごと 回組み立 化石けん 課題想 2次次 パフラ 課題 で 2次次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	とする。 の到達目標 の可達目標 の可達目標 の方のでは、 の対象では、 の対象では、 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数では、 の数には、 のまれは、	る心構えと倫理のでは、 が組み立て コテの使い方 説明 方法確認 なび機械要素の 欠元CADの テムの操作方 立体図の作成 継手の部品図の 一プ毎の意匠 た3次元製作	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成
受業計	画 1stQ	工作実習 課題 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 心学反応:石け 化学反応:石は 工作実習:自由 機械設計法と機 CAD/CAM CADの基本操 CADによる部 3D自由課題作	(20%として総合的に記述すくり倫理 (27) (1) (27) (1) (40) (2) (41) (2) (41) (42) (41) (43) (43) (43) (43) (43) (43) (43) (43	ごと。完全に動 平価し、60点以	上を合格 週ごと 回路 ごと 回組み立 化石けん 課題想 2次次 パフラ 課題 で 2次次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	とする。 の到達目標 の可達目標 の可達目標 の方のでは、 の対象では、 の対象では、 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数では、 のがは、 の数では、 の数では、 のがは、 の数では、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のが	る心構えと倫理のでは、 が組み立て コテの使い方 説明 方法確認 なび機械要素の 欠元CADの テムの操作方 立体図の作成 継手の部品図の 一プ毎の意匠 た3次元製作	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計
注意点 受 <b>業</b> 計[	重 1stQ 2ndQ	工作 理 理 理 理 1 週 2 週 3 週 4 週 5 週 6 週 7 週 8 週 9 週 10 週 11 週 12 週 13 週 14 週 15 週 16 週 16 週 16 週 17 週 18 <del></del>	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石は 工作実習:自由 機械設計法と機 CADの基本器 CADによるる部 CADによるる部 3D自由課題作 CAD/CAM	(20%として総合的に記述すくり倫理 (27 (1)) (27 (2)) (37 (2)) (40 (2)) (41 (2)) (41 (2)) (41 (2)) (42 (2)) (43 (31 (2)) (43 (31 (2)) (44 (31 (2)) (45 (31 (2)) (46 (31 (2)) (47	ごと。完全に動 平価し、60点以	上を合格 週ごと 回路 ごと 回組み立 化石けん 課題想 2次次 パフラ 課題 で 2次次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	とする。 の到達目標 の可達目標 の可達目標 の方のでは、 の対象では、 の対象では、 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数では、 のがは、 の数では、 の数では、 のがは、 の数では、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のが	る心構えと倫理のでは、 が組み立て コテの使い方 説明 方法確認 なび機械要素の 欠元CADの テムの操作方 立体図の作成 継手の部品図の 一プ毎の意匠 た3次元製作	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成
主意点受業計画	重 1stQ 2ndQ	工作題 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 15週 16週 15週 16週 16週 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石は 工作実習:自由 機械設計法とAM CADの基本る部 CADによる部 CADによる部 3D自由課題作 CAD/CAM	(20%として総合的に言いている) (20%として総合的に言いている) (20mm)	平価し、60点以_	上を合格 週ごと 回路 ごと 回組み立 化石けん 課題想 2次次 パフラ 課題 で 2次次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	とする。 の到達目標 の可達目標 の可達目標 の方のでは、 の対象では、 の対象では、 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数では、 のがは、 の数では、 の数では、 のがは、 の数では、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のが	る心構えと倫理 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素の 欠元CADの テムの操作方 対すの部品図の 一プ毎の部品図の 一プ毎の意匠。 たる、ストラックでは、 で、ストラックでは、 と、ストラックでは、 で、ストラックでは、 で、ストラックでは、 で、ストラックでは、 で、こ。 と、ストラックでは、 で、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラのでは、 と、ストラのでは、 と、ストラのでは、 と、な、な と、な と、な と、な と、な と、な と、な と、な と、な	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成 タ作成および実加工
主意点受業計画が期	画 1stQ 2ndQ	工作 理 理 理 理 1 週 2 週 3 週 4 週 5 週 6 週 7 週 8 週 9 週 10 週 11 週 12 週 13 週 14 週 15 週 16 週 16 週 16 週 17 週 18 <del></del>	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 化学反応:石け 化学反応:石は 工作実習:自由 機械設計法と機 CADの基本器 CADによるる部 CADによるる部 3D自由課題作 CAD/CAM	(20%として総合的に言いている) (20%として総合的に言いている) (20mm)	平価し、60点以_	上を合格 週ごと 回路 ごと 回組み立 化石けん 課題想 2次次 パフラ 課題 で 2次次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	とする。 の到達目標 の可達目標 の可達目標 の方のでは、 の対象では、 の対象では、 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数では、 のがは、 の数では、 の数では、 のがは、 の数では、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のが	る心構えと倫理 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 認 よび機械要素の 欠元CADの テムの操作方 対すの部品図の 一プ毎の部品図の 一プ毎の意匠。 たる、ストラックでは、 で、ストラックでは、 と、ストラックでは、 で、ストラックでは、 で、ストラックでは、 で、ストラックでは、 で、こ。 と、ストラックでは、 で、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラックでは、 と、ストラのでは、 と、ストラのでは、 と、ストラのでは、 と、な、な と、な と、な と、な と、な と、な と、な と、な と、な	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成
主意点 受業計画 デルン	画 1stQ 2ndQ	工作題 理機 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 10月 10月 10月 10月 10月 10月 10月 10月	80%、制作態度 授業内容 安全教育、もの 回路作成:ラジ 化学反応:日白は 工作実習計法とM CADに日由は機械設計/CAM CADにはよ課題作 CADには課題作 CADによよ課題作 CADによる部 3D自由決とAM CADによる部 3D自由決とAM CADによる部 3D自力/CAM 学習内容	(20%として総合的に記述す(1) (2) (3) (1) (4) (2) (4) (2) (4) (2) (4) (2) (4) (2) (5) (4) (2) (6) (3) (2) (7) (3) (2) (8) (1) (8) (2) (9) (2) (1) (2) (1) (2) (2) (3) (3) (4) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	標	上を合格。 週	とする。 の到達目標 の (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の	る心構えと倫理のでは、 が組み立て コテの使い方 説明 方法確認 なび機械要素の 欠元CADの テムの操作方 立体図の作成 継手の部品図の 一プ事の部意匠に た3次元製作 のCAMデー	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成 タ作成および実加工
主意点	画 1stQ 2ndQ	Time   Time	80%、制作態度 授業内容 回路作成に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(20%として総合的に言いている。) でくり倫理 でオ (1) でオ (2) でカ (2) である。 (1) では、 (2) には、 (1) では、 (2) では、 (1) では、 (2) では、 (1) では、 (2) では、 (4) では、 (4) では、 (5) では、 (5) では、 (6) では、 (6) では、 (7) では、 (	標態度	上を合格のできる。 現している。 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	とする。 の到達目標 の可達目標 の可達目標 の方のでは、 の対象では、 の対象では、 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数定と作成。 の数では、 のがは、 の数では、 の数では、 のがは、 の数では、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のがは、 のが	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 び機械要素の 欠こCAP作方 立体図の部島屋に では多のののでは ではまののののでは ではまののののでは ではまりでは では では では では では では では では では では では では で	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成 タ作成および実加工
主意気	画 1stQ 2ndQ	Time	80%、制作態度 授業内容 安全教作成:ラシロの路作成応:ランロの路作成応:コンロの路作成では、コンロのでは、ローの	(20%として総合的に言いている。) でくり倫理 (2) (1) (2) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	標 態度 20	上を合格   週	とする。 の到達目標 の (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 なび機械要素の 欠元 C A Dの テムの操作方 立体図の部意匠 と 3 次元 B 図 ープ毎の部 を 3 次元 M デー の C A M デー	理及び安全教育  の簡略図示 違い 法を理解する  の作成 設計 図の作成 ク作成および実加工
主意点 受業計画 アンチャー デスタ できる できます できます かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう	画 1stQ 2ndQ コアカリ 合	T作題作   T作題作   T	80%、制作態度 授業内容 回路作成に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(20%として総合的に言いている。) でくり倫理 でオ (1) でオ (2) でカ (2) である。 (1) では、 (2) には、 (1) では、 (2) では、 (1) では、 (2) では、 (1) では、 (2) では、 (4) では、 (4) では、 (5) では、 (5) では、 (6) では、 (6) では、 (7) では、 (	標態度	上を合格のできる。 現している。 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	とする。 の到達目標 の (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の	る心構えと倫 び組み立て コテの使い方 説明 方法確認 び機械要素の 欠こCAP作方 立体図の部島園に では多のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	理及び安全教育 の簡略図示 違い 法を理解する の作成 設計 図の作成 タ作成および実加工

分野横断的能力 0

福島	島工業高	(学市	 門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科[	<b>□</b> [£	Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y	<u></u>	
科目基础		1 43 43			1 13从2 3 干/文(2	-017 平/文)	JX <del>X</del> 111	<u> </u>	<u> </u>	JMD	
科目番号		1	0032			科目区分	専門	/ 必修			
授業形態		-	<del>5052</del> 講義・演習			単位の種別と単		/ <u>名      </u> 単位: 2			
324747127121	<u> </u>			 ミュニケーション		, ,_ , , , , , , , , , , , , , , , , ,		- 122.1 2	=		
開設学科			コニュニケ	ーション学コース		対象学年	専1				
開設期			後期			週時間数	2				
教科書/教				マ「経営管理論」	(新版)塩次喜代	明・小林敏男・高	橋伸夫 著,	2009 <sup>1</sup>	<b></b>		
担当教員		;	湯川崇								
到達目											
①「経営  ②企業の	管理」に 「経営管	関する 理   面	研究につい での実情と	て理解する。 事例研究について	理解する。						
ルーブ			2 - 2 (11.2	3 1/3///201	2 2/31, 7 3 4						
				理想的な到達レ	 ベルの目安	標準的な到達レ	 ベルの目安		未到達レ	ベルの目を	7
=== /=================================	-					各授業項目の内		ハる			<u></u> -理解していな
評価項目	1			できる。		0			い。		
評価項目											
評価項目											
			との関係								
		目標 (I	3) 学習・教	文育到達度目標 (C	2)						
教育方法	法等	-									
概要			企業におけ	る「経営管理」に	ついて学ぶ。						
授業の進	め方・方										
注意点			自学自習の 授業中に理 定期試験の	確認方法:章ごと 解度確認のために 成績80%、課題	この予習状況確認の ミニテストを実施 ・ミニテスト等20%	ため、授業中の発 することがある。 いで総合的に評価し	表を求める。 」、60点以上を	を合格	とする。		
授業計	画	•									
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		週	授				週ごとの到達	目標			
		1ì		ントロダクション	·/		組織的な経営	体とし	しての企業		
		2ì	<b>周</b> 会	社と経営管理			専門的経営者	の台頭	頁、日本の	社長会・ス	メインバンク制
		3ì	周 経	営管理研究の系詞	蓝		近代的工場、	科学的	り管理法と	大量生産	方式、組織のコ
		4ì		織デザイン	-		ンティンジェ			70 77 / 11 /	!ンター・コストセンター、
	3rdQ		-	•			依能別組織、				
	3.44	5ì	周 経	営戦略(1)			SWOT分析	、シト	引し、アン	J J ∪JIX1	交べフログ
		6ì	周 経	営戦略(2)			ト゛ライヒ <i>゙</i> ングフォー	-ス、経	験曲線、規	見模の経済	・範囲の経済
		7ì	周 資	源管理			コア・コンピ				
後期		8ì	周 組	織間関係			株式相互持合	ì、情幸	吸の非対称	性、JV、:	オープンシステ
12/41		9ì					<u>ム</u>  行動科学、組	締紀三番	计量 紅癬	    打御	
				<u>ーダーシップ</u>			変革のリーダ				
				<u></u>			企業パラダイ				
											 業別組合、年功
	4thQ	<u> </u>		日本的経営」			賃金				
				業の国際化			1		當論」学習	内容の確認	忍と発展的課題
				営管理の展望			未来傾斜原理		71=14		
		-		ことめ			総括、期末試	験の角	¥眖		
<b>—</b> —"	 ¬¬+'		5週	533 <del>스 로</del> 그 포브=							
	コアカ!	ノキユ		習内容と到達		<b>an</b>				7小牛! - **	11 125 #*/ 12
分類			分野	学習内容	学習内容の到達目	崇				到選レベ	ル 授業週
評価割	<u>ii                                    </u>	- 0			1,0		1,0		<b>-</b> - *:		^
(4) A -T /-	retul A	試験		課題	相互評価	態度	ポートフォ	リオ	その他		<u> </u>
総合評価		80		20	0	0	0		0		100
基礎的能		80		20	0	0	0		0		100
専門的能		0		0	0	0	0		0	(	
分野横断	ロリドビノノ	0		0	Įυ	0	0		0	10	J

	高工業高	等専門学	校 開講年	度 平成29年度(	2017年度)	授業科目	データベース	<b>論</b>
科目基	礎情報							
科目番号	<u> </u>	0033			科目区分	専門 / 必	<u> </u>	
授業形態	{	講義・	演習		単位の種別と単	位数 学修単位:	2	
開設学科	ļ	ビジネ コニュ	スコミュニケーシ ニケーション学コ	/ョン学専攻(ビジネス ]ース)	対象学年	専1		
開設期		後期			週時間数	2		
教科書/勃	<b>教材</b>	青木峰	郎, 10年戦える	データ分析入門, SB Cr	reative			
担当教員	Į	湯川 爿	븑					
到達目	標							
②リレー ③ビジネ	·ショナル ·スに役立	データベース	を理解する。 く・SQLの基礎を理 -タ分析手法を身に	<b>!解する。</b> ごつける。				
<u>ルーブ</u>	<u>リック</u>							
				達レベルの目安	標準的な到達レ		未到達レベルの	
評価項目	11		各授業項目の できる。	の内容を理解し、応用	各授業項目の内	容を理解している		容を理解していな
評価項目	12				0		ر۱ <sub>0</sub>	
評価項目								
- 1 11-1 - 1 1 1		票項目との	 ,関係					
				票 (C) 学習・教育到達原		数音到達度日煙 /F	-)	
教育方			<u> </u>	· (C) 于日 - 秋月到是/	文口保 (D) 于日	秋月10年/Q口·除(L	- /	
	<del>四寸</del>	111.4-	 -シュナルデー <i>ね</i> ゃ	 ベースの仕組みや役割を	- 押級オスレレギに	宇建を通してビ	ジネフに役立つ手	ニカ分析の手法を
概要		学習す	つった。 る。		上生性することのに	・、天成で通じてし	ンネスに収立りた	一岁为何叼于压定
受業の進	め方・方	法						
注意点		課題は	は締め切りを厳守す	- ること。 - カスカッコ - 100 -	NU + 200/ 1/1	₩ΛΛ401===1π1		<del></del>
		正期証	.胰の放績を70% <u>,</u>	自学自習課題の実施と	大況を30%として	総合的に評価し,6	0点以上を合格と	9 る。
授業計	—	L	15.44 1 -				-	
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	データベースの	D基礎知識		データベースとは SQLによるデータ	、 <sup>7</sup> 分析	
		2週	RDBMSの基礎			テーブルスキーマ		
	2 10	3週	select文			select文によるデ 絞り込み,並び替	ータの抽出,	
	3rdQ	4週	集計による分析			group byと集約		
		4 20	未計によるカガ	'1			<del>√</del> 19/A	
		5週	演算子と関数	<u>'I</u>		数値・文字列・日		
						1		
		5週	演算子と関数			数値・文字列・日	付時刻の演算	
後期		5週 6週 7週 8週	演算子と関数 JOINの基礎			数値・文字列・E テーブルの連結	付時刻の演算 sert文	
後期		5週 6週 7週 8週 9週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー①	ţ		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの 3	付時刻の演算  sert文  r join  こつの使い方	
後期		5週 6週 7週 8週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用	ţ		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの3 サブクエリーの応	A付時刻の演算 Sert文 rr join つの使い方	
後期		5週 6週 7週 8週 9週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー①	t D D		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーのが サブクエリーのが 様々なウィンドウ	I付時刻の演算 Sert文 Ir join I つの使い方 I用 II 関数	
後期		5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(1) サブクエリー(2) ウィンドウ関数	龙 D D D		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの 3 サブクエリーの 成 様々なウィンドウ 対全体比, 累積和	I付時刻の演算 Sert文 Ir join I つの使い方 I用 II 関数	
後期	4thQ	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2 ウィンドウ関数	t D D D D D D D D D D D D D D D D D D D		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの3 サブクエリーの応 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析	I付時刻の演算 sert文 r join □ つの使い方 □ 別数 I	引の変換、1SONデ
後期	4thQ	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(1) サブクエリー(2) ウィンドウ関数	t D D D D D D D D D D D D D D D D D D D		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーのが 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み	I付時刻の演算 sert文 r join つの使い方 所 P関数 I	引の変換, JSONデ
後期	4thQ	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2 ウィンドウ関数	龙 ① ② 效① 效② D分析①		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの記 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の	付時刻の演算 sert文 r join つの使い方 に用 に関数   は関数   は関数   は関数   は関数   は関数   は関数	<b>聞の変換,JSONデ</b>
後期	4thQ	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー① サブクエリー② ウィンドウ関数 ウィンドウ関数	龙 ① ② 效① 效② D分析①		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーのが 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み	付時刻の演算 sert文 r join つの使い方 に用 に関数   は関数   は関数   は関数   は関数   は関数	引の変換,JSONデ
		5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2) ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ	t D D D D D D D D D D D D D D D D D D D		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの記 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の	付時刻の演算 sert文 r join つの使い方 に用 に関数   は関数   は関数   は関数   は関数   は関数	引の変換,JSONデ
		5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2 ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの	t D D D D D D D D D D D D D D D D D D D		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの記 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の	付時刻の演算   sert文   r join   つの使い方   の使い方   別数   l   横持ちテーブル  の返却と解説	
後期 デル 分類		5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2) ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ	成 ② 数① 数② D分析① D分析②	標	数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの記 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の	付時刻の演算   sert文   r join   つの使い方   の使い方   別数   l   横持ちテーブル  の返却と解説	引の変換, JSONデ レベル 授業週
モデル <sup>分類</sup>		5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週 リキュラム	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2) ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ	成 ② 数① 数② D分析① D分析②	標	数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの記 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の	付時刻の演算   sert文   r join   つの使い方   の使い方   別数   l   横持ちテーブル     で 横っている   で で で で で で で で で で で で で で で で で で	
モデル <sup>分類</sup>	コアカ! 合	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週 リキュラム	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2) ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ	成 ② 数① 数② D分析① D分析②	標態度	数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの記 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の	I付時刻の演算 sert文 r join つの使い方 所用 関数 1 横持ちテーブル で が 関数 1 を 対対 を	
モデル 分類 評価割	コアカ! 合	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 リキュラム	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(3 ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ の学習内容と3	成 ② 数① 数② D分析① D分析② <b>到達目標</b> デ 学習内容の到達目		数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーの応 様々なウィンドウ 対全体比,累積 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読み込み さまざまな分析の 期末試験解答用組	I付時刻の演算 sert文 r join つの使い方 所用 関数 1 横持ちテーブル で が 関数 1 を 対対 を	レベル 授業週
モデル	コアカ! 合 割合	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 ノキュラム	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(3 ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ  アクセスログの まとめ  学習内容と3  学習内容と3	成 ② 数① 数② D分析① D分析② <b>到達目標</b> 学習内容の到達目  相互評価	態度	数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーのが 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと 夕の読み さまざまな分析の 期末試験解答用組 ポートフォリオ	付時刻の演算   sert文   r join   つの使い方   万用   関数   1   横持ちテーブル   で	合計
モデル分類 評価割 総合評価	コアカ! 合 調合	5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週 ノキュラム 分野	演算子と関数 JOINの基礎 テーブルの作成 JOINの利用 サブクエリー(3 サブクエリー(2) ウィンドウ関数 ウィンドウ関数 アクセスログの まとめ アクセスログの まとめ 学習内容と3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	成 ② 数① 数② D分析① D分析② <b>到達目標</b> 学習内容の到達目 相互評価 0	態度 0	数値・文字列・E テーブルの連結 create tableとin inner joinとoute サブクエリーのが 様々なウィンドウ 対全体比,累積和 デシル分析 縦持ちテーブルと タの読みと さまざまな分析の 期末試験解答用組 ポートフォリオ 0	   付時刻の演算   sert文   r join   つの使い方   別数   世持ちテーブル間   演習   にの返却と解説   到達   その他   0	レベル 授業週 合計 100

	1 事而学	等專門学校	開講年度	一平成29年度(	201/年度)	授業科目	経営学演習	
科目基礎			1 1/13/213 1 /3	. ,	1/~/	,		
	此用拟	0024			和日豆八	± m ,	> 1/2	
科目番号 授業形態		9034	<u> </u>		科目区分	専門 / 数 学修単		
皮素形態 開設学科		実験・実習	]ミュニケーショ		単位の種別と単位 ス 対象学年	· 字修单	<u>и: Z</u>	
用設于1年  開設期		コニュニク    前期	ケーション学コー	·ス)	週時間数	前期:6		
<del>加政剂</del> 教科書/教	7++	なし			短时间数	ט.נאניאן.		
	X17/J	湯川 崇						
担当教員	<del></del>							
②演習及で	マの演習内	容を理解し、実 得られた結果を	€行することがで €わかりやすく報	きる。 告書にまとめ説明で	<b>できる。</b>			
ルーブリ	<u> </u>		Ī					
			理想的な到達し		標準的な到達レベ	ルの目安	未到達レベル	レの目安
評価項目1	1		到達目標の内容 応用できる。	字を実践で理解し、	到達目標の内容を	実践で理解し	て 到達目標の内 いない。	内容を実践で理解して
評価項目2	2							
評価項目3								
		 項目との関係	 S					
			-	(D)				
		伝 (D) 子省・教	教育到達度目標 (	(ע)				
教育方法	<b>太寺</b>							
概要				学んだ理論の理解を	で深める。 週または2週ずつ実施			
		・ビンイム	ベコンエーン</th <th>コン 四川美津千</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>	コン 四川美津千				
注音占		• busines	S CIIYIISII /反選		D実習 松江 俊一 3積極的かつ自発的な	取り組みを特	に望む。	
	<b></b>	Aテーマに	s chglish <i>i</i> 反選 i対して、問題を	エソル		取り組みを特	に望む。	
	画	Aテーマに 報告書100	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
	画	* Busilles 各テーマに 報告書100 週 担	s chglish <i>i</i> 反選 i対して、問題を	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。	取り組みを特別ごとの到達[		
	画	Busines 各テーマに 報告書100 週 担 1週	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
	画	A まままで A ままま A ままま A まままま A まままま A まままままままま	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
	画	を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
	画 1stQ	Busines   各テーマに報告書100   日間   日間   日間   日間   日間   日間   日間	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画		を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画	1stQ	を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画		Busines   Aspert   Aspert	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画	1stQ	Busines   Aspert   Aspert	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画	1stQ	Busines   Aspert   Aspert	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
授業計画	1stQ	を	s English · 漫選 I対して、問題を )%で評価し、60	<u>エッカ</u> :自ら探して解決する	る積極的かつ自発的な る。			
受業計画	1stQ 2ndQ	Busines   Agric	S Elighsh	ニッカ 自ら探して解決する )点以上を合格とする	る積極的かつ自発的な る。			
授 <b>業計</b> 値	1stQ 2ndQ	Busines   Age	SEIIglish <sub> </sub>	直ら探して解決する の点以上を合格とする を 量目標	3積極的かつ自発的な3。		1標	達レベル 将業调
授業計画	1stQ 2ndQ	Busines   Agric	S Elighsh	ニッカ 自ら探して解決する )点以上を合格とする	3積極的かつ自発的な3。		1標	達レベル 授業週
授業計画	1stQ 2ndQ	Busines   Age	SEIIglish <sub> </sub>	連りが 自ら探して解決する の点以上を合格とする 学習内容の到達目	3積極的かつ自発的なる。	でとの到達目	目標	達レベル 授業週
分類 評価割合	1stQ 2ndQ	Busines   Age	学習内容と到) 学習内容	直ら探して解決する の点以上を合格とする を 量目標	3積極的かつ自発的な3。 退標		目標	
授業計画 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世	1stQ 2ndQ コアカリコ	Busines   August   August	だい に で に で に で に で に で に で に で に で に で に	連目標 学習内容の到達目 相互評価 0	お積極的かつ自発的なる。 退標 態度 0	型ごとの到達E ポートフォリ 0	目標	合計 100
授業計画 前期	1stQ 2ndQ コアカリ= 会 課 割合 10 カ 10	Busines   August   August	だい では できます できます できます できます できます できます できます できます	連目標 学習内容の到達目 相互評価	3.積極的かつ自発的な 3.	型ごとの到達目	目標 型 オーその他	合計

	1 十 类 古 位	- 市田学林	四課左帝	亚出20年度(2	0017年度1		ミカニルギザンミ宮羽
		等門学校_	開講年度	平成29年度 (2	U1/年及)	授業科目	システムデザイン演習
科目基礎	定门 有 牧	0025			TUDE ()	吉明 / >	liter
科目番号授業形態		0035 実験・実習	9		科目区分  単位の種別と単位	専門 / 必       立数     学修単位	
3207(7)127(2)							. 4
開設学科		コニュニク	コーチョン学コース アーション学コース		対象学年	専1	
開設期		通年			週時間数	1	
教科書/教	材	なし	<del></del>	+++		r ====================================	*****
担当教員	<del></del>	鄭 耀陽,小	出 埽康,鈴木 晴彦	<u>,植 英規,車田 研一,</u>	,毛形 惧,緑川 猛彦	7, 齊滕 允弘, 西口	美泽子,右杯 兇哭
到達目標		+11 <del></del> '11'	/> /- <del></del>				
31, 27	を個人およ	対して、デザットに基づいたう びチームにて行	インに立脚した解決 デザイン立案ができ テい問題解決の方法	R東が提案できる。 Eる。 Eを示すことができる。	る。		
ルーブリ	<u> </u>		TITLE 45 + > 7(1) ± 1	·» 6 🗆 🖶	1#2# 45 + \ ZIV\$ 1	- N	
			理想的な到達レク		標準的な到達レク	ベルの日安 を実践で理解して	未到達レベルの目安   到達目標の内容を実践で理解して
評価項目1	1		応用できる。	と 夫成 と 生胖 し、	到達日標の内合で  いる。	4.天成で珪解して	到達日標の内台を美成と達解して   いない。
評価項目2	2						
評価項目3			1		<u> </u>		
学科の至	到達目標了	頁目との関係	系				
		標 (D) 学習・	教育到達度目標 (E	) 学習・教育到達度	₹目標 (F)		
教育方法	去等						
概要		前期に履修	多した「モノづくり 古場に受容され	)概論」で学んだ C / lる「モノ」づくり	A D等により、具	体的な「モノ」を	デザインする。この授業は新事業開
	 め方・方法	光に建動し	八 川場に又谷さん	にる 「モノ」 ノくりか	△□189。		
	ハハコ · ハル <u>広</u>	CADを何	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	作方法について事情	前に復習しておく		
注意点		制作物、到	表内容、レポート	等により総合的に	評価し、60点以上	こ。 を合格とする。	
授業計画	蓟						
		週	受業内容			週ごとの到達目標	
		1週					
		2週					
		3週					
	1stQ	4週					
		5週					
		6週					
		7週					
前期		9週					
		10週					
		11週					
		12週					
	2ndQ	13週					
		14週					
		15週					
		16週					
			イントロダクション			エンジニアリング	
			デザインコンセプト			課題探索、情報	
			デザインコンセプト	<b>、探索</b>		課題探索、情報	
			デザインコンセプト				X集の方法
	1					課題探索、情報中	
	3rdQ	5週 =	デザインコンセプト			課題探索、情報場	<b>又集の方法</b>
	3rdQ	6週	コンセプト案作成			課題探索、情報4 C A D等による でコンセプトを	X集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
	3rdQ	6週 <del>-</del> 7週 <del>-</del> -	コンセプト案作成コンセプト案作成			課題探索、情報4 CAD等による てコンセプトを見 CAD等による てコンセプトを見	X集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期	3rdQ	6週 二 7週 二 8週 二	コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成			課題探索、情報リ CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期	3rdQ	6週       二         7週       二         8週       二         9週       二	コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成			課題探索、情報リ CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期	3rdQ	6週 = 7週 = 8週 = 10週 = 1	コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成			課題探索、情報リ C A D 等による C T コンセプトを見 C A D 等による C T コンセプトを見 C A D 等による C T コンセプトを見 C A D 等による C T コンセプトを見	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期	3rdQ 4thQ	6週       二         7週       二         8週       二         9週       二         10週       二         11週       □	コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 ロンセプト案作成 中間発表会			課題探索、情報リ CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE CAD等によるE	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期		6週       二         7週       二         8週       二         9週       二         10週       二         11週       二         12週       二	コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成コンセプト案作成			課題探索、情報リ C A D 等による C A D でよる C A D でよる でコンセプトを C A D でよる でコンセプトを C A D でよる でコンセプトを の こことを でコンセプトを の こことを で コンセプトを の こことを で コンセプトを の こことを で コンセプトを の こことを で コンセプトを の こことを で コンセプトを の こことを の ことを の こことを の ことを の こことを の こことを の ここと の こことを の こことを の こことを の こことを の こことを の こことを の こことを の こことを	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期		6週       二         7週       二         8週       二         9週       二         10週       二         11週       二         12週       二         13週       二	コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 中間発表会 コンセプト案作成 コンセプト案作成			課題探索、情報リ C A D等による C T コンセプトを 「	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化
後期		6週       二         7週       二         8週       二         9週       二         10週       二         11週       二         12週       二         13週       二         14週       二	コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 コンセプト案作成 中間発表会 コンセプト案作成			課題探索、情報リ CAD等によるを CAD等にプレスを CAD等にプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを CADやにプレストを でスコンをにプレストを でスコンをにプレストを でスコンをにプレストを でるのでは、 市場受容性との 市場受容性との	双集の方法 図面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化 製面や、手作りのプロトタイプを用い 具現化

モデルコアカリ	リキュ	ラムの学	習内智	容と到達	目標							
分類		分野	学習	習内容 :	学習内容の到達	主目標				到達レベル	レ 授業週	
評価割合												
	試験		課題・	発表	相互評価		態度	ポートフォリオ	その他	2	計	
総合評価割合	0		100		0		0	0	0	1	00	
基礎的能力	0		100		0		0	0	0	1	00	
専門的能力	0		0		0		0	0	0	0		
分野横断的能力	0		0		0		0	0	0	0		

	5上耒尚寺	専門学校	開講年度 平成29年度(2	2017年度)	授業科目 -	インターンシップA
4目基	礎情報					
4目番号	1	0036		科目区分	専門 / 必修	<u> </u>
受業形態	{	実験・実習	3	単位の種別と単位数	学修単位:	2
<b>引設学科</b>	ļ	ビジネスコニュニク	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	対象学年	専1	
帮設期 「記期		集中		週時間数		
效科書/教	 数材	なし		1	•	
3当教員		原田 正光	.湯川 崇			
列達目			,			
②技術に	対する社会の	覚を養うことが の要請を知り, より, 確かなり び精神および	ができる。 問題意識を養うことができる。 哉業観を形成することができる。 変化に対する柔軟性などを身につける	ことができる。		
レーブリ	リック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの	カ目安	未到達レベルの目安
評価項目	1		到達目標の内容を実践で理解し、	到達目標の内容を実施	************************************	到達目標の内容を実践で理解して
			応用できる。	いる。		いない。
平価項目			+	+		
平価項目			1			
学科の?	到達目標項	目との関係	系			
学習・教	育到達度目標	票 (D) 学習・	教育到達度目標 (F)			
教育方	 法等					
既要		により、乳  テーション  とめ(報告	Pに企業現場での就業体験、大学等で 長践的・技術的感覚、確かな職業観、 ン能力を高める。インターンシップA 5書作成、報告会資料作成、報告会ブ 皆導、報告会の発表指導を行う。【ク	変化に対する柔軟性を は必修であり、2週間 'レゼンテーション)で	育成するととも (実質10日-	5に、実習報告会を通じてブレゼン - 8 0 時間)の実習、10時間のま
受業の進 	め方・方法	・実習先を ・実習先を ・報告書語 ・実習報告	D決定 是出 与会			
主意点		10日間)	を目安とする。 うの実習記録票,実習報告書および実			
主意点 受業計[	画	10日間)    実習先かり  上を合格し	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	ふうこと。実習期間は2周間(実働 )%として総合的に評価し,60点以
	画	10日間)    実習先から  上を合格る	を目安とする。 うの実習記録票,実習報告書および実	習報告会における発表		
	直	10日間)    実習先から  上を合格      1週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
	<u></u> 唐	10日間)	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
	唐	10日間) 実習先か。 上を合格。 週 1週 2週 3週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
		10日間) 実習先か 上を合格。 週 1週 2週 3週 4週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
	画 lstQ	10日間) 実習先か 上を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
		10日間) 実習先か 上を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
		10日間) 実習先から 上を合格。 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計		10日間) 実習先から 上を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計		10日間) 実習先から 上を合格。 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計		10日間) 実営合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計		10日間) 実習先格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実営合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計		10日間) 実習先か 上を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実習先か 上を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実習先か 上を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実上を 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実上を 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実とを 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実上 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11月 11月 11月 11	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ 2ndQ	10日間) 実上 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 15週 15週 15週 15週 15週 15週 15週 15	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ	10日間) 実上 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週 15週 16週 13週 14週 15週 16週 16週 16週 170 170 170 170 170 170 170 170 170 170	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計	1stQ 2ndQ	10日間から 実上 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 15週 16週 16週 15週 16週 16週 16週 16週 16週 170 170 170 170 170 170 170 170 170 170	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計[	1stQ 2ndQ	10日音に 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 11週 11週 113 113	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計[	1stQ 2ndQ	10日間から 選上 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 11週 113週 113週 114週 113週 116週 116週 110 110	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
	1stQ 2ndQ	10日音に 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 910 111週 113 113	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計[	1stQ 2ndQ	10日音	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計[	1stQ 2ndQ 3rdQ	10日音を 週 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受 <b>業</b> 計[	1stQ 2ndQ	10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日 10日	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	
受業計[	1stQ 2ndQ 3rdQ	10日音を 週 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	を目安とする。 5の実習記録票,実習報告書および実 とする。	習報告会における発表	等の内容を100	

	14週						
	15週						
	16週						
モデルコアカ	ウリキュラムの <sup>5</sup>	学習内容と到達	目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達	目標			到達レベル 授業週
評価割合							
	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島	二業高	等専門学校	交 開講年	度 平成29年度(2	2017年度)	授業科目	財務諸表論	
科目基础			•		-			
科目番号		0037			科目区分	専門 / 選	 択	
授業形態		講義・			単位の種別と単位			
開設学科		ビジネ コニュ	スコミュニケーシ ニケーション学ニ	/ョン学専攻(ビジネス Iース)	対象学年	専1		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教	材	桜井久	勝『財務会計講義	。』中央経済社。※最新	版を使用する。			
担当教員		安部 智	博					
到達目標	票							
会計と経済	- 済・社会。	との結びつき	をより深く理解す	 「る。				
ルーブリ	リック							
<u> </u>			理想的な到	 達レベルの目安	標準的な到達レイ	 バルの目安	未到達レベルの	
				の内容を理解し、応用		<u>ッレッロヌ</u> 学を理解している		<u>アロス</u> P容を理解していた
評価項目:	1		できる。		0		い。	лд с- <i>Е</i> лтО С v vo
評価項目2	2							
評価項目:	3							
学科の発	到達目標	票項目との	要係 関係					
			・教育到達度目標	票 (D)				
		,						
既要	<u> </u>	教科書	にもとづき 会計			 く学ぶ。		
	 め方・方:		icococy Air		S DIIID/MIC D V · C//K	( ) /3 /0		
<del>////////////////////////////////////</del>			授業用のレジュメ	(を作成してもらいます レジュメ) で総合的に記				
/L/20////		試験60	)%,課題40%(	レジュメ)で総合的に訓	平価し,60点以上を	合格とする。		
	 曲i	試験60	)%, 課題40%(	レジュメ)で総合的に言	平価し,60点以上を	で合格とする。		
	画		1	レジュメ)で総合的に <u>。</u>			<u> </u>	
	画	週	授業内容			週ごとの到達目標	-	
	<b>a</b>	週 1週	授業内容 イントロダクシ	ション		週ごとの到達目標 財務会計の機能と	_制度	
	画	週 1週 2週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組	ション Hみ		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式簿	∠制度 算記	
		週 1週 2週 3週	授業内容 イントロダクジ 利益計算の仕組 会計理論と会話	ション 目み †基準		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式簿 企業会計原則,会	- 治度 第記 会計情報の特性	
	画 1stQ	週 1週 2週 3週 4週	授業内容 イントロダクシ 利益計算の仕組 会計理論と会記 利益測定と資産	vョン 目み †基準 <b>詳</b> 評価の基礎概念		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式類 企業会計原則,会 現金主義会計と発	上制度 算記 会計情報の特性 終生主義会計	フロー計算書
		週 1週 2週 3週 4週 5週	授業内容 イントロダクシ 利益計算の仕組 会計理論と会記 利益測定と資産 現金預金と有何	vョン Bみ  基準 <b>E評価の基礎概念</b> <b>T証券</b>		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式類 企業会計原則,会 現金主義会計と発現金預金,有価額	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 E券, キャッシュご	フロー計算書
		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組 会計理論と会記 利益測定と資産 現金預金と有何 売上高と売上債	vョン 目み †基準 <b>E評価の基礎概念</b> m証券 責権		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式簿 企業会計原則,会 現金主義会計と発 現金預金,有価調 販売基準,生産基	上制度 請記 会計情報の特性 8生主義会計 E券, キャッシュス 基準, 回収基準	フロー計算書
授業計画		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容 イントロダクシ 利益計算の仕組 会計理論と会記 利益測定と資産 現金預金と有何 売上高と売上債 棚卸資産と売」	vョン 目み †基準 <b>E評価の基礎概念</b> m証券 責権		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と発 現金預金,有価証 販売基準,生産基 棚卸資産の取得原	上制度 請記 会計情報の特性 6生主義会計 E券, キャッシュフ 基準, 回収基準 原価と原価配分	フロー計算書
授業計画		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業内容 イントロダクシ 利益計算の仕組 会計理論と会詞 利益測定と資産 現金預金と有何 売上高と売上値 棚卸資産と売」 有形固定資産	レョン 目み †基準 音評価の基礎概念 西証券 責権 上原価		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と予 現金預金,有価証 販売基準,生産基 棚卸資産の取得原 取得原価と減価値	上制度 算記 会計情報の特性 を生主義会計 E券,キャッシュン 基準,回収基準 現価と原価配分 資却	フロー計算書
授業計画		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕納 会計理論と会語 利益測定と資産 現金預金と有何 売上高と売上債棚卸資産と売」 有形固定資産 無形固定資産と	レョン 目み †基準 音評価の基礎概念 西証券 責権 上原価		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と列 現金預金,有価証 販売基準,生産基 棚卸資産の取得属 取得原価と減価償 無形固定資産,終	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 E券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 資却 操延資産	フロー計算書
授業計画		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕納 会計理論と会話 利益測定と資施 現金預金と有何 売上高と売上値 棚卸資産と売」 有形固定資産 無形固定資産と 負債	ション 目み 十基準 香評価の基礎概念 晒証券 責権 上原価		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式類 企業会計原則,会 現金主義会計と勇 現金預金,有価証 販売基準,生産基 棚卸資産の取得原 取得原価と減価値 無形固定資産,終 負債の範囲,区欠	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 E券, キャッシュご 基準, 回収基準 原価と原価配分 認却 繰延資産 かと引当金	フロー計算書
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組 会計理論と会証 利益測定と資産 現金預金と有何 売上高と売上値 棚卸資産と売」 有形固定資産 無形固定資産と 負債 株主資本と純資	レヨン 目み 十基準 香評価の基礎概念 亜証券 責権 上原価 と繰延資産		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と列 現金預金,有価証 販売基準,生産基 棚卸資産の取得属 取得原価と減価償 無形固定資産,終	上制度 請記 会計情報の特性 終生主義会計 E券, キャッシュご 基準, 回収基準 原価と原価配分 設却 繰延資産 かと引当金 こ本と果実	フロー計算書
授業計画		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組会計理論と会語 利益測定と会語 現金預金と売上信 棚卸資産と売」 有形固定資産 無形固定資産 検主資本と純資 財務諸表の作	レヨン 目み 十基準 香評価の基礎概念 亜証券 責権 上原価 と繰延資産		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式簿 企業会計原則,会 現金主義会計と到 現金主義会計と到 現金東領軍,生産基 棚卸資産の取得原 取得原価と減価値 無形固定資産,終 負債の範囲,区欠 純資産の構成,元 財務諸表の種類と	上制度 請記 会計情報の特性 を生主義会計 E券, キャッシュフ 基準, 回収基準 原価と原価配分 資却 経近資産 かと引当金 た本と果実 と体系	フロー計算書
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容 イントロダクラ 利益計算の仕組会計理論と会論 利益測定と会論 現金預金と売上信棚的資産と売上高とでで、 有形固定資産 無形固定資産と 集計である。 は、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	ション 目み 十基準 経評価の基礎概念 西証券 責権 上原価 と繰延資産		週ごとの到達目標財務会計の機能と企業活動と複式領企業会計原則,会現金主義会計と到現金主義会計と到現金再多方面。 現金主義会計と到現金再多方面。 現金主義会計と到現金再多方面。 現金主義会計と到現金再多方面。 東本語のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	上制度 算記 会計情報の特性 性主義会計 正券, キャッシュン 基準, 回収基準 更価と原価配分 資却 疑延資産 分と引当金 こ本と果実 全体系 養養の作成	フロー計算書
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	授業内容 イントロダクラ 利益計算の仕組会計理論と会語 利益測定と資産 現金預金と売上値 棚卸資産と売上値 棚卸資産と売上値 棚卸資産と売し 有形固定資産 無形固定資産 無形固定資産と 負債 株主資本と純資 財務諸表の作成 連結財務諸表	ション 目み 十基準 経評価の基礎概念 西証券 責権 上原価 と繰延資産		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と予 現金主義会計と予 現金預金,有価証 販売基準,生産 棚卸資産の取得価と減価値 無形固定産囲,区 純資産の構成,元 対務諸表の種類と 連結決算と財務語 外貨建取引と為	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 正券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 資却 繰延資産 分と引当金 に本と果実 上体系 養表の作成 替予約	フロー計算書
授業計画	1stQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容 イントロダクラ 利益計算の仕組会計理論と会論 利益測定と会論 現金預金と売上信棚的資産と売上高とでで、 有形固定資産 無形固定資産と 集計である。 は、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	ション 目み 十基準 経評価の基礎概念 西証券 責権 上原価 と繰延資産		週ごとの到達目標財務会計の機能と企業活動と複式領企業会計原則,会現金主義会計と到現金主義会計と到現金再多方面。 現金主義会計と到現金再多方面。 現金主義会計と到現金再多方面。 現金主義会計と到現金再多方面。 東本語のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 正券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 資却 繰延資産 分と引当金 に本と果実 上体系 養表の作成 替予約	フロー計算書
受業計画	1stQ 2ndQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組会計理論と会論 利益強調定とき有何 売上高と売上信 棚卸資固定資産と売」 有形固定資産と 無形固定資産と 負債 株主資本と純資 財務諸表の作成 連結財務諸表 外貨建取引の扱	レヨン 目み 十基準 香評価の基礎概念 亜証券 責権 上原価 と繰延資産 受産 及と公開		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と予 現金主義会計と予 現金預金,有価証 販売基準,生産 棚卸資産の取得価と減価値 無形固定産囲,区 純資産の構成,元 対務諸表の種類と 連結決算と財務語 外貨建取引と為	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 正券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 資却 繰延資産 分と引当金 に本と果実 上体系 養表の作成 替予約	フロー計算書
授業計画	1stQ 2ndQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 7上 16週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組会計理論と会論 利益測定とと売」 現金預金と売上債棚が設定と表示とのです。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	レヨン 目み 十基準 経評価の基礎概念 証証券 責権 上原価 二繰延資産 登産 及と公開		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と予 現金主義会計と予 現金預金,有価証 販売基準,生産 棚卸資産の取得価と減価値 無形固定産囲,区 純資産の構成,元 対務諸表の種類と 連結決算と財務語 外貨建取引と為	上制度 請記 会計情報の特性 終生主義会計 E券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 設却 疑延資産 分と引当金 二本と果実 二体系 養予約	
授業計画 前期	1stQ 2ndQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容 イントロダクミ 利益計算の仕組会計理論と会論 利益測定とと売」 現金預金と売上債棚が設定と表示とのです。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	レヨン 目み 十基準 経評価の基礎概念 証証券 責権 上原価 二繰延資産 登産 及と公開		週ごとの到達目標 財務会計の機能と 企業活動と複式領 企業会計原則,会 現金主義会計と予 現金主義会計と予 現金預金,有価証 販売基準,生産 棚卸資産の取得価と減価値 無形固定産囲,区 純資産の構成,元 対務諸表の種類と 連結決算と財務語 外貨建取引と為	上制度 請記 会計情報の特性 終生主義会計 E券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 設却 疑延資産 分と引当金 二本と果実 二体系 養予約	フロー計算書
授業計画 前期 一 で 分類	1stQ 2ndQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 7	授業内容 イントロダクラ 利益計算の仕組会計理論と会論 現金預金と有何 売上高資産と売上の 有形固定資産 無形直質を変変を 無の情報 財務諸表の作成 連結財務諸表 外貨 が経 の学習内容と の学習内容と	ション 目み 計基準 音評価の基礎概念  証券 責権 上原価	<b>横</b>	週ごとの到達目標財務会計の機能と企業活動と複式領企業会計原則,会現金主義会計原則,会現金主義会計原則,会現金主義会計及。有価重星期間の範囲の範囲の一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、	上制度 算記 会計情報の特性 経生主義会計 E券,キャッシュン 基準,回収基準 原価と原価配分 資却 操延資産 かと引当金 た本と果実 上体系 著表の作成 香予約 う	レベル 授業週
受業計画	1stQ 2ndQ	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 ブナユ 分野	授業内容 イントロダクラ 利益計算の仕組会計理論と会論 現金預金と有何 売出高資産と売上値 棚卸固定資産 無形債 株主資本と純美 財務諸表の作成 連結財務別のが 総括 の学習内容と含 課題	レヨン 目み 十基準 種評価の基礎概念 面証券 責権 上原価 と繰延資産 登産 及と公開 数算	標態度	週ごとの到達目標財務会計の機能と企業活動と複式領土を発現金主義会計を開り、会現金主義会計を開助の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	上制度 算記 計情報の特性 経生主義会計 E券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 調却 疑証資産 かと引当金 た本と果実 全体系 養表の作成 替予約 )	レベル 授業週 合計
授業計画 前期 でデルコ 分類 評価割る 総合評価	1stQ 2ndQ コアカリ 含	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 フナユ 分野	授業内容 イントロダクミ 利益計算命と会論 利益強調定とと売」 現金預高と応売」 有服卸高とを売上債 棚が田固定 無形債 株務務諸務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	レヨン 目み 十基準 種評価の基礎概念 面証券 責権 上原価 と繰延資産 登産 以と公開 数算 関達目標 学習内容の到達目 相互評価 0	標 態度 0	週ごとの到達目標財務会計の機能と企業会計原則,会現金主義会計を開助。 現金主義会計を開助。 現金主義会計を開助。 中華の東部の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の	議記 計情報の特性 経生主義会計 E券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 説却 解延資産 かと引当金 元本と果実 全体系 番表の作成 替予約 )	レベル 授業週 合計 100
授業計画	1stQ 2ndQ コアカリ 会	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 ブナユ 分野	授業内容 イントロダクラ 利益計算の仕組会計理論と会論 現金預金と有何 売出高資産と売上値 棚卸固定資産 無形債 株主資本と純美 財務諸表の作成 連結財務別のが 総括 の学習内容と含 課題	レヨン 目み 十基準 種評価の基礎概念 面証券 責権 上原価 と繰延資産 登産 及と公開 数算	標態度	週ごとの到達目標財務会計の機能と企業活動と複式領土を発現金主義会計を開り、会現金主義会計を開助の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	上制度 算記 計情報の特性 経生主義会計 E券, キャッシュン 基準, 回収基準 原価と原価配分 調却 疑証資産 かと引当金 た本と果実 全体系 養表の作成 替予約 )	レベル 授業週 合計

	島工業高	等専門学村	交 開講年	度 平成29年度(2	2017年度)	授業科目	環境保全工学	
科目基	礎情報		•		•	•		
科目番号		0038			科目区分	専門 / 選	·····································	
授業形態	# The state of the	講義・	演習		単位の種別と単	位数 学修単位:	2	
開設学科	<del></del>			/ョン学専攻(ビジネス	対象学年	専1		
開設期		<u> </u>	ニケーション学ニ	<u> 一人 </u>	週時間数	2		
<del>加取利</del> 教科書/教	 数材	配布資	料		及可问及	]2		
担当教員			克克,原田 正光					
到達目		10.00						
①自然の ②河川、 ③PRTR: ④発生し	)浄化機能 湖沼、沿 法やMSDS ルた化学物	岸域の環境保 などを理解し		「説明できる。 段業計画にある内容が説 全管理の基礎的事項を理				
<u>ルーブ</u>	リック							
			理想的な到達	達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの	目安
評価項目	1		各授業項目のできる。	の内容を理解し、応用	各授業項目の内 。	容を理解している	各授業項目の内 い。	容を理解していた
評価項目	2							
評価項目	3							
学科の	到達目標	票項目との	関係					
学習・教	育到達度	目標 (A) 学習	習・教育到達度目標	票 (B)				
教育方	法等							
概要		自然環 講述す 講義す	る。そして,人間	の浄化機能について解 社会の大量生産・消費	説し、河川、湖沼 で発生した化学物	、沿岸域における 質について, リス	環境保全手法につ ク管理と評価及び	いて事例を挙げて 環境分析の概要を
受業の進	重め方・方:	法						
授業計	画		-1	験当日に提出すること ノートを準備すること 沢から,各自達成度を 題等の成績を20%として	に総合的に評価し,	1		宇丽 タ むここ。
		週	授業内容	/D A >>		週ごとの到達目標		
		1週	自然環境問題と			生態系の構造、自	然環境問題	
		2週	生態系における	)物質循環			1 / A	
		2,⊞	河川理寺				の分解、食物連鎖	
		3週	河川環境			自浄作用とそのモ	デル化	
	1stO	4週	湖沼環境			自浄作用とそのモ 富栄養化現象とそ	デル化 のモデル化	
	1stQ	4週 5週	湖沼環境 干潟環境			自浄作用とそのモ 富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化	デル化 のモデル化 いしくみ	, 重計能
	1stQ	4週 5週 6週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性			自浄作用とそのモ 富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法,	
<del>2.5 tr</del> o	1stQ	4週 5週 6週 7週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術			自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学	
前期	1stQ	4週 5週 6週 7週 8週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ			自浄作用とそのモ 富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, 」ン、生態工学 環保全	人工干潟、人工港
前期	1stQ	4週 5週 6週 7週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1)			自浄作用とそのモ 富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ	人工干潟、人工港
前期	1stQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ	生物質の動態		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS	人工干潟、人工港
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2)	生物質の動態 P価(1)		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化放射性セシウム, 礫間接触酸化法、地、ミチゲーショ 生態工学による現 PRTR法、リスク リスクとハザート	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS	人工干潟、人工活
前期	1stQ 2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと影	生物質の動態 呼価(1) 呼価(2)		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評環境リスクと評	生物質の動態 呼価(1) 呼価(2)		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと診 環境リスクと診	生物質の動態 P価(1) P価(2) P価(3)		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評	生物質の動態 P価(1) P価(2) P価(3)		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による場 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活
	2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 リナユラム	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評 環境リスクと評 環境保全工学の ア学習内容と3	生物質の動態  P価(1) P価(2) P価(3)  D総括  到達目標		自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による場 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活ン
モデル.	2ndQ -コアカリ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評 環境リスクと評 環境保全工学の ア学習内容と3	生物質の動態  F価(1) F価(2) F価(3)  D総括  到達目標	極際	自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による場 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活
モデル.	2ndQ -コアカリ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 リナユラム	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評環境リスクと評環境以スクと評環境保全工学の学習内容と3	生物質の動態  P価(1) P価(2) P価(3)  D総括  到達目標	<b>冲</b>	自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による場 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、MSDS 方	人工干潟、人工活ンン・ベル 授業週
モデル.	2ndQ /コアカ! 合	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 リキュラム	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評 環境保全工学の学習内容と3 学習内容と3 課題	生物質の動態  P価(1) P価(2) P価(3)  D総括  到達目標	標態度	自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による場 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、 MSDS た方 ほ	人工干潟、人工活ン
モデル.分類 評価割。	2ndQ /コアカリ 合 福島合	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 Jキューム 分野 試験	湖沼環境 干潟境中の放射性 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評 環境保全工学の 学習内容と 学習内容と 3 学習内容と 3 実題 20	生物質の動態  P価(1) P価(2) P価(3)  D総括  到達目標  学習内容の到達目  相互評価  0	態度 0	自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習 分析法の概要 化学物質と保全工	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環保全 コミュニケーショ 、MSDS 方 は 学のまとめ 到達し その他 0	人工干潟、人工沿 ン ンベル 授業週 合計 100
分類 評価割合 総合評価 基礎的能	2ndQ クコアカ! 合 調合	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 リキュラム 分野 試験 80	湖沼環境 干潟環境 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評 環境保全工学の 学習内容と3 学習内容と3 実現 20 20	生物質の動態  P価(1) P価(2) P価(3)  D総括  到達目標  「学習内容の到達目・ 相互評価 0 0 0	態度 0 0	自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法。 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク リスクシ評価の考え 暴露量評価、演習 最大法の概要 化学物質と保全工 ポートフォリオ 0 0	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環境保全 コミュニケーショ 、 MSDS 一方 は 一方 は で で の の の の の の の の の の の の の	人工干潟、人工沿 ン ン (本計 100 100
モデル.分類 評価割。	2ndQ クコアカリ 合 耐合 ジカ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 Jキューム 分野 試験	湖沼環境 干潟境中の放射性 環境中の放射性 環境修復技術 前半のまとめ 化学物質(1) 化学物質(2) 環境リスクと評 環境リスクと評 環境保全工学の 学習内容と 学習内容と 3 学習内容と 3 実題 20	生物質の動態  P価(1) P価(2) P価(3)  D総括  到達目標  学習内容の到達目  相互評価  0	態度 0	自浄作用とそのモ富栄養化現象とそ 干潟と湿地の浄化 放射性セシウム, 礫間接触酸化法、 地、ミチゲーショ 生態工学による環 PRTR法、リスク リスクとハザート リスク評価の考え 暴露量評価、演習 暴露量評価、演習 分析法の概要 化学物質と保全工	デル化 のモデル化 のしくみ 水循環系における 強制循環曝気法, ン、生態工学 環保全 コミュニケーショ 、MSDS 方 は 学のまとめ 到達し その他 0	人工干潟、人工デンン 授業週 合計 100

福島	工業高	等専門学校	開講年月	夏 平成29年度(2	2017年度)	授業科目	広告メディア	7論
科目基础	楚情報							
科目番号		0039			科目区分	専門/選技	 尺	
授業形態		実験・実	習		単位の種別と単位数	対 学修単位:	2	
開設学科		ビジネス コニュニ	コミュニケーシ ケーション学コ	ョン学専攻(ビジネス ース)	対象学年	専1		
開設期		後期			週時間数	2		
教科書/教	材	スライド	を使用。プリン	トは適宜必要に応じ配	布。			
担当教員		山口 泰博	<b></b>					
到達目標	票							
②マーケ <del>:</del>	ティングに	おける広告戦	な用語を理解す 路の位置づけを ーションを実践	る。 理解し、広告表現やメ し、実社会におけるコ	ディア戦略の仕組み ミュニケーション能	、考え方を理解 力を身につける	する。 。	
ルーブ!	ノック							
			理想的な到達	をレベルの目安	標準的な到達レベル	レの目安	未到達レベル	の目安
評価項目:	1		各授業項目のできる。	)内容を理解し、応用	各授業項目の内容 <sup>2</sup> 。	を理解している	各授業項目の	内容を理解してい
評価項目2	2							
評価項目:	3							
学科の到	到達日標	項目との関	係					
学習・教	育到達度目	標 (E)						
教育方法	 去等					-		
既要		広告メデ	ィアの概略、広	告戦略の考え方を学び	、企業のコミュニケ	ーション活動を <sup>3</sup>	理解していく。	
	 め方・方法							
	_	スに気を	配り、ネット、70% プレゼン	- フョン、広日関連の 屋外などの広告メディ デーションを30点とし 企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 , 60点以上を合格。	と埋解しやすい。 現や広告主の意 とする。(企画記	。晋段から新聞、 図に留意してお・ 書では、用語の意	、TVなどのニュ· く。 意味や仕組みの理角 
	——— 画 	スに気を 企画書を 課題に対	配り、ネット、 70%、プレゼン する情報収集や	屋外などの広告メディ /テーションを30占とし	アにおいて、広告表 ノ、60点以上を合格の 考慮)	現や広告主の意 とする。(企画記	図に留意してお <sup>、</sup> 書では、用語の意	、TVなどの二ユ- く。 意味や仕組みの理解
	<u></u>	スに気を 企画書を 課題に対	配り、ネット、70% プレゼン	屋外などの広告メディ /テーションを30占とし	アにおいて、広告表 ,、60点以上を合格。 考慮) 週	現や広告主の意 とする。(企画 とする。(企画 と と の 到達目標	図に留意してお <sup>、</sup> 書では、用語の意	く。 意味や仕組みの理解
	<b>=</b>	スに気を企画書を課題に対	配り、ネット、 70%、ブレゼン する情報収集や 授業内容	屋外などの広告メディ /テーションを30占とし	アにおいて、広告表元、60点以上を合格の考慮)	現や広告主の意 とする。(企画 とする。(企画 と と の 到達目標	図に留意しておく いまでは、用語の意	く。 意味や仕組みの理角
	重	スに気を企画書を課題に対 週 1週	配り、ネット、70%、ブレゼンする情報収集や 授業内容	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし デーションセプトを重点 企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元、60点以上を合格で考慮) 遅 で	現や広告主の意 とする。(企画記 にとの到達目標 スメディアの変	図に留意しておき 書では、用語の意 では、用語の意 では、ガローナリ	く。 意味や仕組みの理角
		スに気を 企画書を 課題に対 週 1週 2週	配り、ネット、 70%、プレゼン する情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし デーションセプトを重点 企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元、60点以上を合格で考慮)	現や広告主の意 とする。(企画 ごとの到達目標 スメディアの変 告の概略	図に留意しておき 書では、用語の意 と と では、アーナリ に では、ジャーナリ	く。 意味や仕組みの理角
	蓟 3rdQ	スに気を 企画書を 課題に対 週 1週 2週 3週	配り、ネット、70%、プレゼンする情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし デーションセプトを重点 企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元、60点以上を合格の考慮) 遅 位 4	現や広告主の意 とする。(企画 と と と と の 到達目標 スメディアの変 告の概略 マス(新聞と雑	図に留意しておき 書では、用語の意 と と では、アーナリ に では、ジャーナリ	く。 意味や仕組みの理角
		スに気を 企識題に対 週 1週 2週 3週 4週	配り、ネット、 70%、プレゼン する情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし ・デーションセプトを重点 企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 , 60点以上を合格。 考慮) - 選 - 位 4 4	現や広告主の意 とする。(企画 にごとの到達目標 スメディアの変 告の概略 マス(新聞と雑 マス(ラジオと	図に留意しておいまでは、用語の意 では、用語の意 遷、ジャーナリ 誌) エV)	く。 意味や仕組みの理角
		スに気をを表して、 で書きた対 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	配り、ネット、 70%、プレゼン する情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 ム告産業	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 , 60点以上を合格。 考慮) - 選 - 位 - 位 - 4 - 4 - 4	現や広告主の意 とする。(企画記 でとの到達目標 スメディアの変 ちの概略 マス(新聞と雑マス(ラジオと 〇H	図に留意しておいます。 では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意	く。 意味や仕組みの理角
授業計画		スに画題に 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	配り、ネット、70%、プレゼンする情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 スティアと広告	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 , 60点以上を合格。 考慮)	現や広告主の意見でする。(企画記 でとの到達目標で でとの到達目標では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	図に留意しておき 書では、用語の意 透。 ジャーナリ 読) T V) ディアと広告	く。 意味や仕組みの理解 ズムと広告
受業計画		ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	配り、ネット、70%、プレゼンする情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 エーケティング 企業研究	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 , 60点以上を合格。 考慮)	現や広告主の意見でする。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。 (全の できる) できる	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	く。 意味や仕組みの理解 ズムと広告
授業計画		ス企課題 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	配り、ネット、70%、プレゼや 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 エーケティング 企業研究 企業研究	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元、60点以上を合格の考慮)	現や広告主の意見でする。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。 できる	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 透、ジャーナリ 読) T V ) ディアと広告 で 位置づけ ブランディング ービス商品	く。 意味や仕組みの理角 ズムと広告
授業計画		ス企課題に気をを 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	配り、ネット、70%、プレゼキット、70%、プレゼキット、70%、プレゼキットを受ける。 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 エーケー・ファイング 企業研究 企業研究 コミュニケーシ	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元、60点以上を合格の考慮)  - 「というでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	現や広告主の意見でする。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。 できる	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	く。 意味や仕組みの理解 ズムと広告
受業計画		ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	配り、ネット、70%、プレゼンする情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告の定義 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 エニケーシーショミュニケーシ	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 、60点以上を合格。 考慮)	現や広告主の意見でする。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。 (公本で) できる	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 透、ジャーナリ 読) エ V ) ディアと広告 で位置づけ ブランディング ービス商品 ・略、パブリシテ	く。 意味や仕組みの理解 ズムと広告
受業計画	3rdQ	ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 13週	配り、ネット、70%、プレザキャンでする情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告のアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 スーケティアと広告 マーケ研究 企業研究 コミュニケーシ ブランニング	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表 、60点以上を合格の 考慮)  退  で  な  な  な  な  な  な  な  な  な  な  な  な	現や広告主の意見でする。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(の到達目標 で スメディアの変	図に留意しておいますでは、用語の意味では、用語の意味では、用語の意味では、用語の意味では、アクリー・アイング・アイング・アイング・アイング・アイング・アイング・アイング・アイング	く。
受業計画	3rdQ	ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週 11週	配り、ネット、70%、プレゼキャインでは、大力のでは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元 60点以上を合格で考慮)  退  ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	現や広告主の意見でする。(企画を とする。(企画を となる。) とことの到達目標では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	図に留意しておき 情では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、アントナリー に選、ジャーナリー に対している。 では ブランディング でしている。 では ブランディング でしている。 では ブランディング でしている。 でしてい。 でしている。 でしてい。 でしてい。 でしている。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でし。 でして。 でしてい。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしてい。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし	く。
受業計画	3rdQ	ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 11週 11週 11月 11月 11月 11月 11月 11	配り、ネット、70%、プレザキャンでする情報収集や 授業内容 ガイダンス 広告のアと広告 メディアと広告 メディアと広告 メディアと広告 スーケティアと広告 マーケ研究 企業研究 コミュニケーシ ブランニング	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元 60点以上を合格で考慮)  退  ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	現や広告主の意見でする。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(企画記 できる。(の到達目標 で スメディアの変	図に留意しておき 情では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、アントナリー に選、ジャーナリー に対している。 では ブランディング でしている。 では ブランディング でしている。 では ブランディング でしている。 でしてい。 でしている。 でしてい。 でしてい。 でしている。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でし。 でして。 でして。 でして。 でし。 でして。 でして。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし	く。
受業計區	3rdQ 4thQ	ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 113週 113週 113週 113週 113週 113週	配り、ネット、70%、プログラス 情報収集や 授業内容 方と広義 メディアと広義 メディアとと広子 アンド 大学 ディアと 大学 ディアと 大学 アイア と 大学 アイア アーション ファーション まとめ	屋外などの広告メディ・デーションを30点とし企画コンセプトを重点	アにおいて、広告表元 60点以上を合格で考慮)  退  ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	現や広告主の意見でする。(企画を とする。(企画を となる。) とことの到達目標では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	図に留意しておき 情では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、アントナリー に選、ジャーナリー に対している。 では ブランディング でしている。 では ブランディング でしている。 では ブランディング でしている。 でしてい。 でしている。 でしてい。 でしてい。 でしている。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしてい。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でし。 でして。 でして。 でして。 でし。 でして。 でして。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし。 でし	く。
授 <b>業</b> 計画 後期	3rdQ 4thQ	A	配り、アクト、アクト、アクト、アクト、アクト、アクト、アクト、アクト、アクト、アクト	屋外などの広告メディ (テーションを30点とし 企画コンセプトを重点 )	アにおいて、広告表示 60点以上を合格の考慮) 退 で	現や広告主の意見でする。(企画を とする。(企画を となる。) とことの到達目標では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 透、ジャーナリ 読、 エ V ) ディアと広告 位置づけ ブランディング 一ビス商品 略、パブリシテ ゼン方法 プレゼンテーショ のまとめ	ズムと広告
受業計画	3rdQ 4thQ	ス企課 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 113週 113週 113週 113週 113週 113週	配り、ネット、70%、プログラス 情報収集や 授業内容 方と広義 メディアと広義 メディアとと広子 アンド 大学 ディアと 大学 ディアと 大学 アイア と 大学 アイア アーション ファーション まとめ	屋外などの広告メディ (テーションを30点とし 企画コンセプトを重点 )	アにおいて、広告表 、60点以上を合格。 考慮)	現や広告主の意見でする。(企画を とする。(企画を となる。) とことの到達目標では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 透、ジャーナリ 読、 エ V ) ディアと広告 位置づけ ブランディング 一ビス商品 略、パブリシテ ゼン方法 プレゼンテーショ のまとめ	く。
受業計画	3rdQ 4thQ	ス企課   週   1   2   3   3   4   3   3   4   3   3   4   3   3	配り、	屋外などの広告メディ デーションを30点とし 企画コンセプトを重点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アにおいて、広告表示 60点以上を合格で考慮) 退 で 位 4 位 で で で で で で で で で で で で で で で で	現や広告主の意見でする。(企画記述する。(企画記述さの到達目標では、の到達目標では、ある。(おります)では、「シターネットメーター・ス(リース)では、「ション、CI、「公園・では、「は、まず、では、いまが、いまが、いまが、いまが、いまが、いまが、いまが、いまが、いまが、いまが	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、アクレム で、ジャーナリ ディアと広告 位置づけ ブランディング ービスの のででは、アグリシテ ゼン方法 プレゼンテーショ のまとめ	く。
後期で対対の対対の対対の対対の対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対	3rdQ 4thQ	ス企課   週   1   1   1   1   1   1   1   1   1	配り、	<b>屋</b> 外などの広告メディ   (テーションを30点とし   企画コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点	アにおいて、広告表示 60点以上を合格で考慮) 遅	現や広会・(企画書) でとの到達目標 でとの到達目標 ではない概略 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	図に留意しておきては、用語の意味では、用語の意味では、用語の意味を表現では、用語の意味を表現では、アントンでは、アントンでは、アンティアと広告では、アンディングでは、アンティアと広告では、アンディングでは、アンティングでは、アンカ法では、アンカンテーションのまとめを表現である。  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	く。 京味や仕組みの理解 ズムと広告 ゴイ ン (Eレベル 授業週 合計
授業計画 受験 受験 受験 ででである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	3rdQ 4thQ コアカリ 含	ス企課   週   1   1   1   1   1   1   1   1   1	配り、	屋外などの広告メディ デーションを30点とし 企画コンセプトを重点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アにおいて、広告表示 60点以上を合格で考慮) 遅	現や広告主の意見でする。(企画記述する。(企画記述する。(企画記述されて、の到達目標では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	図に留意しておきでは、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、用語の意 では、アントング では ブランディング では ブランス アンファイング では アンガラーショ のまとめ 到達 でも での他 の	<ul><li>く。</li><li>六</li><li>ズムと広告</li><li>ボイ</li><li>シ</li><li>合計</li><li>100</li></ul>
注意は	3rdQ 4thQ コアカリ 合	ス企課   週   1   1   1   1   1   1   1   1   1	配り、	<b>屋</b> 外などの広告メディ   (テーションを30点とし   企画コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点   (コンセプトを重点	アにおいて、広告表示 60点以上を合格の 考慮) 退 で	現や広会・(企画書) でとの到達目標 でとの到達目標 ではない概略 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	図に留意しておきては、用語の意味では、用語の意味では、用語の意味を表現では、用語の意味を表現では、アントンでは、アントンでは、アンティアと広告では、アンディングでは、アンティアと広告では、アンディングでは、アンティングでは、アンカ法では、アンカンテーションのまとめを表現である。  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	く。 京味や仕組みの理角 ズムと広告 ・イ ・イ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

分野横断的能力 0

福島	島工業高	等専門学	交 開講年	度 平成29年度(	2017年度)	授業科目	再生可能工	ネルギー工学
科目基础	礎情報							
科目番号	ļ	0040			科目区分	専門 / 選	選択	
授業形態	ł	講義・	演習		単位の種別と単	位数 学修単位	<b></b> : 2	
開設学科	ļ	ビジネ コニュ	スコミュニケーシ ニケーション学コ	<sup>'</sup> ヨン学専攻(ビジネス Iース)	対象学年	専1		
開設期		後期			週時間数	2		
教科書/教			キスト					
旦当教員		徐 艶淵						
到達目								
③適切な	再生可能	エネルギー発 ギー発電の重 エネルギーの	電の原理と利用の 要性と同時に、そ 利用法について考	ための技術課題を理解 の大規模運用の難しさ える基礎能力を培う。	ぱする。 をを理解する。 -			
ルーブリ	リック							
			<u> </u>	達レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベノ	
平価項目	1		各授業項目のできる。	の内容を理解し、応用	各授業項目の内容	容を理解している	る 各授業項目の い。	D内容を理解していな
評価項目	12		(2.9)		0		V '0	
評価項目								
		 票項目との	 関係		1			
	可是口位 有到達度		IVI IVI					
教育方法 教育方法		山'环 ( <i>U)</i>						
既要	<del>Д ()</del>	その後	能エネルギーは他、これを利用したかを学ぶ。	のすべてのエネルギー 各種発電技術について	が失われた後も残 知識を得る。次い	る唯一の極めて重 で太陽光、風力和	重要なものである 利用で問題となる	ることをまず理解し、 る変動出力をどのよう
受業の進	め方・方		<i>73</i>					
<del>2212 - 72</del> 主意点		自学自	習の確認方法:課 験の成績を70%、	題、レポートを提出さ 課題の総点を30%と	せ、理解状況を確 して、60点以上 を	認する。 :合格とする。		
受業計	画							
		週	授業内容			週ごとの到達目	 標	
		1週	総論			電気エネルギー 一発電の位置づ		犬と再生可能エネルギ
		2週	太陽光発電 I			太陽電池の原理	と特性	
		3週	太陽光発電 II	[		太陽光発電装置	の建設と運用の	現状と課題
	3rdQ	4週	太陽熱発電			太陽熱エネルギ	一利用	
	3.00	5週	風力発電 I			種々の風力発電	機の構造と特性	
		6週	風力発電 II			風力発電設備の	建設・運用の現	 犬と課題
		7週	水力発電 I			大規模水力発電		
		8週	水力発電 II			中小水力発電技	術	
<b></b>		9週	地熱発電 I			地熱による発電	技術	
		10週	地熱発電 II			地中熱利用技術		
		11週	バイオマス・コ	ニネルギー		バイオマス燃料		
	411.0	12週	海洋発電			波力、潮力、温けるエネルギー		分濃度差など海洋にお
	4thQ	13週	分散電源技術			1		レギー電源の利用技術
			市井可能エラリ	/ギー利用技術		時間的に変動す の技術	るエネルギーを	効率よく利用するため
		14週	一一一					
		15週	スマートグリッ	バイ				
		15週	スマートグリッ					
		15週 16週 リキュラム	スマートグリッの学習内容と到	到達目標				
分類	コアカ!	15週	スマートグリッの学習内容と到	到達目標	標		到	達レベル 授業週
分類	コアカ! 合	15週 16週 リキュラム 分野	スマートグリッ の学習内容と3 学習内容	到達目標 学習内容の到達目			1	
分類 評価割る	コアカ! 合	15週 16週 リキュラム 分野 試験	スマートグリッ の学習内容と3 学習内容 課題	到達目標	態度	ポートフォリス	1	合計
分類 評価割1 総合評価	コアカ! 合 (割合	15週 16週 リキュラム 分野 試験 70	スマートグリッ の学習内容と3 学習内容 課題 30	到達目標 学習内容の到達目 相互評価 0	態度 0	0	オ その他 0	合計 100
分類 評 <b>価割</b> 総合評価 基礎的能	コアカ! 合 割合	15週 16週 リキュラム 分野 試験 70 70	スマートグリッ の学習内容と3 学習内容 課題 30 30	到達目標 学習内容の到達目 相互評価 0 0	態度 0 0	0	オ その他 0 0	合計 100 100
分類 評価割1 総合評価	コアカ! 合 割合 :カ	15週 16週 リキュラム 分野 試験 70	スマートグリッ の学習内容と3 学習内容 課題 30	到達目標 学習内容の到達目 相互評価 0	態度 0	0	オ その他 0	合計 100

福島	品工業高等	再門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業	科曰		
科目基础			1 100010 1 100	112 (2		,,,,,	—	<u>インターンシップB</u>	
17 LD 金型 科目番号		0041			科目区分	車	門 / 選	R	
受業形態		実験・実習			単位の種別と単		修単位:		
開設学科		ビジネスニ			1	専			
開設期		集中	/ / / / /	<b>V</b>	週時間数				
数科書/教	 対材	なし			122. 312327	I			
5000000000000000000000000000000000000	( P. )	原田 正光,	 湯川 崇						
		XH 1270	<i>13</i> 3711 233						
		覚を養うことかの要請を知り, なり,確かな暗 ジ精神および変	ができる。 問題意識を養うる 裁業観を形成するる 変化に対する柔軟性	ことができる。 ことができる。 生などを身につける	ことができる。				
レーブ!	ノック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	Ž	未到達レベルの目安	
評価項目:	1		到達目標の内容	を実践で理解し、	到達目標の内容	を実践で理	解して	到達目標の内容を実践	で理解して
			応用できる。		いる。			いない。	
平価項目2									
平価項目:									
学科の	到達目標工	頁目との関係	<b>系</b>						
学習・教	育到達度目標	標 (D) 学習・	教育到達度目標 (F	-)					
教育方法	 去等								
既要	• •	により、実 テーション	『践的・技術的感覚 /能力を高める。 必	1. 確かな職業観. 3	変化に対する季軟	性を育成す	<b>t</b> るとと	ける高度な知識・技術に角 もに、実習報告会を通じて めを行い2単位とする。	stれること プレゼン
受業の進む	め方・方法	・実習希望 ・実習先と ・実習先の	の調整						
		・報告書提 ・実習報告	出						
主意点		・実習報告 社会人とし 10日間)を	出 i会 ,ての基本的なマナ を目安とする。 6の実習記録票, 実		•			払うこと。実習期間は2周 0%として総合的に評価し	
		・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
	画	・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と	出 i会 ,ての基本的なマナ を目安とする。 6の実習記録票, 実		•		内容を10	0%として総合的に評価し	
	画	・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と 週 1週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
	画	・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と 週 1週 2週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
	画	・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と 週 1週 2週 3週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
		・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と 週 1週 2週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
	直 1stQ	・実習報告 社会人とし 10日間)を 実習先から 上を合格と 週 1週 2週 3週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
		・実習報告 社会人としま 10日間から 上を合格と 週 1週 2週 3週 4週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
		・実習報告 社会人として 10日間)から 上を合格と 週 1週 2週 3週 4週 5週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画		・実習報告 社会人として 10日間)から 上を合格と 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画		・実習報告として 実会人間の 実とを合格と 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画		・ 実習報告として ま会人間からと は10日智先を合格 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計區		・ 大田	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計區	1stQ	・ 実習報告として 実会人間からら として には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計區		・ 実習報告 社の日間からら 実会人間がらら として のに のに のに のに のに のに のに のに のに のに	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
主意点 受業計區	1stQ	・ 社の日本 として 10日	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計區	1stQ	・ 社の日本 としまり によって ままま としまり にままま としまり にまままま は 10日	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ	・社の日本としての 実会としての ま会には 10日習を 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ	・ 社の日本としている。 実会日間た合格 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ	・ 社の日本 として	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ	・社の日本として 実会日間からと 週 10日習を 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 14週 15週 16週 13週 13週 14週 15週 16週 17回 17回 17回 17回 17回 17回 17回 17回	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	・社の日本として 実会日間からと 週 10月間を 週 10月間を 10月間の 10月間の 10月間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日間の 11日	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ	・社の日本として ま会日間からと 週 10周 10月 10月 10月 10月 10月 10月 10月 10月	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本としまり</li> <li>・社の日本としまり</li> <li>・社の日本としまり</li> <li>・社の日本としまり</li> <li>・日本としまり</li> <li>・日本としまり</li> <li>・日本としまり</li> <li>・日本としまり</li> <li>・日本としまり</li> <li>・日本としまり</li> <li>日週</li> <li>日本日本の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中の中</li></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本としたられる</li> <li>・社の日本としたられる</li> <li>担週</li> <li>3週</li> <li>4週</li> <li>5週</li> <li>6週</li> <li>7週</li> <li>8週</li> <li>9週</li> <li>10週</li> <li>11週</li> <li>13週</li> <li>14週</li> <li>15週</li> <li>16週</li> <li>16週</li> <li>10週</li> <li>16週</li> <li>10週</li> <li>10週</li> <li>10週</li> <li>10週</li> <li>10週</li> <li>10月</li> <li< td=""><td>出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。</td><td></td><td>•</td><td>発表等の内</td><td>内容を10</td><td>0%として総合的に評価し</td><td></td></li<></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計[	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本としているとのできます。</li> <li>・社の日本としているとのできますます。</li> <li>・社の日本としているとのできますます。</li> <li>・社の日本としているとのできますますますます。</li> <li>・社の日本としているとのできますますますますますますますますますますますますますますますますますますます</li></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本としていると</li> <l< td=""><td>出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。</td><td></td><td>•</td><td>発表等の内</td><td>内容を10</td><td>0%として総合的に評価し</td><td></td></l<></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本としているとのできます。</li> <li>・社の日本としているとのできます。</li> <li>週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週</li></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本としていると</li> <l< td=""><td>出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。</td><td></td><td>•</td><td>発表等の内</td><td>内容を10</td><td>0%として総合的に評価し</td><td></td></l<></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計區	1stQ 2ndQ 3rdQ	<ul> <li>・社の日本としているとのできます。</li> <li>・社の日本としているとのできます。</li> <li>週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週</li></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ	<ul> <li>・社の日本</li> <li>・社の日本</li></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 らの実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	
受業計画	1stQ 2ndQ 3rdQ	<ul> <li>・社10度とした日本</li> <li>・社10度を</li> <li>・社10度を</li> <li>週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週</li></ul>	出 (会 ,ての基本的なマナ 近目安とする。 6の実習記録票,ま でする。		•	発表等の内	内容を10	0%として総合的に評価し	

	15週							
	16週							
モデルコアカ	リキュラムの:	学習内容と到達	目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	票			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	†
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100	)
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100	)
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

		等専門学校	党 開講年	度 平成29年度(2	2017年度)	授業科目	原子力安全]	_学
科目基础	礎情報							
科目番号		0001			科目区分	専門/選持	沢	
受業形態		講義・	演習		単位の種別と単	位数 学修単位:	2	
開設学科		ビジネ, コニュ:	スコミュニケーシ ニケーション学コ	<sup>,</sup> ョン学専攻(ビジネス Iース)	対象学年	専2		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教	数材	なし						
旦当教員		實川 資	倒					
到達目	標							
			の原理、軽水炉機 方の基礎を習得す	器の特徴と安全性につ <sup>-</sup> る。	いての考え方、さ	らに事故事例と廃	炉についての基	礎的知識を得、加え
ルーブ	リック				_		1	
			理想的な到過	達レベルの目安	標準的な到達し	ベルの目安	未到達レベル	の目安
評価項目	1		各授業項目のできる。	の内容を理解し、応用	各授業項目の内	容を理解している	各授業項目のい。	内容を理解していた
平価項目								
評価項目								
学科の	到達目標	項目との	関係					
学習・教	育到達度目	目標 (B)						
教育方法	法等							
既要		軽水炉する問	と関連システムに 題点と将来の方向 役割について学習	ついて概説し、次いで  について学習する。原 !する	安全性の考え方と 子力以外の領域へ	原子力機器の重大 の適用も意識しな	な事故について、 がら安全性の確信	、さらに安全性に関 保と経済性、さらに
受業の進	 め方・方法	1	以前にラグ・モデロ	19.00				
<u> </u>			一原発で相当量の	放射性物質放出をもた	らす事故が生じた		子炉システムの	
		- 1-1/E	ロルー・・・・・・・・	<b>~~☆☆☆ ナル</b> サフ ウ				
注意点		りに復    題や小    定期試	旧についても考え テストでは、計算 験の成績を70%、	プラ学習を進める。定 を含む事柄も扱う。 課題や小テストの成績	期試験は、基本的 5を30%として総合	に資料持ち込み可の 合的に評価し、60g	の論述式が選択 <sup>。</sup> 点以上を合格とす	安全性について、さ できるものとし、課 する。
	画	りに復 題や小・ 定期試	旧についても考え テストでは、計算 験の成績を70%、	・ フン学質を進める。 定 を含む事柄も扱う。 課題や小テストの成績	期試験は、基本的	に資料持ち込み可合的に評価し、60g	の論述式が選択る	できるものとし、課 する。
	画	定期試	験の成績を70%、	- フノ子督を進める。定 を含む事柄も扱う。 課題や小テストの成績	期試験は、基本的 {を30%として総合	合的に評価し、60点	点以上を合格とす	できるものとし、課 する。
	由	」   定期試	ります。 接の成績を70%、 授業内容	- ノノ子省を進める。 定 を含む事柄も扱う。 課題や小テストの成績	期試験は、基本的 {を30%として総合	合的に評価し、60g 週ごとの到達目標	点以上を合格とな	できるものとし、 <b>課</b> する。
	画	週 1週	様の成績を70%、 授業内容 概要	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	合的に評価し、60点 週ごとの到達目標 原子核の科学と技	点以上を合格とす	する。
	由	定期試     週   2週	<ul><li>一 授業内容</li><li>一 概要</li><li> 核反応と放射器</li></ul>	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	当的に評価し、60g 週ごとの到達目標 原子核の科学と技 放射線及び核分裂	点以上を合格とで に が 以反応とその断面	する。 - - - - 積
		週 1週 2週 3週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標 原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条	点以上を合格とで を が と と と と と と の 断面 を に 、 に 、 に に に に に に に に に に に に に	する。 積 i速
	由 1stQ	週 1週 2週 3週 4週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射網 核反応の持続と 原子炉の概要	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標 原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界	点以上を合格とで と が と反応とその断面 と件、中性子の減 と条件、反応速度	する。 積 速
		週 1週 2週 3週 4週 5週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ	課題や小テストの成績 R ご制御	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標 原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去	点以上を合格とで に が 見反応とその断面 件、中性子の減 条件、反応速度 に及び熱利用シス	積 速 デム
		選 1週 2週 3週 4週 5週 6週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシステ 炉心機器の劣化	課題や小テストの成績 記 ご制御 ごとその機構	期試験は、基本的	適ごとの到達目標原子核の科学と技放射線及び核分裂連鎖反応、臨界条拡散方程式、臨界炉心機器、熱除去燃料、材料及び機料、材料及び機料、材料及び機料、材料及び機	点以上を合格とで 流術 提反応とその断面 性、中性子の減 条件、反応速度 ほ及び熱利用シス 器の損傷と劣化	積 速 デム
受業計		週 1週 2週 3週 4週 5週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ	課題や小テストの成績  R  E 制御  C とその機構  E 1	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標 原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去	点以上を合格とで に が と反応とその断面 と件、中性子の減 と条件、反応速度 を及び熱利用シス においます。	積 速 デム
受業計		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器の劣化 軽水炉の安全性	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	過ごとの到達目標原子核の科学と技放射線及び核分裂連鎖反応、臨界条拡散方程式、臨界係が機器、熱除去燃料、材料及び機軽水炉安全性の考	点以上を合格とで に が と反応とその断面 性、中性子の減 ない熱利用シス にない熱利用シス にない熱利用シス にない熱利用シス にない熱利用シス にない、 にない、 にない、 にはいいい、 にはいいいい、 にはいいい、 にはいいい、 にはいいい、 にはいいい、 にはいいい、 にはいいいい、 にはいいいい、 にはいいいい、 にはいいいい、 にはいいいい、 にはいいいい、 にはいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	で 積 に テム の機構
受業計		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシステ 炉心機器の劣化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性	課題や小テストの成績  記書	期試験は、基本的	過ごとの到達目標原子核の科学と技放射線及び核分裂連鎖反応、臨界条拡散方程式、臨界係力心機器、熱除去燃料、材料及び機軽水炉安全性の考反応度事故、冷却工学的安全設備、	点以上を合格とで に術 提反応とその断面 性、中性子の減 条件、反応速度 及び熱利用シス 器の損傷と劣化 え方 別材喪失事故 供用期間中検査	積 i速 :: :テム の機構
受業計		短期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器の劣化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性	課題や小テストの成績 に制御ム ととその機構 E1 E2 E3 E1	期試験は、基本的	過ごとの到達目標原子核の科学と技放射線及び核分裂連鎖反応、臨界条拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去燃料、材料及び機軽水炉安全性の考反応度事故、冷却	点以上を合格とで に術 提反応とその断面 性、中性子の減 発件、反応速度 及び熱利用シス 器の損傷と劣化 え方 り材喪失事故 供用期間中検査 過酷事故マネー	積 (速 デム の機構 ジメント
受業計	1stQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器の劣化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故と廃炉	課題や小テストの成績  に制御  に公とその機構  には  には  には  には  には  には  には  には  には  に	期試験は、基本的	過ごとの到達目標原子核の科学と技放射線及び核分裂連鎖反応、臨界条拡散方程式、臨界炉心機器、熱除去燃料、材料及び機軽水炉安全性の考反応度事故、冷却工学的安全設備、過酷事故の過程とTMI-2での廃炉概	点以上を合格とで が にが になたとその断面 にない、中性子の減 ない、熱利用シスス には、大力 はない、大力 はない、大力 はない、大力 はない、大力 は、大力 はい、大力 はい、大力 はい、大力 はい、大力 はい、大力 はい、大力 はい、大力 はい、大力 はい、一	積 速 デム の機構 ジメント る廃炉
受業計		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器の劣化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故と廃炉 過酷事故と廃炉 廃棄物の処理処	課題や小テストの成績  に制御  にとその機構  に1  に2  に3  に3  に4  に4  に5  に5  に5  に5  に5  に5  に6  に6  に7  に7  に7  に7  に7  に7  に7  に7	期試験は、基本的	適ごとの到達目標原子核の科学と技放射線及び核分裂連鎖反応、臨界条拡散方程式、臨界係力心機器、熱除去燃料、材料及び機軽水炉安全性の考反応度事故、冷却工学的安全設備、過酷事故の過程と	点以上を合格とで にが、 になたとその断面 に体、中性子の減 はないで熱利用シス はない熱利用シス はおいで熱利用シス はおいで熱利用シス はおいで、 はたう はたう はたいでは、 はたいでは、 はいいではいないでは、 はいいでは、 はいないでは、 はいいでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はい	積 速 デム の機構 ジメント る廃炉
受業計	1stQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射網 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器のの多化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故と廃炉 過酷事故と廃炉 廃棄物の処理処 廃炉及び新型炉	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の考 反応度事故、冷却 工学的安全設備、 過酷事故の過程と TMI-2での廃炉概 軽水炉安全性向上	点以上を合格とで に が に に に に に に に に に に に に に	積 : : : : : : : : : : : : :
受業計	1stQ	定期試  週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射総 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器の劣化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故と廃炉 廃棄物の処理型 廃炉及びどの新型炉 核融合などの新	課題や小テストの成績  に制御  にとその機構  に1  に2  に3  に3  に4  に4  に5  に5  に5  に5  に5  に5  に6  に6  に7  に7  に7  に7  に7  に7  に7  に7	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の考 反応度事故、冷却 工学的安全設備、 過酷事故の過程と TMI-2での廃炉概 軽水炉安全性向上	点以上を合格とで に が に に に に に に に に に に に に に	積 : : : : : : : : : : : : :
受業計	1stQ	定期試  週  1週  2週  3週  4週  5週  6週  7週  8週  9週  10週  11週  12週  13週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応と放射網 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のシスラ 炉心機器のの多化 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故と廃炉 過酷事故と廃炉 廃棄物の処理処 廃炉及び新型炉	課題や小テストの成績	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の考 反応度事故、冷却 工学的安全設備、 過酷事故の過程と TMI-2での廃炉概 軽水炉安全性向上	点以上を合格とで に が に に に に に に に に に に に に に	積 速 デム の機構 ジメント る廃炉 分 など
受業計	1stQ 2ndQ	定期試   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のの安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故とと廃炉 過酷事故とと廃炉 廃棄物の処理処 廃炉及び新型炉 核融括	課題や小テストの成績  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記	期試験は、基本的	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の考 反応度事故、冷却 工学的安全設備、 過酷事故の過程と TMI-2での廃炉概 軽水炉安全性向上	点以上を合格とで に が に に に に に に に に に に に に に	積 : : : : : : : : : : : : :
受業計画	1stQ 2ndQ	定期試   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   13週   14週   15週   16週   16週   キュラムの	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のの安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故と処理り 廃廃炉及などの新 終括	課題や小テストの成績	責を30%として総合	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の考 反応度事故、冷却 工学的安全設備、 過酷事故の過程と TMI-2での廃炉概 軽水炉安全性向上	点以上を合格とで が にが にないとその断面 は、中性子の減 にない熱利用シス にない にない にない にない にない にない には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	積 (速 デム の機構 ジメント る廃炉 分 がなど ラントとその安全性
受業計	1stQ 2ndQ	定期試   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のの安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事故とと廃炉 過酷事故とと廃炉 廃棄物の処理処 廃炉及び新型炉 核融括	課題や小テストの成績	責を30%として総合	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、臨界 炉心機器、熱除去 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の考 反応度事故、冷却 工学的安全設備、 過酷事故の過程と TMI-2での廃炉概 軽水炉安全性向上	点以上を合格とで が にが にないとその断面 は、中性子の減 にない熱利用シス にない にない にない にない にない にない には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	積 : : : : : : : : : : : : :
受業計	1stQ 2ndQ コアカリ	定期試   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週   十ユラムの	験の成績を70%、 授業内容 概要 核反応の持続と 原子炉の概要 軽水炉のの安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 軽水炉の安全性 過酷事かのが新どの 廃炉及などの新 終括 ア学習内容	課題や小テストの成績	標標	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨馬 炉心機器、熱除去 燃料、材好全性の考 反応度事故の過程と 工学的安全設備、 過酷-2での廃炉と 廃炉などで生じる 軽水炉安全性の上 核融合などの新た	点以上を合格とで に が に に に に に に に に に に に に に	積   ixe   :
受業計	1stQ 2ndQ	定期試   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   113週   14週   15週   16週   十ユラムの   分野   式験	験の成績を70%、   授業内容   概要   核反応の機要   核反応の概要   軽水炉のの破シのの安全性   軽水炉のの安全性   軽水炉のの安全性   過酷事ものと、原発が原産を発展が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発	課題や小テストの成績  記	標 態度	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、熱除力 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の 反応度事故の過程と TMI-2での集炉概 廃炉などで生じ向上 核融合などの新た	点以上を合格とで に に に に に に に に に に に に に	積   読速   デム   の機構   ジメント   る廃炉   分   がとど   ラントとその安全性   世レベル   授業週   合計
受業計	1stQ 2ndQ コアカリ 合	定期試   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   11週   12週   13週   14週   15週   16週   十ユラムの   分野   式験   70   100	験の成績を70%、   授業内容   概要   核反応の持続と   原子炉のと放射線   核反応の概要   軽水炉のの安全性   軽水炉の安全性   軽水炉の安全性   過酷事故のと廃が   廃棄物のびおどの第   検融合   大阪では、1000   では、1000   では、1000	課題や小テストの成績  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記書  記	標 態度 0	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標 原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、熱外 極水炉安全性の 反応との 大型が、大型では が出して、 が出して、 が出して、 が出して、 が出して、 が出して、 が出して、 が出して、 でで、 でで、 をは、 が、が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	点以上を合格とで に が に に に に に に に に に に に に に	積 : : : : : : : : : : : : :
受業計	1stQ 2ndQ コアカリ 合 ii 割合 7	定期試   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   113   12週   13週   143   16週   15週   十ユ   分野   式験   70   70   10   10   10   10   10   10	験の成績を70%、   授業内容   概要   核反応の機要   核反応の概要   軽水炉のの破シのの安全性   軽水炉のの安全性   軽水炉のの安全性   過酷事ものと、原発が原産を発展が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発が、原発	課題や小テストの成績  記	標 態度	高的に評価し、60g 週ごとの到達目標原子核の科学と技 放射線及び核分裂 連鎖反応、臨界条 拡散方程式、熱除力 燃料、材料及び機 軽水炉安全性の 反応度事故の過程と TMI-2での集炉概 廃炉などで生じ向上 核融合などの新た	点以上を合格とで に に に に に に に に に に に に に	積   読速   デム   の機構   ジメント   る廃炉   分   がとど   ラントとその安全性   世 ベル   授業週   合計

	島工業高	等専門学校	そう 開講年月	度 平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	応用防災通信	
科目基	礎情報							
科目番号	ļ	0002			科目区分	専門 / 選択	7	
授業形態	ł	講義・流	寅習		単位の種別と単位	立数 学修単位:	2	
開設学科	ļ		スコミュニケーシ ニケーション学コ	ョン学専攻(ビジネス ース)	対象学年	専2		
開設期		後期			週時間数	2		
教科書/教	数材	プリン						
担当教員	Į	霜田 宜	久					
到達目	標							
②災害に	対するソフ	ミ、火災、土役フト面からのS	砂崩れといった災 対策を説明できる	害に対するハード面の 。	対策を説明できる	0		
ルーブ	リック		1				_	
			理想的な到達	をレベルの目安	標準的な到達レイ		未到達レベルの	)目安
評価項目	1		各授業項目のできる。	)内容を理解し、応用	各授業項目の内容 。	容を理解している 	各授業項目の内	容を理解していた
評価項目								
評価項目					1		1	
学科の	到達目標	項目との	関係					
学習・教	育到達度目	目標 (B)						
教育方	法等							
概要		地震、流	津波、水害、火災	、土砂崩れといった災	害に対し、ハード	・ソフト合わせた約	総合的な減災対策	について学習する
授業の進	め方・方法	ŧ.						
注意点		握するる  自学自	ことに努める。 習の確認方法:ミ	フト両面から総合的に ニテストで確認する。 随時実施する小テスト		自市や県の地域防災		
	画	握するる  自学自	ことに努める。 習の確認方法:ミ	ニテストで確認する。	説明するため、各  -の成績を20%とし	自市や県の地域防災	、60点以上を合	
	画	握するる 自学自習 定期試験	ことに努める。 習の確認方法:ミ 倹の成績を80%、	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災	、60点以上を合	
	画	握するる 自学自習 定期試験	ことに努める。 習の確認方法:ミ 検の成績を80%、 授業内容	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 大総合的に評価し 週ごとの到達目標	、60点以上を合	
	画	超 1週	ことに努める。	ニテストで確認する。	説明するため、各 ・の成績を20%とし	自市や県の地域防災 ア総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史	、60点以上を合 <sup>ん</sup> 対策	
		握する。 自学自 定期試題 週 1週 2週	ことに努める。 図の確認方法: 三 検の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 て総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と	、60点以上を合 対策 興事業1	
	画 3rdQ	握する。 自学自 定期試 週 1週 2週 3週 4週 5週	ことに努める。 図の確認方法:ミ 検の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波災害3 地震災害1	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害の歴史と	、60点以上を合 対策 興事業 1 興事業 2	
		握する。 自学自和 定期試験 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	ことに努める。 図の確認方法:ミ 検の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波災害3 地震災害1 地震災害1	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害の歴史と 地震災害と対策	、60点以上を合 対策 興事業 1 興事業 2 対策	
		握する 語言学 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	ことに努める。 図の確認方法:ミ 検の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波被害2 津波災害3 地震災害1 地震災害2 水害1	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 に一般会的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策	、60点以上を合 対策 興事業1 興事業2 対策 、都市型水害	
授業計		握する記 選り 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	ことに努める。 図の確認方法:ミ 读の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波災害3 地震災害3 地震災害1 地震災害2 水害1 火災	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 火災の歴史と対策	、60点以上を合 対策 興事業1 興事業2 対策 、都市型水害	
授業計		握する 自定期 調 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	ことに努める。 図の確認方法:ミ 検の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波災害3 地震災害3 地震災害1 地震災害2 水害1 火災 土砂災害	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 火災の歴史と対策 土砂崩れと対策	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害	
授業計		握する 自定期試調 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	ことに努める。 図の確認を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波災害3 地震災害1 地震災害1 地震災害3 地震災害1 地震災害3 地震災害3	ニテストで確認する。	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 大災の歴史と対策 大災の歴史と対策 土砂崩れと対策 市街地における各	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害	
授業計		握する 自定期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	ことに努める。 図の確認方法:ミ 検の成績を80%、 授業内容 総論 津波災害1 津波災害3 地震災害3 地震災害1 地震災害2 水害1 火災 土砂災害 現地調査 災害予防計画1	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災と復 東日本大震災と復 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 大災の歴史と対策 大災の歴史と対策 土砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、緊急輸	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害	
授業計		握する 自定期 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	ことに	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 大災の歴史と対策 大災の歴史と対策 土砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、緊急輸 住民組織、NPO	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網	格とする。
授業計	3rdQ	握する 自定期 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	ことに努める。 ミ 会の 成績を80%、	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト	説明するため、各	自市や県の地域防災ので総合的に評価した。 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 大きの歴史と対策 大きの歴史と対策 大砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、 SPO 各種警報、 初動態	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急対	格とする。
授業計	3rdQ	握す学員 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	ことに	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト	説明するため、各	自市や県の地域防災 に総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と 東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 大災の歴史と対策 大災の歴史と対策 土砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、緊急輸 住民組織、NPO	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急対	格とする。
授業計	3rdQ	握字学記 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	ことに努める。 ミ 会の 成績を80%、	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト	説明するため、各	自市や県の地域防災ので総合的に評価した。 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 大きの歴史と対策 大きの歴史と対策 大砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、 SPO 各種警報、 初動態	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急対	格とする。
授業計	3rdQ 4thQ	握する高麗 握す学自和 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	ことの確認を80%、 一型の成績を80%、 授業内容 総論 津波後害1 津波災害1 津波災害3 地震災災害1 地震災災害2 水害1 地震災災害3 地震災災害3 地震災災害3 地震災災害6 現地震災災害6 現地震災災害を1 火災 土地震災災害を1 火災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト	説明するため、各	自市や県の地域防災ので総合的に評価した。 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 大きの歴史と対策 大きの歴史と対策 大砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、 SPO 各種警報、 初動態	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急対	格とする。
授業計	3rdQ 4thQ	握り 握り 握り 関 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週	ことのの成績を80%、 一型のの成績を80%、 授業内容 総論 津波波災害1 津波災災害害3 地震害3 地震寒災災災調害1 地震事1 地震事3 地震事1 地震事3 地震事5 現地電子防計画1 災害事予緊急・復日 災害素緊急・復日 災総括	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト 対策1 対策2	説明するため、各	自市や県の地域防災ので総合的に評価した。 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 大きの歴史と対策 大きの歴史と対策 大砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、 SPO 各種警報、 初動態	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急ネ ・公益施設の復旧	格とする。 対策 日
授業計	3rdQ 4thQ	握する高麗 握す学自和 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	ことの確認を80%、 一型の成績を80%、 授業内容 総論 津波後害1 津波災害1 津波災害3 地震災災害1 地震災災害2 水害1 地震災災害3 地震災災害3 地震災災害3 地震災災害6 現地震災災害6 現地震災災害を1 火災 土地震災災害を1 火災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大災 大	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト 対策1 対策2	説明するため、各	自市や県の地域防災ので総合的に評価した。 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災とと復 東日本大震災とと復 地震災害と対策 水害の歴史と 地震災害と対策 水害の歴史と対策 大きの歴史と対策 大きの歴史と対策 大砂崩れと対策 市街地における各 通信体制、 SPO 各種警報、 初動態	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急ネ ・公益施設の復旧	格とする。
授業計	3rdQ 4thQ コアカレ	握す学品調 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 分野	ことの で紹介を とこのの成績を を認うの成績を を認うの成績を を認うの成績を を認うの成績を を認うの成績を を認うでといる。 には、一次では、 では、	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト 対策1 対策2  達目標  学習内容の到達目:	説明するため、各	自市や県の地域防災 に一次では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変	が 対策 興事業1 興事業2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急な・公益施設の復旧	格とする。 対策 日
授業計で対理が対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	3rdQ 4thQ コアカレ	握す学品報 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週 十ユ ラムの 分野 武験	ことのの成績を80%、 一型のの成績を80%、 一型のの成績を80%、 一型のの成績を80%、 一型の成績を80% 一型の成績を80% 一定のの成績を80% 一定のの成績を80% 一定のの成績を80% 一定のの成績を80% 一定ののの成績を80% 一定のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト 対策1 対策2   達目標   学習内容の到達目を	説明するため、各 の成績を20%とし 標 態度	自市や県の地域防ジスで総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災ととを 東日本大震災ととを 東日本大震災ととを 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 大災崩れと対策る 通信体制、 NPO 各種警報、 NPO 各種警報、 初動態 避難者対策、 大力オリオ	が (大会の) (大会on)	格とする。 対策 日 レベル 授業週
授業計で分評価割り	3rdQ 4thQ コアカリ	握自定期 は	ことのの成績を80%、 一型のの成績を80%、 授業論 津波波災災災害 津波波災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災災調予防計計・ ・役別調予防計・・役 ・役別調予防計・・役 ・役別調予防計・・役 ・役別調予防計・・役 ・役別調子を関係を ・役別である。・ミ	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト 対策1 対策2   達目標	説明するため、各 の成績を20%とし 標 態度 0	自市や県の地域防ジスで総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災ととと 東日本大震災とととを 東日本大震災をととを 地震災害と対策 水害の歴史と対策 大災崩れと対けるる輸 住民組織、NPO 各種警報、N動態 選難者対策、 の とフォリオ の	が 対策 興事業 1 興事業 2 対策 、都市型水害 種災害の危険性 送網 勢、救助・救急対 ・公益施設の復居 マースを使し ・公本をである。	格とする。  対策 日    ころ
注 授 後 期 デ類価 会礎門的能 が能	3rdQ 4thQ コアカリ 合	握す学品報 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週 十ユ ラムの 分野 武験	ことのの成績を80%、 一型のの成績を80%、 一型のの成績を80%、 一型のの成績を80%、 一型の成績を80% 一型の成績を80% 一定のの成績を80% 一定のの成績を80% 一定のの成績を80% 一定のの成績を80% 一定ののの成績を80% 一定のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	ニテストで確認する。 随時実施する小テスト 対策1 対策2   達目標   学習内容の到達目を	説明するため、各 の成績を20%とし 標 態度	自市や県の地域防ジスで総合的に評価し 週ごとの到達目標 災害の歴史 津波被害の歴史と東日本大震災ととを 東日本大震災ととを 東日本大震災ととを 地震災害と対策 水害の歴史と対策 水害の歴史と対策 大災崩れと対策る 通信体制、 NPO 各種警報、 NPO 各種警報、 初動態 避難者対策、 大力オリオ	が (大会の) (大会on)	格とする。 対策 日 レベル 授業週

		等専門学	交 開講年	度 平成29年度(	2017年度)	授業科目	都市経済学		
科目基礎	<b>礎情報</b>				T				
科目番号		0003			科目区分	専門/選			
授業形態		講義・			単位の種別と単	位数学修単位	: 2		
開設学科		ビジネ  コニュ	スコミュニケーシ ニケーション学ニ	/ョン学専攻(ビジネス Iース)	対象学年	専2			
開設期		後期			週時間数	2			
教科書/教				'木公明・文世一、有斐	閣アルマ,プリント	~資料他			
旦当教員		芥川 -	-則						
到達目	-								
		らその構造を	理解することによ	い現実の問題の分析能	力を身につける。				
ルーブ	リック		I		1		T		
				達レベルの目安 の大の大型の1	標準的な到達レ		未到達レベル		
評価項目	1		各授業項目の	の内容を理解し、応用	各授業項目の内  。	容を理解している	各授業項目の  い。	内容を理解していな	
評価項目	2								
評価項目									
学科の	到達目標	頭目との	 関係						
				票 (B) 学習・教育到達/	度目標 (C)				
教育方法									
概要		都市の	形成過程でみられ	ころ規模の経済、 集積の	D経済について取り	0上げる。輸送費量	最小化の観点から	う見た企業の立地点、	
			ゾ型都市モデルに	おける地代決定メカニ	ズム、そして都市	規模と都市システ	ムについて講義	する。	
受業の進	め方・方法								
主意点		自学自	習の確認方法−誤 :験の成績を80%.	題プリントを学生に配 課題を20%として総?	発布し、それを定期 今的に評価し、60	的に提出させる。 占以上を合格とす	る。		
授業計	面	AC7431124	BOOK OF THE PROPERTY OF THE PR	DREE CEOTOCO CHOIL		MOLECTIC 7	<u> </u>		
		週	授業内容			週ごとの到達目標	<u> </u>		
		1週	はじめに				-		
		2週				導入と授業の進め方 機会費用、比較優位			
		3週	都市はなぜ形成	戏されるのか(2)		規模の経済、集積	責の経済		
		4週	都市はどこに刑	<b>ジ成されるのか</b>		輸送費最小化			
	3.40	5週	都市内の土地市	場		地価と地代			
	3rdQ	6週	都市内土地利用 決定(1)	月と地代の		アロンゾ型都市も	≣デル		
		7週	都市内土地利用 決定(2)	月と地代の		家計の行動			
/√ <del>+</del> π		8週	都市内土地利用決定(3)	月と地代の		市場地代の決定			
後期		9週	都市内土地利用	月と地代の		  土地利用の効率性	<u> </u>		
		10週	一決定(4) 都市内土地利用	月と地代の		企業の立地行動			
		11週	決定(5) サブセンター <i>0</i>	NIX.ct:		都市の拡大とサン	ブわへん		
	4thQ	12週	土地利用の規制			ゾーニングの必要			
	1.5.1.9	13週	都市規模と都市	-		市場都市と中心地			
		14週	総合復習(1)	,,,,,,, <u>,</u>		専門用語の確認	2-±0110		
		15週	総合復習(2)			専門用語の確認			
		16週							
モデル			 の学習内容と3	到達日標		1			
<u>こファレ</u> 分類	<u> </u>	分野			 標		到這	・ 全レベル 授業週	
評価割	 合	1/2 23	1, 11, 11	. 13 C. 3C 923ÆC			121%		
ı іЩ <u>С</u> ) і		 試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	・ その他	合計	
総合評価		30 80	20	0	0	0	0	100	
		80	20	0	0	0	0	100	
圣伽山岭						+-	<u> </u>	1	
	カー	0	0	0	0	0	0	0	

福島	上業高等	 専門学校	開講年度	平成29年度 (		授業科	目特	別研究Ⅱ
科目基礎		131 33 121	10.0213 1.02	11		22010111		
科目番号		0004			科目区分	専門	/ 必修	
授業形態		実験・実習	9 1		単位の種別と単位	立数 学修	単位: 7	
開設学科			]ミュニケーション 「ーション学コース	ν学専攻(ビジネス ζ)	対象学年	専2		
開設期		通年			週時間数	3.5		
教科書/教	材							
担当教員		湯川 崇						
到達目標	票							
②継続的に ③実験デー ④研究成身 ⑤チーム「	こ研究計画を - 夕の整理・ 果を報告書や フークやリー	≧遂行するとる 分析等を行い P論文にまとめ	こもに,想定外の問 1.適切な解析およ	問題を解決する能力 よび考察する力を身 することを通じて,	łにつける。		ーション	ン能力を身につける。
ルーブリ	ノツク		理想的な到達レ	ベルの日安	標準的な到達レ/		1.	
			到達目標の内容		到達目標の内容を		-	へ到達レバリルの日女 到達目標の内容を実践で理解して
評価項目1	L		応用できる。	で关環で生涯し、	いる。			いない。
評価項目2	2							
評価項目3								
学科の至	引達目標項	目との関係	系					
学習・教育	育到達度目標	票 (D) 学習・	教育到達度目標 (E	) 学習・教育到達原	度目標 (F)			
教育方法	去等							
概要		解決能力,	)指導のもと, 専門 研究能力, デザイ 遂行する能力を育	<b>ſン能力,プレゼン</b>	て自ら設定した課 テーション能力,	題について, チームワーク	さらに消やリーク	深い専門能力の進展を図り, 課題 ダーシップを発揮する能力, 根気
注意点	か方・方法	②現決は問か行6①②合かの7①②涵を成8①②て識能たを 研内代策所題」う、テ内理ら組、テ内養涵や、テ内はが力し検 究容社を与とを。若一容的ず織阿一容す養、N一容、重をて討 テ会提と感明 林マ にあをが るすそ所で サ要高いす 一会提と感明 林マ 説えが ここれば ナタ高いす アンジャン	本 本 大 い に 大 に 大 に 大 に 大 に た に た に た に た に に た に た に に に に に に に に に に に に は に に は に に は に に は に は に は に に は に に は に に は に に は に に は に に は に に は に に は に に は に に に は に に に に は に に に に に に に に に に に に に	Restance of the property of	目すの大きない。 はいに出と 究びした をのまれたす で出と 究びした でいた かいる というという いいる というとい かいる というという いいる というという いいる というという いいる というという いいる という はいがりがい かいがった はい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい か	諸主い知仏 れあの 点, 広ツ 重問二にて 的間流。覚・ たる枠 か現範シ 要題ズおサーな題でそしボ 用。組 ら代なョ な(ムけー 取にあれてー 具まみ 、的領シ 経顧をるビ りつるにいジ でたと 会課域等 済客理マス 組の。対るン あ、、 計題をを 勢二解一企 一みい。対るン あ、、 計題をを 勢二解一企 一み	てししかグ る一組 をを射通 カーすケ業 をはかて」( と見織 取析程じ でズるテに 特の上にて あ、こく関 に ディジ きょしいか	る。将来の経営者・管理者にとっ モティベーション等)に関する知 とにより、将来の商機を捕らえる ングがどのように重要な役割を果 する理論的問題および実践的問題 望む。
授業計画	<u> </u>							
		t	受業内容			週ごとの到達	目標	
		1週						
		2週						
		3週						
	1stQ	4週						
		5週						
		6週						
前期		7週						
ן,אניהן ן		9週						
		10週						
		11週						
	2ndΩ							
2ndQ 12週 13週								

14週 15週

		16週						
		1週						
		2週						
		3週						
	210	4週						
	3rdQ	5週						
		6週						
	7週							
<b>₩</b> #¤		8週						
後期		9週						
		10週						
		11週						
	4+1-0	12週						
	4thQ	13週						
		14週						
		15週						
		16週						
モデルニ	]アカ!	ノキュラムの:	学習内容と到達	<b>鞋目標</b>				
分類		分野	学習内容	学習内容の到達	 目標		到道	達レベル 授業週
評価割合	<u> </u>	1.	,	1			1	1
h 1 IM H 2 F		取組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価害		50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力		50	30	20	0	0	0	100
専門的能力		0	0	0	0	0	0	0
分野横断的		0	0	0	0	0	0	0
		-	_ <u> </u>			1 -	1 -	

福島	引工業高	等専門学村	交 開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業	科目	グローバル	経営論
科目基础	<b>楚情報</b>								
科目番号		0005			科目区分	卓	厚門 / 必修	<u> </u>	
受業形態		講義・			単位の種別と単		学修単位:		
開設学科		ビジネ コニュ	スコミュニケーショ ニケーション学コー	ン学専攻(ビジネス ス)	対象学年	Ē	身2		
開設期		前期			週時間数	2	) =		
教科書/教	対材	配布資	料						
旦当教員		ニュムフー	ビン						
到達目	慓								
<ul><li>①グロー</li><li>②異文化</li></ul>	バルビジ マネジメ	ネスに関する ントに関する	基礎的研究について 基礎的事例研究につ	理解する。 いて理解する。					
ルーブリ	リック								
			理想的な到達し		標準的な到達し	/ベルの目録	<del></del> 安	未到達レベル	
評価項目1 各授業項目 できる。				P容を理解し、応用	各授業項目の内	宮を理解し	している	各授業項目の い。	内容を理解していな
平価項目									
評価項目	3								
学科の	到達目村	票項目との	関係						
学習・教	育到達度	目標 (E)							
教育方法	法等								
既要		グロー	バル化に対応し、国	籍や言語を越えて活	躍するために必要	要なマネジ.	メントの理	型論と具体的な 関論と	事例について学ぶ。
	め方・方								
注意点		教材が 中間発	英語なので、英単語 表・レポート:50%		予習をしておくこ ・ト:50%、60点	こと。 京以上を合格	各とする。		
授業計	画								
		週	授業内容			週ごとの	到達目標		
		1週	Introduction			Class st	ructure a	nd evaluation	1
		2週	Business enviror	nment		Internal	environr	nent	
		3週	Business enviror	nment		External	l environi	ment	
	1.0	4週	Organizational c	ulture		Hofsted	e's mode		
	1stQ	5週	Small and medic	um companies		Japan			
		6週	Small and media	um companies		Other A	sian cour	itries	
		7週	Small and media	um companies		Europe	and Ame	rica	
前期		8週	National culture			Hofsted	e's mode	<u> </u>	
נאלנינ		9週	National culture			Trompe	nnars' m	odel	
		10週	Multinational co	mpanies		Chinese	banks		
		11週	Multinational co	mpanies		Apple			
	2ndQ	12週	Multinational co	mpanies		Toyota			
	2.1.00	13週	Multinational co	mpanies		Nestle			
		14週	Review				nt conter		
		15週	Final			Tests ar	nd conclu	sion	
		16週							
	コアカ!		の学習内容と到達						1
)類		分野	学習内容	学習内容の到達目	票			到	達レベル 授業週
评価割る	合								
		中間発表・執	告 期末発表・報告	相互評価	態度	ポート	フォリオ	その他	合計
総合評価	割合	50	50	0	0	0		0	100
基礎的能	カ	50	50	0	0	0		0	100
専門的能	カ	0	0	0	0	0		0	0
	的能力	0	0	n	n	٥		0	0

分野横断的能力 0

従■	二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	————— 等専門学校		更 平成29年度(2	2017年度)	授業	科目	金業安全	工学総論	 
		אוננובא בא	מ <del>רד בו</del> ננות	<u> </u>	2017 中汉)	JXX	<u>гты                                    </u>	<del></del>	וונויטייוי נ בב.	U .
<u>17口坐り</u> 科目番号	上日刊	0006			科目区分	由	門 / 必修	:		
性白蛋与 授業形態		講義・流			単位の種別と単		<u>」/ 必修</u> 修単位: 2			
開設学科		ビジネス		 ∃ン学専攻(ビジネス -ス)		専2		<u>-</u>		
開設期		後期		, ,,	週時間数	2				
教科書/教	·····································	配布資料	<u>'</u>		1	•				
旦当教員		實川 資	朗,大槻 正伸,徐 豊	色濱,霜田 宜久,佐藤 正	知					
到達目標	票									
①現場での ②システィ	。 の作業に。 ム安全エ	よって引き起る 学(FTA, FM	こされる被害をイ EAなど)を理解し	メージできmリスクマ 、実践できる。	'ネジメントが行え	る。				
ルーブリ	ノック									
			理想的な到達	レベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安		未到達レ	ベルの目安	₹
評価項目1		各授業項目の できる。	内容を理解し、応用	各授業項目の内。	容を理解し	ている	各授業項 い。	目の内容を	理解していな	
评価項目2	2									
平価項目3	3									
学科の3	<u>到達</u> 目標	頭目との関	関係							
学習・教育	育到達度	目標 (B)							- <del></del>	
教育方法	_ <u></u> 去等									
既要	- · · · ·	現場にな	おける事故・災害の ントシステムを理解		時の対応策につい	て具体的に	事例を交	えて学習	する。また	:、労働安全マ
受業の進む	め方・方法	去								
エハロハル			: リスクマネジメ: Gの成績を70%	ントの実践	する事例について					
	<u> </u>	定期試験	: リスクマネジメ) 検の成績を70%、 授業内容	ントの実践 課題および小テスト <u>の</u>			平価し、(			
	<u> </u>	定期試験	検の成績を70%、 -	ントの実践		て総合的に言	評価し、( 別達目標	60点以上在		
	<u> </u>	定期試験   週   1週   2週	検の成績を70%、 授業内容	ントの実践		て総合的に記	評価し、( 別達目標	60点以上在		
	<u></u>	週 1週 2週 3週	使 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	ントの実践		て総合的に記述との至 自然災害と 災害統計 飛行機事故	平価し、( 削達目標 と産業安全	50点以上在	を合格とす	<u>వ</u> .
		週 1週 2週 3週 4週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③	ントの実践		で総合的に記述されて 週ごとの至 自然災害を 災害統計 飛行機事故 鉄道事故、	平価し、( 別達目標 と産業安全 女 輸送関道	60点以上を全 全 重事故とヒ		<u>వ</u> .
	到 3rdQ	選 1週 2週 3週 4週 5週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計①	ントの実践		週ごとの至 自然災害と 災害統計 飛行機事故 鉄道事故、 原子力とを	平価し、( 削達目標 上産業安全 女 輸送関減 安全(1)	50点以上を全 全 重事故とヒ	を合格とす	る。 <u> </u>
		選 1週 2週 3週 4週 5週 6週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計②	ントの実践		週ごとの至 自然災害と 災害統計 飛行機事故 原子力とを 原子力とを	平価し、( 削達目標 と産業安全 女 輸送関連 安全(1) 安全(2)	50点以上を 全 車事故とヒ 、原因分	を合格とす。 ニューマンコ h析(FTA,E	る。 <u>「ラー</u>
		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計②	ントの実践		選ごとの至 自然災害を 災害統計 飛行機事故、 原子力と要 原子力と要	平価し、( 別達目標 上産業安全 女 輸送関連 安全(1) 安全(2) 安全(2)	50点以上を 全 車事故とヒ 、原因分 人間工学	を合格とす。 ニューマンコ h析(FTA,E	る。 <u>「ラー</u>
受業計画		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	受定 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般	ントの実践		週ごとの至 自然災害を 災害統計 飛行機事故 原子力とを 信頼性、を リスクマイ	平価し、( 別達目標 上産業安全 女 輸送関連 安全(1) 安全(2) 安全(2)	50点以上を 全 車事故とヒ 、原因分 人間工学	を合格とす。 ニューマンコ h析(FTA,E	る。 <u> </u>
受業計画		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全設計③ 安全の実践① 安全設計④	ントの実践		週ごとの到 自然災害 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	平価し、( 別達目標 と産業安全 女 輸送関) 安全(1) 安全(2) 安全(2)	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1)	を合格とす。 ニューマンコ off(FTA,E	る。 Lラー ETなど)
受業計画		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全設計③ 安全の実践① 安全設計④ 安全の実践②	ントの実践		週ごとの至 自然災害と 災害統計 飛行機事故 原子力とを 信頼性クマを 製品と安全 法と安全	平価し、( 別達目標 と産業安全 な 輸送関議 を全(1) を全(2) を全(2) を全(2) を全(2)	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1)	を合格とす。 ニューマンコ か析(FTA,E た	る。 <u>「ラー</u>
受業計画		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全設計④ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践②	ントの実践		週ごとの至 自然災害 受害と 災害機事が 鉄道子カカと 原頼クラカ性クラ と 関ス品と と は と り と り り り り り り り り り り り り り り	平価し、( 別達目標 と産業安全 な 輸送関係 を全(1) を全(2) を全(2) を全(2) ででである。	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災	を合格とす。 ニューマンコ か析(FTA,E た 、原子炉の (香書)	る。 Lラー ETなど)
受業計画		度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全で実践① 安全の実践② 安全の実践② 安全の実践③	ントの実践		過ごとの至 自然災害と 災害を がいました。 原来行動を 原来子力性の 原東カカカ性の 関スの を はなります。 となります。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり。 となり	平価し、( 別達目標 と産業安全 な 輸送関語 を全(1) を全(2) を全(2) を全(2) をマジメン を全(墜落メン	全 車事故とヒ 人間) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1) 「大(1)」 「大(1) 「大(1)」 「大(1)] 「(1)] 「(1)	を合格とす。 (エューマンコン) (本) (FTA,E (本) (活) (活) (活) (活) (活) (活) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	る。 E. フー E. Tなど)
受業計画	3rdQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全設計④ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践② 安全の実践④ 安全の実践③	ントの実践		に総合的に記述という。 過ごとの至る 災害・機事がは、 原子・発生のでする。 原子・発生のでする。 は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	平価し、( 別達目標 定産業安全 対験送(1) 定全(2) 定全(2) でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災 トと技術者	を合格とす。  **  **  **  *  *  *  *  *  *  *  *  *	る。 ビラー ETなど)
受業計画	3rdQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践② 安全の実践③ 安全の実践③ 安全の実践③	ントの実践		に総合的に記述されている。 週ごとの登り 災に、の登り 災に、できる。 がいまれている。 原に、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	平価し、( 別達目標 定産業安全 対験送(1) 定全(2) 定全(2) でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災 トと技術者	を合格とす。  **  **  **  *  *  *  *  *  *  *  *  *	る。 E. フー E. Tなど)
受業計画	3rdQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計② 安全設計④ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践② 安全の実践④ 安全の実践③	ントの実践		に総合的に記述という。 過ごとの至る 災害・機事がは、 原子・発生のでする。 原子・発生のでする。 は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	平価し、( 別達目標 定産業安全 対験送(1) 定全(2) 定全(2) でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災 トと技術者	を合格とす。  **  **  **  *  *  *  *  *  *  *  *  *	る。 E. フー E. Tなど)
受業計画	3rdQ 4thQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計③ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践③ 安全の実践③ 安全の実践⑤ 安全の実践⑤ 安全の実践⑥ 終括	ントの実践 課題および小テストの		に総合的に記述されている。 週ごとの登り 災に、の登り 災に、できる。 がいまれている。 原に、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	平価し、( 別達目標 定産業安全 対験送(1) 定全(2) 定全(2) でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災 トと技術者	を合格とす。  **  **  **  *  *  *  *  *  *  *  *  *	る。 E. フー E. Tなど)
受 <b>業</b> 計画 参期	3rdQ 4thQ	定期試験   1週   1週   13週   14週   15週   16週   15週   16週   15週   16週   15週   16週   15週   16週   15週   16週   16』	乗の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計④ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践④ 安全の実践⑤ 安全の実践⑥ 総括	ントの実践 課題および小テストの	の成績を30%とし	に総合的に記述されている。 週ごとの登り 災に、の登り 災に、できる。 がいまれている。 原に、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	平価し、( 別達目標 定産業安全 対験送(1) 定全(2) 定全(2) でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災 トと技術者	を合格とす。 (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語)	る。 E ラー ETなど) D 安全規制))
受業計画	3rdQ 4thQ	度期試 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計③ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践③ 安全の実践③ 安全の実践⑤ 安全の実践⑤ 安全の実践⑥ 終括	ントの実践 課題および小テストの	の成績を30%とし	に総合的に記述される。 週ごとの登り 災に、の登り 災に、できる。 がいまれて、できる。 原に、できる。 は、できる。 と、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 は、できる。 と、。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	平価し、( 別達目標 定産業安全 対験送(1) 定全(2) 定全(2) でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	全 車事故とヒ 、原因分 人間工学 ト(1) 業ロボット な、電気災 トと技術者	を合格とす。 (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語) (本語)	る。 ビラー ETなど)
受業計画	3rdQ 4thQ	定期試験   1週   1週   13週   11週   12週   13週   14週   15週   16週   16週   17世   分野   17世   17{	使の成績を70%、 授業内容 概論 事例研究① 事例研究② 事例研究③ 安全設計① 安全設計② 安全設計③ 安全の実践① 安全の実践② 安全の実践③ 安全の実践⑤ 安全の実践⑥ 常務	ントの実践 課題および小テストの 学習内容の到達目	一次 できる	では、 の発き、 のである。 のでる。 のである。 のでる。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のでる。 のである。 のでる。 のでる。 のでる。 ので。 ので。 ので。 のでる。 ので。 ので。 のでる。 のでる。 のでる。 のでる。 ので。 のでる。 ので。 のでる。 のでる。 ので。 のでる。 のでる。 のでる。 のでる。 のでる。 のでる。 のでる。 ので。 のでる。 のでる。 のでる。 のでる。 ので。 のでる。 のでる。 のでる。 ので。 ので。 ので。 のでる。 のでる。 ので。 ので。 のでる。 ので。 ので。 ので。 のでる。 のでる。 ので。 ので	平価し、( 別達目標 全 を全(2) を全(2) を全(2) をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をいる。 できる。 、 できる。 できる	全 車事故とヒ 人間工学 ト(1) 業ロボット 放、と技術者 Y, OHSA	を合格とす。 (エューマンコン) が新(FTA,E を書) (新倫理(1) が倫理(2) (S18001)	る。 Lラー ETなど) D安全規制))
受業計画を対しています。	3rdQ 4thQ	定期試験	使い	ントの実践 課題および小テストの 対応を持ていた。 対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、	が 標 態度	に記述している。 過ご災には、 過ご災に、 一、 一、 一、 でできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	平価し、( 別達目標 全 を全(2) を全(2) を全(2) をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をいる。 できる。 、 できる。 できる	全 車事故とヒ 人間エラト(1) 業ロボットな、電技術者トと技術者 Y, OHSA	を合格とす。  *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	る。 Lラー ETなど) D安全規制))
受業計画を対しています。	3rdQ 4thQ	定期試験   1   1   1   1   1   1   1   1   1	使の成績を70%、     授業内容     概論     事例研究①     事例研究②     事例研究③     安全設計②     安全設計②     安全の実践①     安全の実践②     安全の実践③     安全の実践⑤     安全の実践⑥     お話      か    で    で	ントの実践 課題および小テストの 学習内容の到達目: 相互評価 0	標 態度 0	が 過ごが 過ごが の発き が原に が原に がの発き が原に が原に がの発き が原に がの発き が原に がのできる。 がのできる がのできる。 ・ のできる。 ・ ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 ・ のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 ・ のできる。 のでを、 のできる。 ・ のできる。 ・ のできる。 のできる。 のでを、 ・ のできる。 のできる。 ・ のできる。 のできる。 のできる。 ・ のできる。 ・ のでを。 ・ のでできる。 ・ のででを、 ・ のででを、 のででをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをで	平価し、( 別達目標 全 を全(2) を全(2) を全(2) をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をいる。 できる。 、 できる。 できる	全 車事故とヒ 人間) 大(1) 業のででででである。 大(1) 大(1) 大(1) 大(1) 大(1) 大(1) 大(1) 大(1)	を合格とす。	る。 Lラー ETなど) D安全規制))
注意点授業計画を対する。	3rdQ 4thQ	定期試験	使い	ントの実践 課題および小テストの 対応を持ていた。 対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、対応では、	が 標 態度	に記述している。 過ご災には、 過ご災に、 一、 一、 一、 でできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	平価し、( 別達目標 全 を全(2) を全(2) を全(2) をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をいる。 できる。 、 できる。 できる	全 車事故とヒ 人間エラト(1) 業ロボットな、電技術者トと技術者 Y, OHSA	を合格とす。	る。 Lラー ETなど) D安全規制)) が 授業週 計 00 00

右阜	2 十 类 古	 等専門学	   六	開講年度	平成29年度 (2	2017年度1	授業科	ιн Ι	数理意思決;	 字 <u>   </u>
		寺等门子	义		平成29年度 (2	2017年段)	技業科	H	<u> </u>	上調
科目基础	定情報	10007				TARE ()	T±	, \331r		
科目番号		0007	<u>'</u>			科目区分		/ 選択		
授業形態		講義・			*****************	単位の種別と単	位数 字修	単位:	2	
開設学科		コニニ	(人」 (二ケ	ミュニケーション ーション学コース	·学専攻(ビジネス ()	対象学年	専2			
開設期		前期				週時間数	2			
教科書/教	材	教科書	まは指	定しない。						
担当教員		杉山:	武史							
到達目										
①戦略形 ②戦略形	ゲーム、 ゲーム、	展開形ゲー <i>』</i> 展開形ゲー <i>』</i>	ュの概 ュのナ	念を理解し、現ま ツシュ均衡を求め	ミの問題へ応用出来 うることが出来る。	る。				
ルーブ!	リック									
				理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安		未到達レベル	の目安
評価項目	1				容を理解し、応用	各授業項目の内		いる	各授業項目の	)内容を理解していな
				できる。		0			<i>د</i> ۱.	
評価項目:										
評価項目:			BP /~							
		頭目との								
		目標 (B) 学	当・教	育到達度目標 (C	)					
教育方法	去等	Ι.								
概要			理論	の基礎を学び、ヒ	ジネスの諸問題へ	の応用を目指す。				
授業の進	め方・方									
注意点		問題を	を目力 は験70	で解き、概念の均 %. 課題30%と	解に努めること。 して総合的に評価し	60占以上を合	格とする。			
	<b>———</b>	7.274345	10000	70 BARES 70 C	<u>о спошентерние</u>	<u> </u>	110700			
	<u> </u>	週	捋	 業内容			週ごとの到達	幸日樗		
		1週		<del>楽门</del> 略形ゲーム(1)			戦略型ゲーム			
		2週		<u>- ロルクーム(1)</u> 略形ゲーム(2)			支配戦略、			
		3週		略形ゲーム(3)			囚人のジレン		1 300	
		4週		略形ゲーム(4)					 略型ゲーム)	
	1stQ	5週	完	全情報展開形ゲ-	-ム(1)		展開型ゲーム			
		6週		全情報展開形ゲ-			展開型ゲーム	ムの解	 法	
		7週	完	全情報展開形ゲ-	-ム(3)		展開型ゲーム	ムの応	 用	
<del></del>		8週	戦	略型ゲームの応用	月(1)		弱支配戦略(	(1)		
前期		9週	戦	略型ゲームの応用	月(2)		弱支配戦略(	(2)		
		10週	混	合戦略(1)			混合戦略の	基礎		
		11週	混	合戦略(2)			混合戦略と	ナッシ	ユ均衡	
	2ndQ	12週	ゼ	口和ゲーム			ミニマックス	ス定理		
	ZiiuQ	13週	不	完全情報展開形な	デーム(1)		不完全情報			
		14週		完全情報展開形な	デーム(2)		不完全情報	展開型	ゲームとナッシ	シュ均衡
		15週	総	合演習			期末試験解答	答用紙	の返却・解説、	総合復習
		16週								
	コアカリ			習内容と到達					1	
分類		分里	ř	学習内容	学習内容の到達目	票			到	達レベル 授業週
評価割る	<u> </u>					<del>-</del>				
		試験		課題	相互評価	態度	ポートフォ	リオ	その他	合計
総合評価	割合	70		30	0	0	0		0	100
基礎的能	カ	70		30	0	0	0		0	100
専門的能:		0		0	0	0	0		0	0
分野構紙	4546	Λ		n	ln	ln	n		ln	ln

分野横断的能力 0

		空亩	四学校	開講年度	平成29年度 (2	0017年度)	授業科目	 経済産業		
		i <del>d 41</del>			十八八乙3十尺(2	2017年/支)	1又未行口	性/月/生未	₹ <b>0111</b>	
科目基			0000			NDEA	<b>幸服 / 22</b>			
科目番号			0008	<u> </u>		科目区分	専門/選			
授業形態	{		講義・演習		******	単位の種別と単	位数 学修単位:	2		
開設学科	ŀ		ビジネス コニュニク	Jミユニケーション 「ーション学コース	ン学専攻(ビジネス ス)	対象学年	専2			
開設期			前期			週時間数	2			
教科書/孝	<b>教材</b>		産業組織論	ì、新庄浩二、有基	<b>髪閣ブックス,プリン</b>	·卜資料他				
担当教員	į		芥川 一則							
到達目	標									
経済動向	]における	企業の	行動を過去	の事例および論理	里的な行動について	 学習することを通	して現実の問題の	 分析能力を	<del></del> :身につける。	
ルーブ	リック									
				理想的な到達レ	 ベルの目安	標準的な到達レ	 ベルの目安	未到達し	·ベルの目安	
/T.T.E.C.	14				<u>- * * * * * * * * * * * * * * * * * * *</u>		<u>- アンロス</u> 容を理解している		目の内容を理例	軽していた
泮伽垻日			できる。		0		い。			
評価項目	12									
平価項目	13									
学科の	到達目	票項目	との関係	系						
学習・教	育到達度	目標 (	A) 学習・	教育到達度目標 (E	3) 学習・教育到達度	を目標 (C)				
教育方法	 法等									
概要			企業を取り	)巻く経済状況は、	日々変化している。	。企業の行動と経	済の動向を分けて	分析すると	企業への外部	要因が見え
受業の進	 め方・方		にくくなる	)。てこで経済動作	引にのりる正素活動	にプいて神我りる	0			
注意点			自学自習の	確認方法-課題フ	プリントを学生に配え 題を20%として総合	布し、それを定期	的に提出させる。			
			正期試験()	)放領を80%、課題	<u> </u>	的に評価し、60	点以上を合格とする	<b>5</b> 。		
授業計	<u> </u>		1.				T			
		追		受業内容			週ごとの到達目標			
		1)		まじめに 			導入と授業の進め			
		<u>2</u> ;		上業の理論			企業の本質、組織			
		3)		竞争と独占			完全競争モデル、		/	
	1stQ	4)		<u> </u>			独占と完全競争の			
		<u>5</u>		本の産業構造			市場支配と市場集	中度		
		6)		製品差別化			差別化の方法	-/=1		
	1	7)		多入と戦略的行動 4-88/2-54			参入障壁と戦略的	けて動		
前期	-	83		始調行動 			寡占的価格行動    和開東は恣源取り	******		
	1	9)		方場成果 そのルーの供			利潤率と資源配分			
				多角化・合併 『空間器 トイノぶ	55.		多角化と日本の産			
		_		研究開発とイノベー			技術革新と研究開		5	
	2ndQ			産業集積と中小企業 カト林よみ等	耒		日本の産業集積の		3	
				出占禁止政策 5.按据制政策			独占禁止政策の歴		П	
				直接規制政策 公今復羽			公的規制の定義と	- 死刑の後数	<u></u>	
				総合復習			寺门川市の作談			
	<u> </u>		5週				1			
	<u> コアカ'</u>	ノナユ		学習内容と到達					7011年1 - 8-11	1四十二
分類	^		分野	学習内容	学習内容の到達目	崇			到達レベル	<u> </u>
評価割	台			T	T	T	1		ı	
		試験		課題	相互評価	態度	ポートフォリオ		合計	
総合評価		80		20	0	0	0	0	100	
<b>基礎的能力</b> 80 20 0		0	0	0	0	100				
基礎的能 専門的能 分野横断		0		0	0	0	0	0	0	

		等專門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	減災工学	
科目基础	<b>楚情報</b>							
科目番号		0009			科目区分	専門 / រ	選択	
授業形態		講義・演習			単位の種別と単	位数 学修単位	ቷ: 2	
開設学科		ビジネスコ	]ミュニケーション ケーション学コース	ン学専攻(ビジネス ス)	対象学年	専2		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教	树	配布資料						
担当教員		金澤 伸一						
到達目	票							
			崩れといった災害( 後を説明できる。	こ対するハード面の	対策を説明できる	0		
ルーブ!	リック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベ	ルの目安
評価項目	1			容を理解し、応用	各授業項目の内	容を理解している		の内容を理解していた
できず価項目2			できる。		0		ر۱ <sub>°</sub>	
					+			
平価項目		西口 しる四/						
		項目との関係	<b></b>					
	育到達度目	標 (B)						
教育方法	去等				<u></u>			
既要		地震、津波	皮、水害、火災、5	上砂崩れといった災	害に対し、ハード	・ソフト合わせ	た総合的な減災対	対策について学習する
受業の谁ん	 め方・方法	•						
土息点		握すること	′に努める。					
注意点 	画	握すること 定期試験の	′に努める。	ト画面から総合的に			「し、60点以上を	み、減災の全体像を抵
	画	握すること 定期試験の 週 担	⊆に努める。 D成績を70%、随			して総合的に評価	「し、60点以上を	
	画	握すること 定期試験の 週 <u>打</u> 1週 糸	(に努める。) () 成績を70%、随 () 成績を70%、随 () 受業内容			って総合的に評価 週ごとの到達目	iし、60点以上を 標	
	<b>山</b>	握すること 定期試験の 週 担 1週 系 2週 済	< に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論			して総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史	io、60点以上を標 標 と対策1	
		握すること 定期試験の 週 担 1週 終 2週 済 3週 済	<ul><li>に努める。</li><li>D成績を70%、随</li><li>受業内容</li><li>総論</li><li>書波災害1</li></ul>			して総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史	版し、60点以上を 標 と対策 1 と対策 2	
	画 1stQ	握すること 定期試験の 週 担 1週 系 2週 済 3週 済 4週 類	<ul><li>に努める。</li><li>D成績を70%、随</li><li>受業内容</li><li>総論</li><li>津波災害 1</li><li>津波災害 2</li></ul>			して総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史	信し、60点以上を 標 と対策 1 と対策 2 と対策	
		握すること 定期試験の 週 1週 2週 済 3週 済 4週 5週 5	<ul><li>に努める。</li><li>D成績を70%、随</li><li>受業内容</li><li>総論</li><li>津波災害 1</li><li>津波災害 2</li><li>也震災害 2</li><li>也震災害 3</li></ul>			週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害と対策 地震災害におけ	標 歴史対策 1 と対策 2 と対策 と対策 こと対策	
		握すること 定期試験の 1週 2週 3週 第 4週 5週 6週 5	<ul><li>に努める。</li><li>D成績を70%、随</li><li>受業内容</li><li>総論</li><li>津波災害 1</li><li>津波災害 2</li><li>也震災害 1</li><li>也震災害 2</li><li>也震災害 3</li><li>也震災害のまとめ</li></ul>			週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害の歴史 地震災害におけ 震災と復興事業	標 と対策 1 と対策 2 と対策 さ さ さ さ さ さ さ き き き き き き き き き き き き	
受業計		握すること 定期試験の 週 1週 2週 3週 海 4週 5週 6週 サ 7週 期	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 1 也震災害 2 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災	時実施する小テスト		週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害と対策 地震災害におけ 震災と復興事業 火災の歴史と対	標と対策1 と対策2 と対策2 と対策 さる都市型災害	
受業計		握すること 定期試験の 週 1 1週 2週 3 3週 4 4週 5 5週 5 6週 5 7週 8 8週 9週 5	(に努める。) D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 1 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災	時実施する小テスト		近に総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害と対策 地震災害におけ 震災と復興事業 火災の歴史と対 液状化とその対	にし、60点以上を 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策	
受業計		握すること 定期試験の 3週 4 3週 3 4週 5 6週 5 7週 8 8週 9 9週 1	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 2 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害	時実施する小テスト ま1 ま2		週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害と対策 地震災害におけ 震災と復興事業 火災の歴史と対 液状化とその対	にし、60点以上を 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策	
受業計		握すること 定期試験の 3週 4週 3 3週 4週 5 6週 5 7週 第 8週 2 9週 1 10週 5 11週 2	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 1 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害	時実施する小テスト 書1 書2 書3		近に総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害と対策 地震災害におけ 震災と復興事業 火災の歴史と対 液状化とその対 液状化とその対 土砂災害	にし、60点以上を標と対策1 と対策2 と対策 と対策 こと対策 にあ都市型災害 に 策 策 1	
受業計		握すること 定期試験の 1週 2週 3週 3 4週 5 6週 5 8週 9 9週 1 10週 第 11週 第 12週 第	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害	時実施する小テスト 書1 書2 書3		週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害と対策 地震災害と対策 地震災害におけ 震災と復興事業 火災の歴史と対 液状化とその対 液状化とその対 土砂災害 土構造物の被害	標 と対策 1 と対策 2 と対策 る都市型災害 策 策 第 1	
受業計	1stQ	握すること 定期試験の 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 3 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 地盤にまつわる災害	時実施する小テスト 書1 書2 書4 書5		近に、 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害と対策 地震災害と対策 地震災害に興事業 火災の歴史と対 液状化とその対 、な状化とその対 大砂災害 土構造物の被害	標 と対策 1 と対策 2 と対策 る都市型災害 策 策 第 1	
受業計	1stQ	握すること 定期試験の 3週 対 3週 海 4週 5週 6週 カ 7週 8週 9週 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ 11週 カ	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災 也盤にまつわる災 也盤にまつわる災 也盤にまつわる災 也盤にまつわる災 也盤にまつわる災 也盤にまつわる災	時実施する小テスト 書1 書2 書4 書5		の一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	にし、60点以上を標 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 1 策 2 とその対策1 とその対策1	
	1stQ	握すること     定期試験の     1週   1	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 3 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 地盤にまつわる災害	時実施する小テスト 書1 書2 書4 書5		近に、 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害と対策 地震災害と対策 地震災害に興事業 火災の歴史と対 液状化とその対 、な状化とその対 大砂災害 土構造物の被害	にし、60点以上を標 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 1 策 2 とその対策1 とその対策1	
受業計画	1stQ 2ndQ	握すること   	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害	書1         書2         書3         書4         書5         書6		の一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	にし、60点以上を標 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 1 策 2 とその対策1 とその対策1	
受業計画	1stQ 2ndQ	握すること 定期試験の 別 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 13週 14週 15週 6月 10月 11月 11月 11月 11月 11月 11月 11月 11月 11	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 1 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也としまつわる災害 しきにまつた。	書1       書2       書3       書4       書5       書6	・の成績を30%と	の一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	にし、60点以上を標 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 第1 策2 とその対策1 とその対策2	で合格とする。
受業計画	1stQ 2ndQ	握すること   	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害 1 津波災害 2 也震災害 3 也震災害 3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害	書1         書2         書3         書4         書5         書6	・の成績を30%と	の一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	にし、60点以上を標 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 第1 策2 とその対策1 とその対策2	
受業計画 が期 Eデルコ ft 対類	1stQ 2ndQ コアカリ:	握することの   	(に努める。) Di	書1 書2 書3 書4 書5 書6	· の成績を30%と	の一般のでは、 の一般では、 の一般では、 の一般では、 では、 の一般では、 では、 の一般では、 では、 では、 の一般では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	にし、60点以上を 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策1 策2 とその対策1 とその対策2	で合格とする。 関達レベル 授業週
受業計で カラック アイス	1stQ 2ndQ	握することの   1	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害1 津波災害2 也震災害3 也震災害3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害	書1 書2 書3 書4 書5 書6 世目標   学習内容の到達目標	で で で で が で で で で で で で で で で で で で	プマ総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害におり と復歴史との対 液状化とその対 液状化とその対 土構造物の被害 土構造物の被害 地盤環境問題 全体のまとめ、	にし、60点以上を 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 策1 策2 とその対策1 とその対策2	で合格とする。 別達レベル 授業週
受業計で	1stQ 2ndQ コアカリコションションションションションションションションションションションションションシ	握することの	(に努める。) Di (	<ul> <li>書1</li> <li>書2</li> <li>書3</li> <li>書4</li> <li>書5</li> <li>書6</li> </ul> 世目標 <ul> <li>学習内容の到達目標</li> <li>相互評価</li> <ul> <li>0</li> </ul></ul>	で で で で で で で で で で で で で で	週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害とが悪災害とが 震災を歴史との対 液状化とその対 液状化とその対 土構造物の被害 土構造物の被害 土構造物の被害 土株登場にある。	標 と対策1 と対策2 と対策2 と対策 る都市型災害 策 策1 法2 をその対策1 とその対策2 を案の確認	で合格とする。   過達レベル   授業週   合計   100
受業計で カラック アイス	1stQ 2ndQ コアカリコ 合 試 割合 70 カ 70	握することの	に努める。 D成績を70%、随 受業内容 総論 津波災害1 津波災害2 也震災害3 也震災害3 也震災害のまとめ 火災 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 也盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害 世盤にまつわる災害	書1 書2 書3 書4 書5 書6 世目標   学習内容の到達目標	で で で で が で で で で で で で で で で で で で	プマ総合的に評価 週ごとの到達目 災害の歴史 津波被害の歴史 津波被害の歴史 地震災害の歴史 地震災害におり と復歴史との対 液状化とその対 液状化とその対 土構造物の被害 土構造物の被害 地盤環境問題 全体のまとめ、	にし、60点以上を 標 と対策1 と対策2 と対策 る都市型災害 策 策1 策2 とその対策1 とその対策2	で合格とする。 別達レベル 授業週

福島	工業高	等専門学校	交 開講年	度 平成29年度 (2	2017年度)	授	業科目	経営分析論	
科目基础	楚情報								
科目番号		0010			科目区分		専門 / 選択	3	
受業形態		講義・			単位の種別と	単位数	学修単位:	2	
開設学科		ビジネコニュ	スコミュニケーシ ニケーション学コ	ョン学専攻(ビジネス ース)	対象学年		専2		
開設期		後期			週時間数		2		
教科書/教	材	森田松	太郎『経営分析入	門』日本経済新聞出版	社。※最新版を	使用する。	)		
旦当教員		安部 智	間博						
到達目標	票								
学んだ手	法や指標を	上,実際の企	業分析に役立てる	ことができる。					
レーブ!	Jック	•							
			理想的な到達	 達レベルの目安	標準的な到達し	ノベルのE	======================================	未到達レベル	
:/:::= C				<u>- アー・アース</u> D内容を理解し、応用	各授業項目の				<u>シロス</u> 内容を理解していた
評価項目1 評価項目2		できる。	J. 30 C 131 C V 76713	0	7 <u>u</u> e <u>1</u> 7.		().	11111111111111111111	
平価項目:									
		iiii 다 나 소	 BB <i>lT</i> J		1				
		項目との		F (D)					
		3標 (C) 字習	習・教育到達度目標	₹ (D)					
教育方法	去等	1.			_				
既要		前半は 表分析	, 教科書を輪読し を行う。	, 経営分析の手法や指	標について議論	を行う。行	後半は,実際	祭に企業のデー	夕を利用し,財務諸
受業の進	め方・方法	5							
			1-1111-1	+ " B + -					
主意点		毎四,	授業用のレジュメ 10%	を作成してもらいます	。 以上を今枚レオ:	z			
	<del>5</del> 1	毎回,  試験60	授業用のレジュメ )%, 課題40%で約	を作成してもらいます 総合的に評価し,60点」	。 以上を合格とする	<b>3</b>			
	 <u>5</u>	試験60	)%, 課題40%で約	を作成してもらいます 総合的に評価し,60点」	。 以上を合格とする		の到達日標		
	<b>1</b>	試験60	0%, 課題40%で約 授業内容	総合的に評価し, 60点」	。 以上を合格とする	週ごと	の到達目標		
	<b>国</b>	試験60     週   1週	0%, 課題40%で約 授業内容 イントロダクシ	総合的に評価し, 60点」 ・ ・ ・ ョン	。 以上を合格とする	週ごと会社分	析の目的	車比変分析 コ	ニセッシュフロー分割
	<b></b>	週 1週 2週	<ul><li>70%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法</li></ul>	総合的に評価し, 60点」 ・ ・ ・ ョン	。以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比	析の目的 較分析,関i		-ヤッシュフロー分れ
	<u></u>	週 1週 2週 3週	<ul><li>70%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析</li></ul>	総合的に評価し, 60点」 ・ ・ ・ ョン	。以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 流動比	析の目的 較分析,関i 率,自己資	本比率	
	到 3rdQ	週 1週 2週 3週 4週	<ul><li>70%, 課題40%で終 授業内容</li><li>イントロダクシ</li><li>財務分析の手法 安全性分析</li><li>収益性分析</li></ul>	総合的に評価し, 60点」 vョン	。以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 流動比 自己資	析の目的 較分析,関) 率,自己資 本当期利益	本比率 率,売上営業利益	益率
		週 1週 2週 3週 4週 5週	<ul><li>70%, 課題40%で終 授業内容</li><li>イントロダクシ</li><li>財務分析の手法 安全性分析</li><li>収益性分析</li><li>会社の活性度の</li></ul>	総合的に評価し, 60点」 ション を の分析	。 以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 流動比 自己資 総資本	析の目的 較分析,関流 率,自己資本 本当期利益を 回転率,売	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率,	
		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	<ul><li>79%、課題40%で終 授業内容</li><li>イントロダクシ</li><li>財務分析の手法</li><li>安全性分析</li><li>収益性分析</li><li>会社の活性度の会社の発展性の</li></ul>	総合的に評価し, 60点」 イヨン を の分析 の分析	。 以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 流動比 自己資 総資本 成長性	析の目的 較分析,関達 率,自己資本 本当期利益。 回転率,売 ,投資効率,	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, 社会貢献度	益率 棚卸資産回転率他
受業計画		周 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	70%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ	総合的に評価し,60点」 マヨン 表 の分析 の分析 1一分析	。 以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 流動比 自己資 総資本 成長性 営業キ	析の目的 較分析,関) 率,自己資 本当期利益 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, , 社会貢献度 コー, 投資キャ	益率
受業計画		週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	79%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社の人的要医	総合的に評価し,60点」 ション を か分析 か分析 1一分析 1の分析	。以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 流動比 自己資 総資本 成長性 営業キ 年齢,	析の目的 較分析,関) 率,自己資 本当期利益 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ 一人当たり	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率 棚卸資産回転率他
受業計画		試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週	<ul><li>79%、課題40%で終める。</li><li>授業内容</li><li>イントロダクシ</li><li>財務分析の手法</li><li>安全性分析</li><li>収益性分析</li><li>会社の活性度の</li><li>会社の発展性の</li><li>キャッシュフロ</li><li>会社の人的要因</li><li>会社のトータル</li></ul>	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	。 以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 完動比 自己資本 成長性 営業十 年齢, 総合評	析の目的 較分析,関語 率,自己資本当期利益等 回転率,売 ,投資効率, セッシュフに 一人当たりを 価,見えなに	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, , 社会貢献度 コー, 投資キャ	益率棚卸資産回転率他
受業計画		試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週	<ul><li>79%、課題40%で終める。</li><li>授業内容</li><li>イントロダクシ</li><li>財務分析の手法</li><li>安全性分析</li><li>収益性分析</li><li>会社の活性度の</li><li>会社の発展性の</li><li>キャッシュフロ会社の人的要因会社のトータル</li><li>企業分析の準備</li></ul>	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	。 以上を合格とする	週ごと 会社分 実数比 論己 診長生 送業齢 会 総 会 が が が が が が が が が が が が が が が が が	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転率,売 ,投資効率, ヤッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の選択	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率 棚卸資産回転率他
受業計画	3rdQ	試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週	79%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社のトータル 企業分析の準備 企業分析(1)	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	。 以上を合格とする	週ごと 会数比 実数比 自 会長 一 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会	析の目的 較分析,関語 率,自己資本当期利益等 回転率,売 ,投資効率, セッシュフに 一人当たりを 価,見えなに	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率 棚卸資産回転率他
受業計画		試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週	79%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社の人的要因 会社のトータル 企業分析の準備 企業分析(1) 企業分析(2)	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	以上を合格とする	週ごと分 実動ごと 実動 ごう 実動 ごう 選手 総成 関係 という はい という はい	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転率,売 ,投資効率, ヤッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の選択	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率 棚卸資産回転率他
受業計画	3rdQ	試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週	79%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社の人的要因 会社のトータル 企業分析(1) 企業分析(2) 企業分析(3)	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	以上を合格とする	週ごと 会数比 実数比 自 会長 一 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転率,売 ,投資効率, ヤッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の選択	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率棚卸資産回転率他
受業計画	3rdQ	試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   13週   14週	79%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社の人的要因 会社のトータル 企業分析の準備 企業分析(1) 企業分析(2)	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	以上を合格とする	週会 実流自総成営年総分分分が析析が	析の目的 較分析,関道 率,自己資本 本当期利益率 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の検討	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率棚卸資産回転率他
受業計画	3rdQ	試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   9週   10週   11週   12週   13週	79%, 課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社の人的要因 会社のトータル 企業分析(1) 企業分析(2) 企業分析(3) 企業分析(4)	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 1一分析 1の分析 評価	以上を合格とする	週会 実流自総成営年総分分分が析析が	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転率,売 ,投資効率, ヤッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の選択	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率棚卸資産回転率他
受業計區	3rdQ 4thQ	試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   113週   12週   13週   15週   16週	79%,課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社のトータル 企業分析の準備 企業分析(1) 企業分析(3) 企業分析(4) 総括	総合的に評価し,60点」 マヨン こ の分析 の分析 コー分析 日の分析 評価  「評価 」	以上を合格とする	週会 実流自総成営年総分分分が析析が	析の目的 較分析,関道 率,自己資本 本当期利益率 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の検討	本比率 率,売上営業利益 上債権回転率, . 社会貢献度 コー,投資キャ 効率	益率 棚卸資産回転率他
受業計 <u>で</u> 数期	3rdQ 4thQ	試験60   週	79%,課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社のトータル 企業分析(1) 企業分析(2) 企業分析(3) 企業分析(4) 総括	総合的に評価し,60点」 /ョン (カークが )	以上を合格とする	週会 実流自総成営年総分分分が析析が	析の目的 較分析,関道 率,自己資本 本当期利益率 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の検討	本比率 率,売上営業利担 上債権回転率, 社会貢献度 コー,投資キャ 効率 い財産の価値	益率 棚卸資産回転率他 パッシュフロー他
受業計画	3rdQ 4thQ	試験60   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   10週   113週   12週   13週   15週   16週	79%,課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社のトータル 企業分析(1) 企業分析(2) 企業分析(3) 企業分析(4) 総括	総合的に評価し,60点」 /ョン (カークが )	以上を合格とする	週会 実流自総成営年総分分分が析析が	析の目的 較分析,関道 率,自己資本 本当期利益率 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の検討	本比率 率,売上営業利担 上債権回転率, 社会貢献度 コー,投資キャ 効率 い財産の価値	益率 棚卸資産回転率他
受業計画	3rdQ 4thQ	試験60   週	7 (課題40%で終 授業内容 イントロダクシ 財務分析の手法 安全性分析 収益性分析 会社の活性度の 会社の発展性の キャッシュフロ 会社のトータル 企業分析(1) 企業分析(2) 企業分析(3) 企業分析(3) 企業分析(4) 総括	総合的に評価し,60点」 クラケー・ション の分析 の分析 コー分析 コークが コークが コークが コークが コークが コークが 評価 は 学習内容の到達目 ・	標	過会実流自総成営年総分分分分別の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転資シュフロー 一人,見えない 象の検討 ・報告	本比率 率,売上営業利担 上債権回転率, ,社会貢献度 コー,投資キャ 効率 い財産の価値	棚卸資産回転率他 ツシュフロー他 授業週
受業計画を対する。	3rdQ 4thQ	試験60   週	課題40%で終   授業内容	総合的に評価し,60点」 (コン) (コン) (コン) (コーク)	標態度	過会実流自総成営年総分分分分まの分分分のでは、おります。	析の目的 較分析,関道 率,自己資本 本当期利益率 回転率,売 ,投資効率, セッシュフロ 一人当たり3 価,見えない 象の検討	本比率 率,売上営業利担 上債権回転率, 、社会貢献度 コー,投資キャ 効率 ル財産の価値	益率 棚卸資産回転率他 ツッシュフロー他 産レベル 授業週
受業計画を対する。	3rdQ 4thQ	試験60   週		総合的に評価し,60点」 (コン) (コン) (コン) (コーク) (カーク)	標態度の	週会実流自総成営年総分分分分分ま ポーの	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転資シュフロー 一人,見えない 象の検討 ・報告	本比率 率,売上営業利担 上債権回転率, 、社会貢献度 コー,投資キャ 効率 い財産の価値 到過 その他 0	益率 棚卸資産回転率他 パッシュフロー他 達レベル 授業週 合計 100
主意 (受	3rdQ 4thQ	試験60   週	課題40%で終   授業内容	総合的に評価し,60点」 (コン) (コン) (コン) (コーク)	標態度	過会実流自総成営年総分分分分まの分分分のでは、おります。	析の目的 較分析,関う 率,自己資本 本当期利益。 回転資シュフロー 一人,見えない 象の検討 ・報告	本比率 率,売上営業利担 上債権回転率, 、社会貢献度 コー,投資キャ 効率 ル財産の価値	益率 棚卸資産回転率他 ツシュフロー他 授業週 合計

分野横断的能力 0

福島	島工業高等	等專門学校	開講年度	平成29年度 (2	201/年度)	授業科目	インターンシップC
	礎情報				/		
4目番号		0011			科目区分	専門 / 選	·····································
受業形態	{	実験・実習			単位の種別と単位		
開設学科	1	ビジネスコミ	ミュニケーション -ション学コース	/学専攻(ビジネス ()	対象学年	専2	
開設期		集中			週時間数		
枚科書/教	数材						
旦当教員	Į	原田 正光,湯	川崇				
到達目村	標						
4)剧造性	, ナヤレン:	覚を養うことがで の要請を知り、間 より、確かな職美 ジ精神および変ん	できる。 引題意識を養うこ 美観を形成するこ とに対する柔軟性	ことができる。 ことができる。 生などを身につける	ことができる。		
<u>レーフ '</u>	リック	T			r		1
		1	理想的な到達レベルの目安 到達日標の内容を実践で理解し		標準的な到達レイ		未到達レベルの目安
评価項目	11				到達目標の内容を  いる。	と実践で理解して	到達目標の内容を実践で理解して いない。
平価項目:	 l2	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ייטיוו כביטי		1.00		v
平価項目:							
		 頁目との関係			1		1
		<u>摂口 C ジス ホ</u> 標 (D) 学習・教 <sup>*</sup>	音到達度日煙 /F	:)			
教育方法		<u> </u>	Ⅱ 짜디꼬쪼대	,			
既要	<u>и <del>1</del> </u>	る。		就業体験、大学等でで ぎ、確かな職業観、3 アンターンシップA、	の研究体験を通し 変化に対する柔軟! インターンシップ	て, 専門分野には 生を育成するとは プBの他に2週間	らける高度な知識・技術に触れること ともに、実習報告会を通じてプレゼン 間の実習及びまとめを行い2単位とす
受業の進	め方・方法	・報告書提出	)調整 R定 ::				
		・実習報告会					
主意点		社会人として 10日間)を	この基本的なマナ 目安とする。 0実習記録票, 実	•	·		を払うこと。実習期間は2周間(実働 .00%として総合的に評価し,60点以
	画	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
	画	社会人として 10日間)をE 実習先からの 上を合格とす	この基本的なマナ 目安とする。 0実習記録票, 実	•	翌報告会における§		.00%として総合的に評価し, 60点以
	画	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
	画	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 授 1週 2週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
	画	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 授勢 1週 2週 3週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
	画 lstQ	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 授調 1週 2週 3週 4週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 授業 1週 2週 3週 4週 5週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 短 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とする 週 授業 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計區	1stQ	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とする 週 授 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計		社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とする 週 授 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とす 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計區	1stQ	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を合格とする 週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ	社会人として 10日間)をほ 実習先からの上を合格とする 週 授 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ	社会人として 10日間)をほ 実習先からの上を 10日間)をほ 実習先からの 上を 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ	社会人として 10日間)をほ 実習先からの上を合格とす 週 授 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 15週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 11週 12週 13週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ 2ndQ	社会人として 10日間)を 実習先からの 上を 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 15週 16週 13週 14週 15週 13週 14週 13週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ	社会人として 10日間)を 実施を合格とする 週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計	1stQ 2ndQ	社会人として 10日間)を 10日間)を 10日間)を 10日間)を 10日間 20日間 30日間 40日間 30日間 40日間 10日間 11日間 12日間 13日間 14日間 15日間 16日間 16日間 16日間 16日間 16日間 16日間 16日間 16	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計[	1stQ 2ndQ	社会日間)を目実存合格とする。 週 授業 1週 投票 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 1月週 15週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計[	1stQ 2ndQ	社会人として 10日間)を 実際合格とする 週 授業 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 13週 14週 15週 16週 15週 6週 70週	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計[	1stQ 2ndQ	社会人として 10日間)を 10日間)を 10日間)を 10日間)を 10日間 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16週 16	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計画	1stQ 2ndQ	社会日間)を 10日間)を 10日間)を 10日間)を 10日間 10日間 10日間 10日間 10日間 10日間 11日 11日	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計画	1stQ 2ndQ	社会日間)を10日間)を10日間からの10日間からの20日間では、10	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
主意点 受業計 期	1stQ 2ndQ	社会日間)を日またらの 10日間)を日またらの 10日間のとうの 10日間のとうの 10月間の 10月間の 10月間の 10月間の 11月間の 11月間の 15月間の 16日間の 16日間	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以
受業計画	1stQ 2ndQ 3rdQ	社会日間)を10日間)を10日間からの10日間からの20日間では、10	(の基本的なマナ 目安とする。 ()実習記録票, ま ()する。	•	翌報告会における§	発表等の内容を1	.00%として総合的に評価し, 60点以

	15週									
	16週									
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標										
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	票			到達レベル	授業週		
評価割合										
	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合語	Ħ		
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	10	0		
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	10	0		
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0			
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0			